香川大学キャンパスマスタープラン２０２２

Kagawa University Campus Master Plan 2022

令和５年３月改訂

香川大学

目　次

1．はじめに　・・・1

2．香川大学の理念・目標　・・・2

3．「キャンパスマスタープラン2016」
に基づく整備の検証　・・・3

4．施設の現状と課題　・・・6

5．キャンパスの基本方針・整備方針、キャンパス整備計画
5－1　キャンパスの基本方針・整備方針　・・・7
5－2　キャンパス整備計画　・・・8

6．キャンパス計画
6－1　幸町キャンパス
（1）キャンパス概要　・・・10
（2）ゾーニング計画　・・・12
（3）パブリックスペース・緑地計画　・・・13
（4）動線計画　・・・14
（5）キャンパス整備計画　・・・15

6－2　三木町医学部キャンパス
（1）キャンパス概要　・・・17
（2）ゾーニング計画　・・・19
（3）パブリックスペース・緑地計画　・・・20
（4）動線計画　・・・21
（5）キャンパス整備計画　・・・22
（6）医学部総合教育・研究棟整備計画　・・・23

6－3　林町キャンパス
（1）キャンパス概要　・・・25
（2）ゾーニング計画　・・・27
（3）パブリックスペース・緑地計画　・・・28
（4）動線計画　・・・29
（5）キャンパス整備計画　・・・30

６－４　三木町農学部キャンパス
（１）キャンパス概要　・・・32
（２）ゾーニング計画　・・・34
（３）パブリックスペース・緑地計画　・・・35
（４）動線計画　・・・36
（５）キャンパス整備計画　・・・37

６－５　附属学校園キャンパス
【１】番町キャンパス
（１）キャンパス概要　・・・39
（２）ゾーニング計画　・・・41
（３）パブリックスペース・緑地計画　・・・42
（４）動線計画　・・・43
（５）キャンパス整備計画　・・・44

【２】鹿角町キャンパス
（１）キャンパス概要　・・・46
（２）ゾーニング計画　・・・48
（３）パブリックスペース・緑地計画　・・・49
（４）動線計画　・・・50
（５）キャンパス整備計画　・・・51

【３】文京町幼キャンパス
（１）キャンパス概要　・・・53
（２）ゾーニング計画　・・・55
（３）パブリックスペース・緑地計画　・・・56
（４）動線計画　・・・57
（５）キャンパス整備計画　・・・58

【４】文京町キャンパス
（１）キャンパス概要　・・・60
（２）ゾーニング計画　・・・62
（３）パブリックスペース・緑地計画　・・・63
（４）動線計画　・・・64
（５）キャンパス整備計画　・・・65

【５】青葉町キャンパス
（１）キャンパス概要 ・・・67
（２）ゾーニング計画 ・・・69
（３）パブリックスペース・緑地計画 ・・・70
（４）動線計画 ・・・71
（５）キャンパス整備計画 ・・・72

【６】府中キャンパス
（１）キャンパス概要 ・・・74
（２）ゾーニング計画 ・・・76
（３）パブリックスペース・緑地計画 ・・・77
（４）動線計画 ・・・78
（５）キャンパス整備計画 ・・・79

７．その他（整備の方向性など）
イノベーション・コモンズとは ・・・80
香川大学が目指すイノベーション・コモンズ・・・81

８．学内関係規則、ホームページ、関係資料 ・・・82

はじめに

香川大学は、「持続可能な地方分散型社会の実現に貢献する人材の育成と研究の推進」をビジョンに掲げ、知の拠点として地域の活性化・魅力化に貢献することをミッションとし、50年先の将来世代が豊かに暮らすことができる社会の実現に向け教育研究活動を展開しています。

2016年度以降、「香川大学キャンパスマスタープラン2016」に基づき、医学部附属病院再開発や全学共用アクティブラーニング施設である総合教育棟（DRI棟）など、地域の活性化・魅力化に貢献するべく施設整備を推進してまいりました。

昨今、複雑で絶えず変化する地域課題の解決と新たな価値創出のため、大学中心の「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」の構築・推進が求められております。本学では2021年度に「組織」対「組織」の研究連携をマネジメントするオープンイノベーションのプラットフォームとして「イノベーションデザイン研究所」を設置し、新たな活動拠点を文部科学省の施設整備費補助金（地域・産業界との共創環境形成促進事業）に加え、産業界・地域・大学構成員からの寄附金など自己財源も活用して整備しました。今後、「知の拠点」である本学がイノベーション・コモンズとしての機能を発揮するには、老朽化が著しい教育研究施設の整備充実、機能強化など更なる整備が急務となっています。

「香川大学キャンパスマスタープラン2022」は、本学の魅力を高めながら、イノベーション・コモンズとしての機能を発揮し、地方への人の流れの促進や一層の地域活性化など地域課題の解決と新たな価値創出のため、本学の「第4期中期目標・中期計画（令和4～9年度）」及び文部科学省の「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画（令和３～７年度）」などに基づき策定しました。

国立大学法人の施設は創造性豊かな人材養成、独創的・先端的な学術研究の推進など国立大学の使命を果たすための基盤であり、その施設の整備充実を図っていくことは、我が国の未来を拓き、我が国を成長・発展へと導くものです。

本学においてもその使命を着実に果たし、世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を養成し、地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献するため、「香川大学キャンパスマスタープラン2022」に基づき大学基盤の整備に努めてまいります。

香川大学長　筧　善行

香川大学の理念・目標

○理念

世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を養成し、地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献する。

○目標

・教育

豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた課題探求能力を備え、国際的に活動できる人材を育成する。

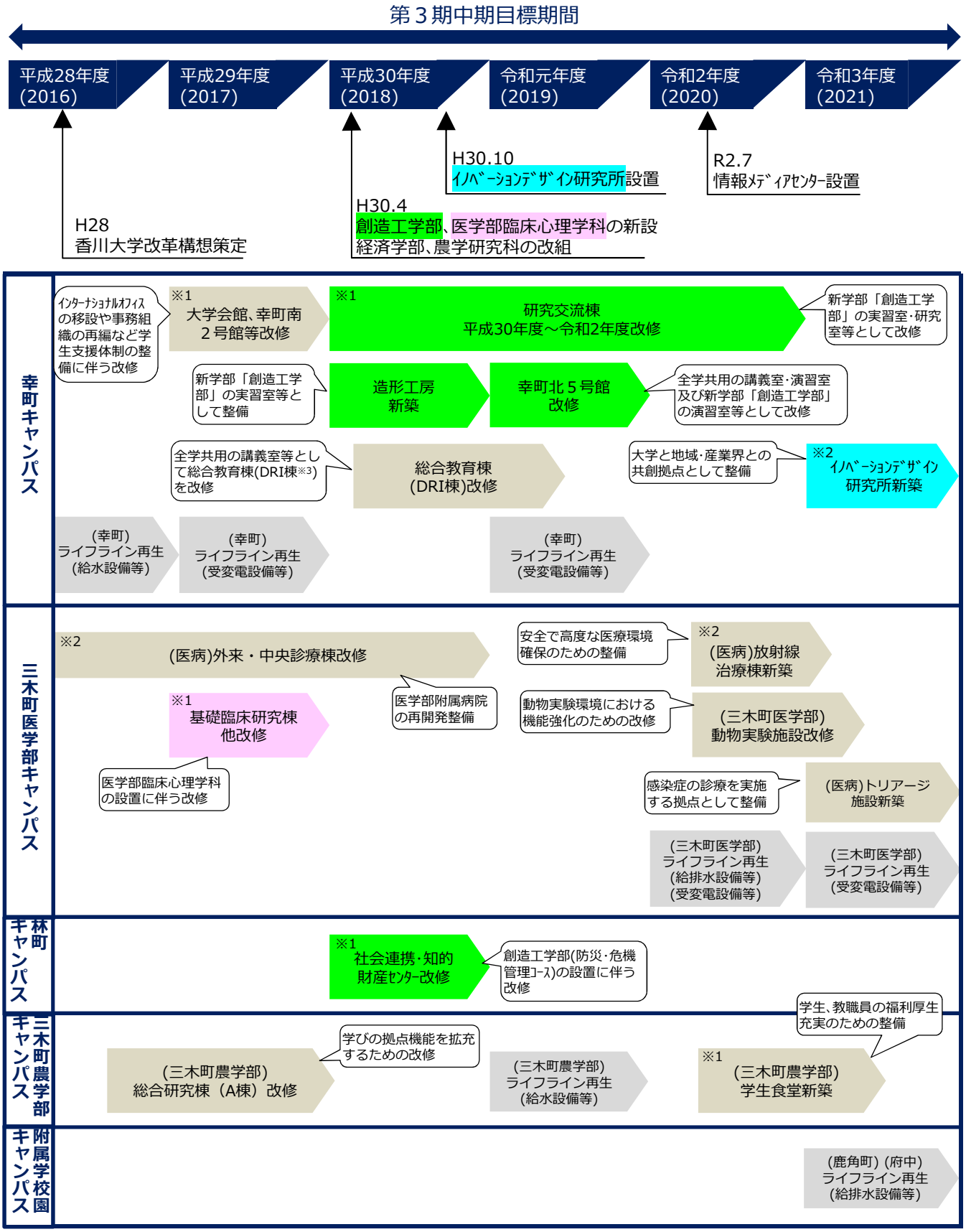
・研究

多様な価値観の融合から発想される創造的・革新的基礎研究の上に、特色ある研究を開花させ、社会の諸課題の解決に向けた応用的研究を展開する。

・地域貢献

「知」の源泉として、地域のニーズに応えるとともに、蓄積された研究成果をもとに、文化、産業、医療、生涯学習などの振興に寄与する。

「キャンパスマスタープラン2016」に基づく整備の検証



※1.自己財源による整備
※2.自己財源及び文部科学省の施設整備費補助金による整備
※3.「**DRI**教育」：新たな価値創造のための学士課程教育
・**D**esign thinking：イノベーションを創出する「デザイン思考」
・**R**isk management：レジリエンスやセキュリティ等に資する「リスクマネジメント」
・**I**nformatics：デジタル社会を生きるための「インフォマティクス」

「キャンパスマスタープラン2016」に基づく整備の検証

1．教育・研究機能の強化

研究交流棟改修、造形工房新築、幸町北5号館改修、基礎臨床研究等改修、社会連携・知的財産センター改修により新学部、新学科に必要な諸室を確保し、教育・研究機能を強化した。

新学科実習スペース
（研究交流棟）

新学科実習スペース
（造形工房）

新学科実習スペース
（北5号館）

総合教育棟(DRI棟)改修により全学共通のアクティブラーニングスペースを整備し、教育・研究機能を強化した。

総合教育棟(DRI棟)外観

全学共用講義室
（総合教育棟(DRI棟) ）

全学共用多目的室
（総合教育棟(DRI棟) ）

農学部総合研究棟（A棟）及び動物実験施設改修により学内共同利用研究施設を拡充し、研究機能を強化した。

全学共用研究室
(農学部総合研究棟(A棟))

全学共用多目的実験室
（動物実験施設）

全学共用飼育室
（動物実験施設）

2．地域貢献の推進及び産学官連携の強化

外来・中央診療棟改修、放射線治療棟新築、トリアージ施設新築により、地域貢献の推進を行った。

附属病院正面外観

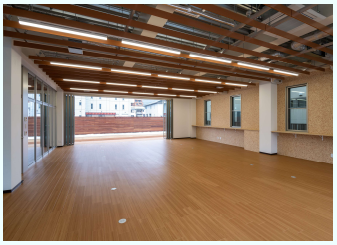
放射線治療棟

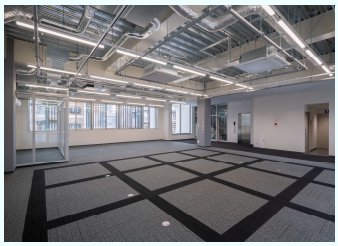
トリアージ施設

「キャンパスマスタープラン2016」に基づく整備の検証

イノベーションデザイン研究所新築により地域貢献の推進及び産学官連携の強化を行った。

イノベーションデザイン研究所外観


多目的(実証展示等)スペース
（イノベーションデザイン研究所）


共創環境スペース
（イノベーションデザイン研究所）

3．国際化の強化

大学会館、幸町南2号館等改修によりイングリッシュカフェ及びインターナショナルオフィスを整備し、国際化の強化を行った。

イングリッシュカフェ外観

イングリッシュカフェ内観

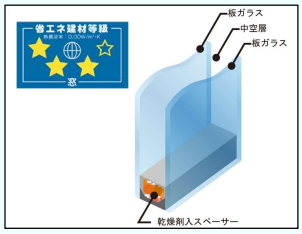
インターナショナルオフィス内観

4．地球環境問題への対応

エネルギー効率の高い照明器具及び空気調和設備への更新や断熱性能の高い複層ガラスを採用することで、省エネルギー化を推進した。

LED照明器具

空気調和設備更新



複層ガラス

5．キャンパス環境の充実

下表のとおり整備を行い、キャンパス環境の充実を図った。

(三木町農学部)学生食堂外観

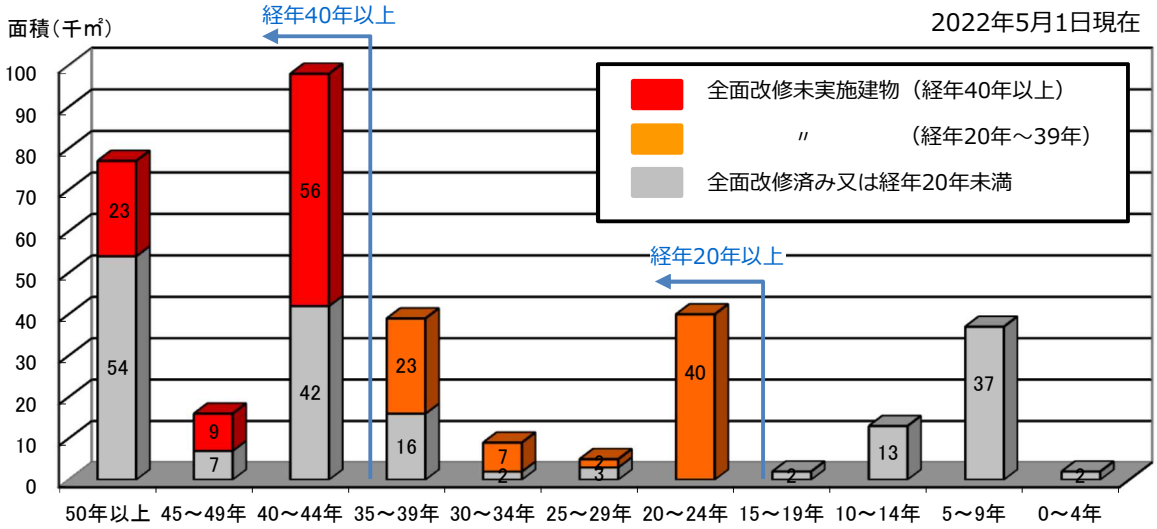
年度	事業名称
H28	（幸町）給水設備等更新
H29、R１	（幸町）電気設備更新
R１	（三木町農学部）給水設備等更新
R2	（三木町医学部）給水設備等更新
R2、R3	（三木町農学部）学生食堂新築
R2、R3	（三木町医学部）電気設備更新
R3	（鹿角町）給水設備等更新
R3	（府中）給水設備等更新

施設の現状と課題

■建物

本学が保有している建物は32.6万㎡であり、全面改修未実施建物のうち、経年40年以上が8.8万㎡（全体の約27%）、経年20～39年が7.2万㎡（全体の約22%）である。

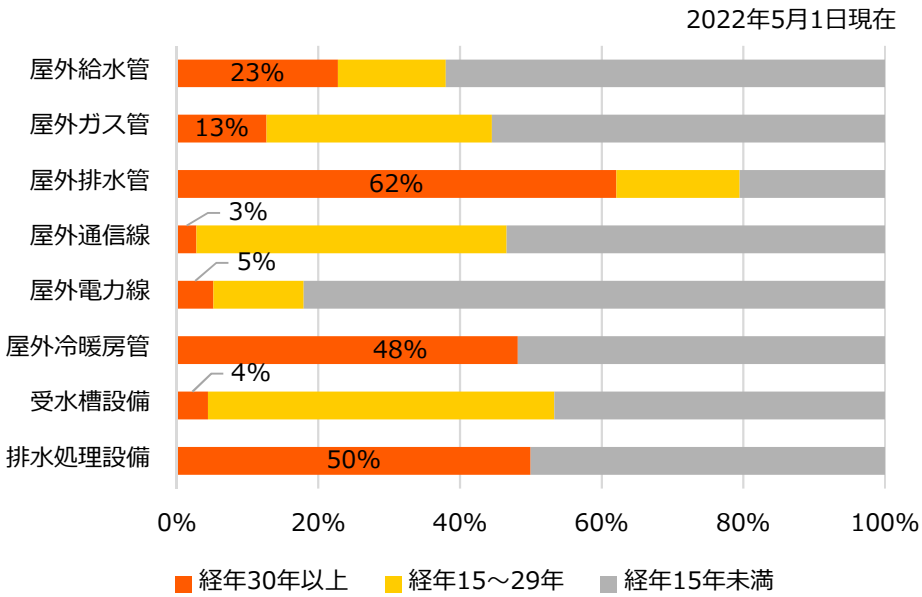
建物の老朽化に伴い、防水の劣化による漏水や外壁材剥落等の事故の危険性、機能不足による教育研究活動への影響、非効率な設備機器の使用による高額な光熱費等の課題が生じているため、建物の長寿命化に必要な全面改修時期である経年40年以上の建物について、計画的な整備が必要である。



■ライフライン

本学のライフラインは、各設備に経年30年以上のものがあり、特に屋外排水管、排水処理設備は経年30年以上の割合が50%を超えている。

ライフラインの老朽化に伴い、屋外配管等の劣化による事故の危険性、老朽設備の故障の修繕に係る維持管理コストの増加等の課題が生じていることから、事故発生率が大きく上昇する経年30年以上の屋外排水管、排水処理設備、屋外給水管、屋外冷暖房管等について、計画的な更新が必要である。



5－1．キャンパスの基本方針、整備方針

【キャンパスの基本方針】

本学の理念・目標、第４期中期目標・中期計画（令和４～９年度）、文部科学省にて策定した「第5次国立大学法人等施設整備５か年計画（令和３～７年度）」及び現状把握に基づき、下記のとおり基本方針を定める。

1．教育･研究機能の強化
2．地域貢献の推進及び産学官連携の強化
3．ダイバーシティ及び国際化の推進
4．地球環境問題への対応
5．キャンパス環境の充実

【整備方針】

1．教育・研究機能の強化
・幅広い教養を身に付けた人材の養成に資する共創拠点（イノベーション・コモンズ）の整備を行い、教育機能の強化を図る。
・イノベーションの創出につながる現実社会での実践に向けた研究開発推進に資する共創拠点の整備を行い、研究機能の強化を図る。

2．地域貢献の推進及び産学官連携の強化
・地方自治体や地域の産業界をリードするため共創拠点の整備を行い、地域貢献の推進及び産学官連携の強化を図る。

3．ダイバーシティ及び国際化の推進
・性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から多様性を高めるとともに、安心して学べる環境を提供するため、ダイバーシティに配慮した環境整備等を行う。
・多様性の理解を促すため、グローバル教育環境を拡充する。

4．地球環境問題への対応
・建物の省エネルギー性能の向上やZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の推進など、カーボンニュートラルに資する施設整備を図る。

5．キャンパス環境の充実
・香川大学インフラ長寿命化計画（個別施設計画）に基づき、老朽化建物及び老朽化設備の改善整備を図る。
・デジタルONE戦略に基づくDXの加速化のため、デジタル基盤の整備を図る。

5－2．キャンパス整備計画

番号 記号	主要な 団地名	事業名	概要	建築年 （内部改修年）	R4年度 4	R4年度 10	R5年度 4	R5年度 10	R6年度 4	R6年度 10	R7年度 4	R7年度 10	R8年度 4	R8年度 10	R9年度 4	R9年度 10
●全面改修																
①	幸町	情報メディアセンター改修 (南４・５号館)	R3･2(2,162㎡)	1973年 1974年	設計・工事											
②	府中	小学部校舎改修	R1(420㎡)	1978年	設計・工事											
③	幸町	総合教育棟改修 (北７号館･ＭＬ棟)	R3･2(992㎡)	1966年 1976年	設計・工事											
④	三木町 医学部	総合教育･研究棟改修(1期) (講義実習棟)	R3(3,624㎡)	1979年		計画	設計・工事									
⑤	三木町 医学部	総合教育･研究棟改修(2期) (講義実習棟)	R3(3,161㎡)	1979年				計画	設計・工事							
⑥	三木町 医学部	総合教育･研究棟改修(3期) (基礎臨床研究棟)	SR7(4,000㎡)	1981年						計画	設計・工事					
⑦	三木町 医学部	総合教育･研究棟改修(4期) (基礎臨床研究棟)	SR7(4,028㎡)	1981年								計画	設計・工事			
⑧	三木町 医学部	総合教育･研究棟改修(5期) (基礎臨床研究棟)	SR7(4,000㎡)	1981年										計画	設計・工事	
⑨	三木町 農学部	共創研究棟改修 (農産製造実習室)	R1(417㎡)	1983年				計画	設計・工事							
⑩	長尾町	生産物貯蔵室・調整室改修	R1(324㎡)	1972年				計画	設計・工事							
⑪	鹿角町	技術棟改修	R1(617㎡)	1974年				計画	設計・工事							
⑫	幸町	南６号館改修	R5(3,200㎡)	1982年 1986年						計画	設計・工事					
⑬	番町	高松園舎改修	R1(432㎡)	1977年						計画	設計・工事					
⑭	幸町	大学本部改修	R5(3,430㎡)	1969年等								計画	設計・工事			
⑮	幸町	講堂改修	R2(2,236㎡)	1982年								計画	設計・工事			
⑯	文京町	体育館改修	RS2(798㎡)	1972年								計画	設計・工事			
⑰	府中	体育館改修	RS1-1(591㎡)	1978年								計画	設計・工事			
⑱	三木町 医学部	食堂改修	R1(480㎡)	1981年										計画	設計・工事	
⑲	三木町 医学部	武道場改修	RS1(410㎡)	1984年										計画	設計・工事	
⑳	庵治町 高砂	庵治マリンステーション改修	R2(432㎡)	1973年										計画	設計・工事	
●部分改修																
Ⅰ	三木町 医学部	看護学科教育研究棟改修	R6(6,270㎡) (外壁･防水改修)	1998年 1999年	設計・工事											
Ⅱ	三木町 医学部	医学部会館改修	R2(1,287㎡) (防水改修)	1983年	設計・工事											
Ⅲ	幸町	幸町北5号館改修	R5(3,299㎡) (防水改修)	1967年等	設計・工事											
Ⅳ	幸町	幸町北6号館改修	R3(758㎡) (防水改修)	1971年	設計・工事											
Ⅴ	幸町	幸町北2号館改修	R3(3,181㎡) (防水改修)	1956年等		計画	設計・工事									
Ⅵ	幸町	第一体育館改修	RS2(1,341㎡) (屋根･内部改修)	1960年						計画	設計・工事					
Ⅶ	青葉町	教室改修	R4(3,312㎡) (外壁･内部改修)	1969年						計画	設計・工事					
Ⅷ	幸町	保健管理センター改修	R1(399㎡) (内部改修)	1968年 1976年								計画	設計・工事			
Ⅸ	三木町 医学部	臨床研究棟改修	R5(1,310㎡) (外壁･防水改修)	1992年								計画	設計・工事			
Ⅹ	青葉町	武道館改修	RS2(403㎡) (外壁･屋根改修)	1988年								計画	設計・工事			
Ⅺ	幸町	大学会館改修	R2(3,299㎡) (外壁・電気設備改修)	1967年等								計画	設計・工事			
Ⅻ	幸町	大学会館改修	R2(3,299㎡) (内部改修)	1967年等										計画	設計・工事	
XIII	幸町	武道場改修	S2(794㎡) (屋根･外部改修)	1970年										計画	設計・工事	
XIV	林町	空気調和設備更新			設計・工事											
●新増築																
α	三木町 医学部	DRI先端医学研究棟(仮称)	S3(1,000㎡)					計画	設計・工事							
β	三木町 医学部	（医病）放射線治療棟増築	R1(310㎡)									計画	設計・工事			
●ライフライン再生																
A	幸町	ライフライン再生 (給排水設備等更新)			設計・工事											
B	三木町 農学部	ライフライン再生 (排水設備等更新)				計画	設計・工事									
C	三木町 医学部	ライフライン再生 (排水設備更新１期)						計画	設計・工事							
D	三木町 医学部	ライフライン再生 (排水設備更新２期)								計画	設計・工事					
E	三木町 医学部	ライフライン再生 (排水設備更新３期)										計画	設計・工事			
F	三木町 医学部	（医病）ライフライン再生 (排水設備更新)												計画	設計・工事	
G	三木町 医学部	ライフライン再生 (排水処理施設改修１期)						計画	設計・工事							
H	三木町 医学部	ライフライン再生 (排水処理施設改修２期)								計画	設計・工事					
I	番町 文京町 青葉町 文京町幼	ライフライン再生 (給排水設備等更新)						計画	設計・工事							

※1.上記番号・記号は、要求の順位を示すものではない。
※2.上記計画は、第4期中期目標・中期計画及び香川大学インフラ長寿命化計画（個別施設計画）等に基づき作成している。
（ライフライン関連の計画は、第4期中期目標・中期計画期間内で経年30年を超えるものを更新する計画としている。）
※3.上記整備計画は、国の予算配分の状況や、大学の方針等により変更が生じる場合がある。

６－１．　幸町キャンパス

6－1．幸町キャンパス

（1）キャンパス概要

1）キャンパスの経緯

幸町キャンパスは、昭和24年、国立学校設置法施行により香川師範学校・香川青年師範学校を母体とした学芸学部及び高松経済専門学校を母体とした経済学部の２学部をもって発足した。昭和41年に学芸学部を教育学部に改称、昭和54年に大学院経済学研究科（修士課程）を設置、昭和56年に法学部を設置、昭和60年に大学院法学研究科（修士課程）を設置、平成4年に大学院教育学研究科（修士課程）を設置、平成16年に大学院地域マネジメント研究科を設置、令和4年に大学院創発科学研究科（修士課程）を設置し、現在に至っている。

2）キャンパス環境

①キャンパスの立地環境

幸町キャンパスは、香川県の県庁所在地である高松市市街地北部に位置し、近隣には小・中学校、高校及び図書館等があり文教地区を形成している。

本キャンパスは、四方を道路に囲まれており、東側の歩道付き市道（幅員8m）、北側の歩道付き市道（幅員15m）、西側の幅員4.1mの小さな市道、南側は県道高松丸亀線33号線（幅員14m）に面している。

本キャンパスは、市街地中心部の近くに位置してることや、周辺にはバス停及びＪＲ高徳線の昭和町駅が徒歩10分の場所にあること等から公共交通の利便性は良い。

なお、香川県全域は南海トラフ地震防災対策推進地域であり、また、この場所は香川県津波浸水想定区域でもある。

②敷地条件

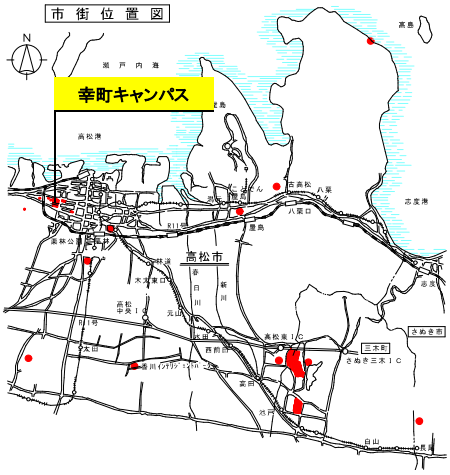
幸町キャンパスの敷地は、約250m×450mのほぼ長方形の形状をしており、道路により北と南に団地が分断されている。なお、主要アプローチは東側である。

敷地内の標高は2.1m、高低差は1.7m程度であり、敷地全体としてはほぼ平坦なものとなっている。また、敷地周辺部には緩衝帯としての緑地を設けている。

地質構成は、表層から30m程度までは粘土混じり砂礫からなる沖積層が分布しており、建物支持に必要なＮ値を得るためには中低層建物で15m程度、高層建物で30m程度の杭を必要とする。

敷地面積は116,200㎡、敷地内の建物延べ床面積は69,905㎡、建ぺい率23.7%、容積率60.2 %となっている。

都市計画上の用途地域は第二種中高層住居専用地域であり、建ぺい率60%、容積率200%が上限となっている。



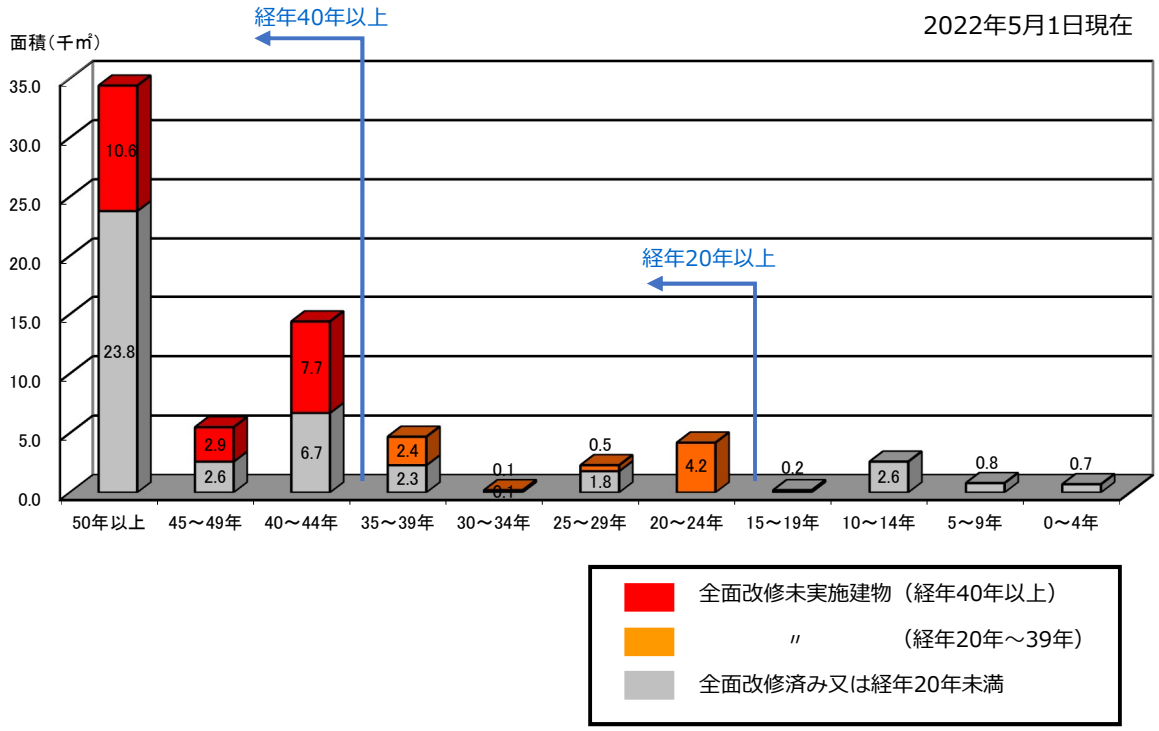
幸町キャンパス航空写真

6－1．幸町キャンパス

3）老朽化状況

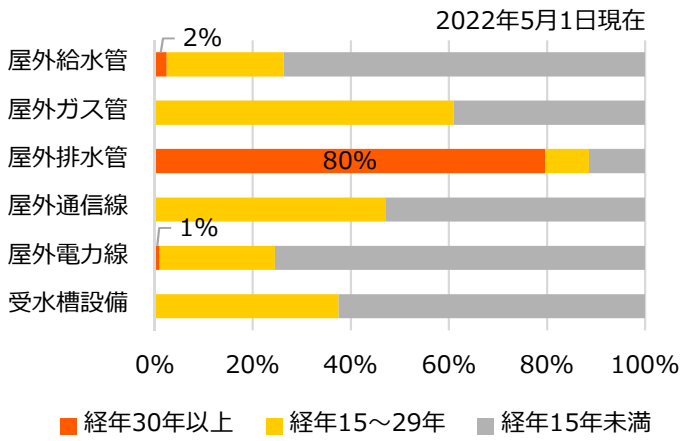
■建物

幸町キャンパスの建物は、全面改修未実施建物のうち、経年40年以上が約21,200㎡、経年20～39年が約7,200㎡である。建物の長寿命化に必要な全面改修時期である経年40年以上の建物について、計画的な整備が必要である。



■ライフライン

幸町キャンパスのライフラインは、事故発生率が大きく上昇する経年30年以上の屋外排水管等について、計画的な更新が必要である。



6－1．幸町キャンパス

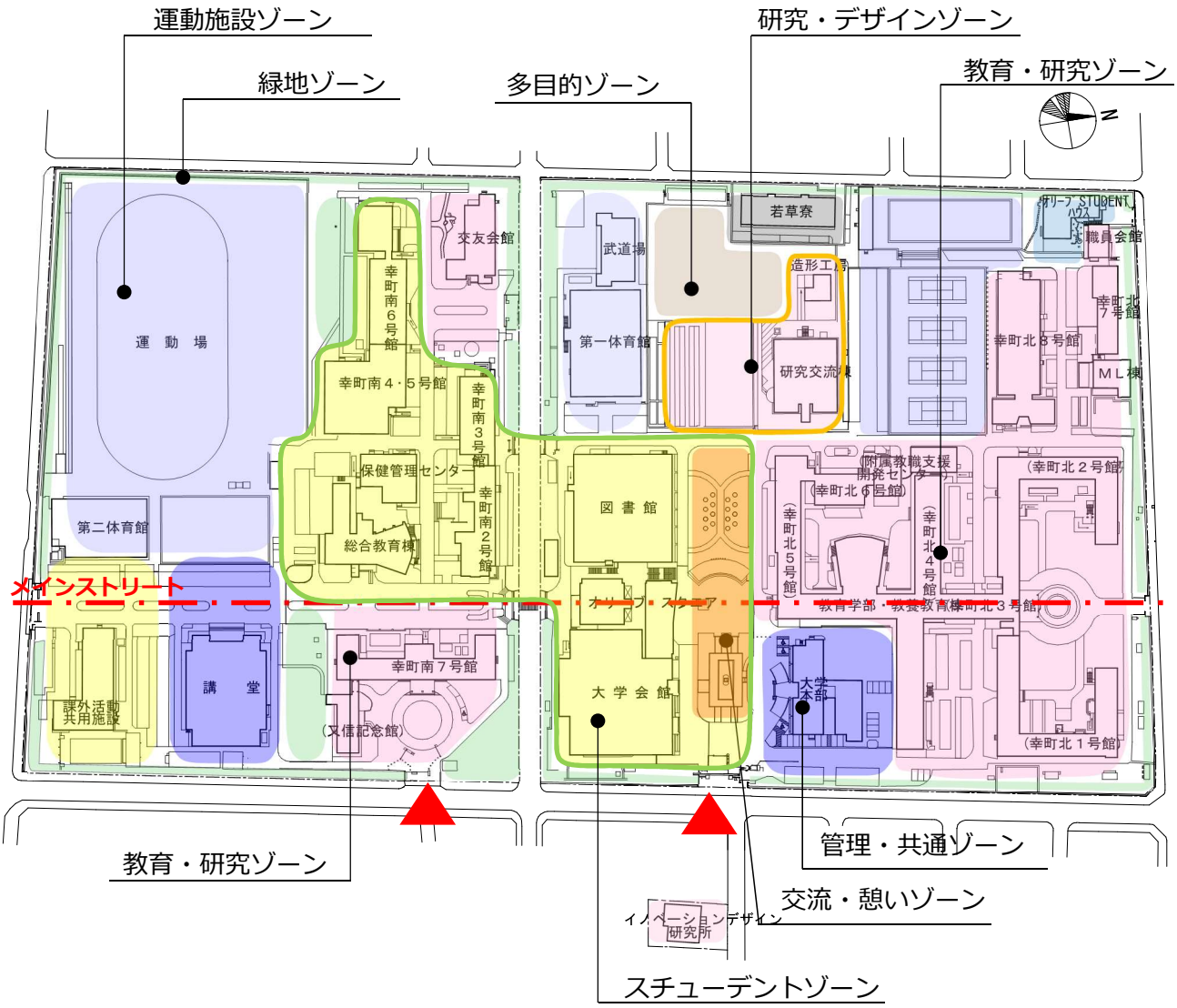
（2）ゾーニング計画

ゾーニングについては、既存の配置を見据えながら各ゾーンの現状・発展性・機能性等を考慮しつつ合理的な活用を図る計画とする。

本キャンパスの主要動線であるメインストリートと主要アプローチが交差するキャンパス中心部に、学生・教職員及び来学者等との交流の活性化、並びに利便性の向上のため『交流・憩いゾーン』及び『スチューデントゾーン』を設定し、それらのゾーンを中心に『教育・研究ゾーン』を設定する。

『教育・研究ゾーン』周辺に『運動施設ゾーン』、『管理・共通ゾーン』を設定し、キャンパス外周部には緩衝帯として『緑地ゾーン』を設定する。

また、地域活性化に貢献する人材養成拠点としての機能強化等に対応するための『研究・デザインゾーン』及び、将来計画に対応可能な『多目的ゾーン』を設定する。



凡例	名　称	凡例	名　称		
	教育・研究ゾーン		運動施設ゾーン		教育・研究ゾーンのうち、地域活性化に貢献する人材養成拠点としての機能強化等に対応する範囲 →研究・デザインゾーンとして定義する。
	福利厚生・学生ゾーン		緑地ゾーン		
	管理・共通ゾーン		居住ゾーン		福利厚生・学生ゾーンのうち、学生関係事務を集約し、図書館・大学会館等と関連付け整備する範囲 →スチューデントゾーンとして定義する。
	交流・憩いゾーン		多目的ゾーン		
		▲	主要アプローチ		

6－1．幸町キャンパス

（3）パブリックスペース・緑地計画

■現状の課題等

主にメインストリート周辺に、社会に開かれ、多様な利用者による交流・発信を促す知的交流拠点及び修学や研究活動を触発し活性化させる場としてのパブリックスペースが配置されている。

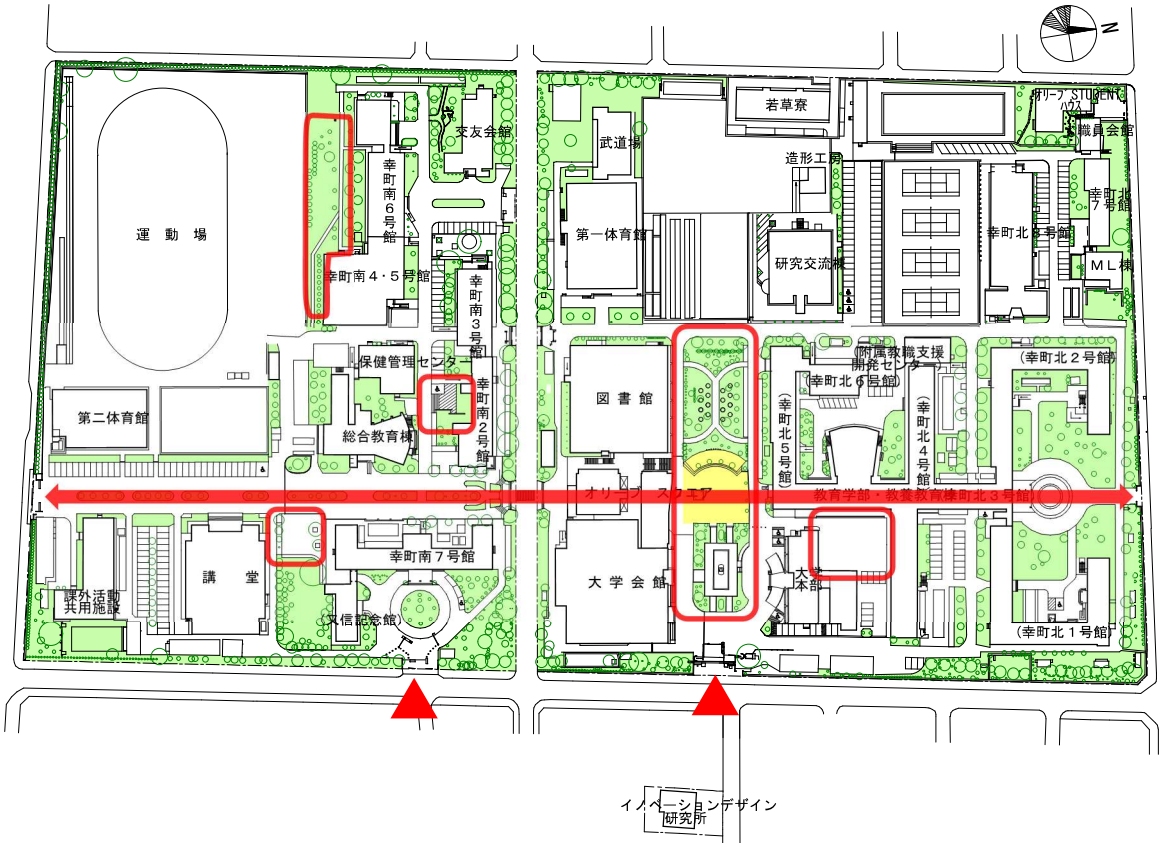
緑地はキャンパス外周部及びキャンパス内各所にバランス良く配置されている。

■課題解決の方向性

「アメニティ広場」と、隣接する池泉、図書館北の緑地を一体としたパブリックスペースにおいては、大学の顔としての普遍的なシンボル性を有する、「変えてはいけない部分（ゾーン）」として定義し、継続的に適切な維持管理を図る。

大学本部北側のパブリックスペースについては、多様な利用者による交流・発信や学生活動等の活性化を図るなど多目的に利用できる計画とする。

緑地については、既存緑地を生かし、地域の植生や町並みに配慮した整備を行い、快適な教育研究環境の形成を図る。



凡　例

⟷	歩行者主動線（メインストリート）		緑地
▭	パブリックスペース		アメニティ広場

6－1．幸町キャンパス

（4）動線計画

1）キャンパス動線

■現状の課題等

南北にメインストリートを配置しており、そこから歩行者副動線を介して各施設へアクセスする動線となっている。

メインストリート外周に車両動線を配置している。

■課題解決の方向性

継続して適切な維持管理を図る。

2）駐車・駐輪場

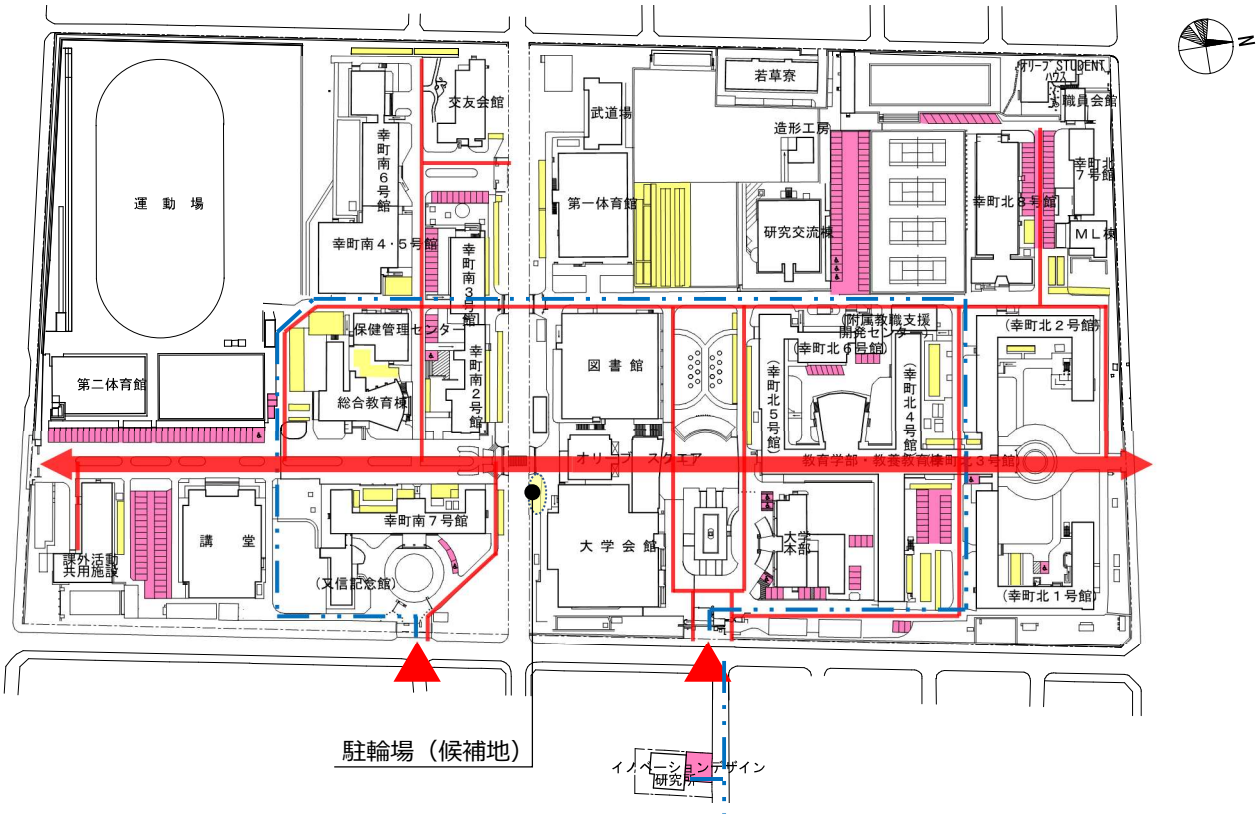
■現状の課題等

キャンパス内各所に駐車場が配置されている。

駐輪場は、校舎の近くに分散整備しており利便性は概ね良好であるが、大学会館周辺には駐輪場が整備されていないため、通路上へ駐輪され通行に支障をきたすことがある。

■課題解決の方向性

大学会館付近に駐輪場を整備し、通路上への駐輪を防ぎ、安全通路の確保を図る。



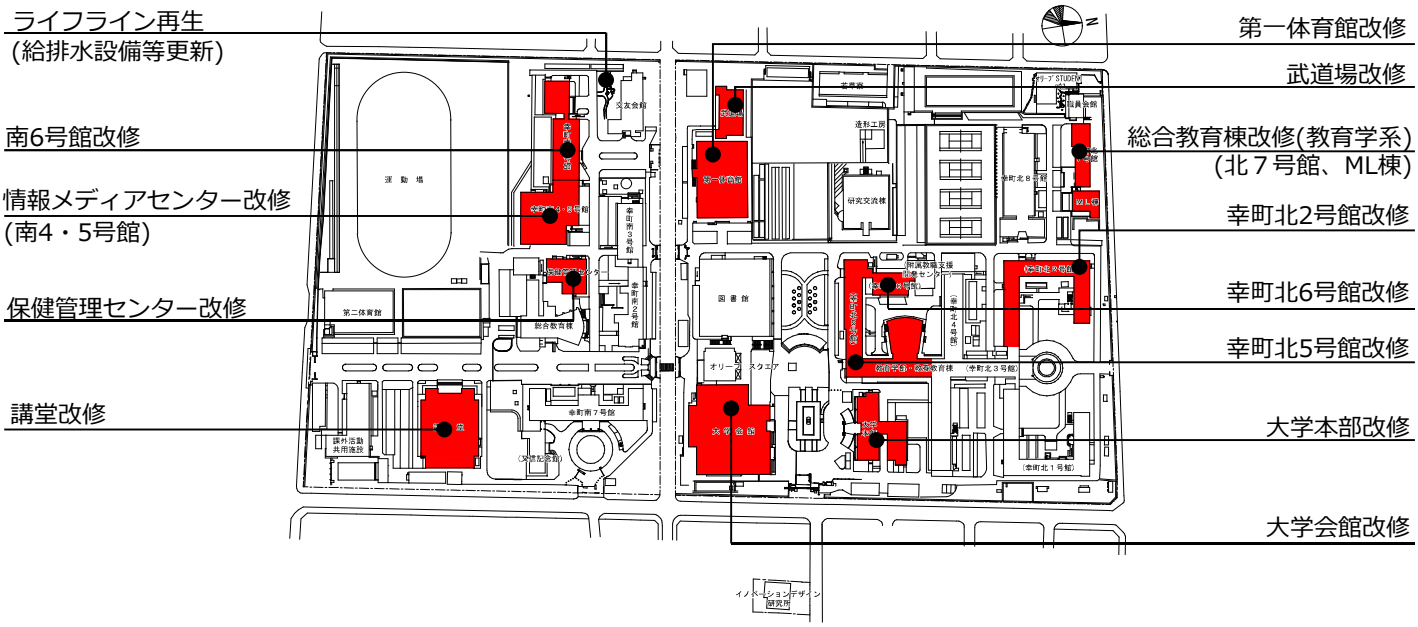
6－1．幸町キャンパス

（5）キャンパス整備計画

整備方針及び老朽化状況等を踏まえ、本キャンパスの整備計画は下表のとおりとする。

整備計画

事業名	概要	建築年	R4		R5		R6		R7		R8		R9	
			4	10	4	10	4	10	4	10	4	10	4	10
●全面改修														
情報メディアセンター改修 (南４・５号館)	R3･2(2,162㎡)	1973年 1974年												
総合教育棟改修（教育学系） (北７号館、ML棟)	R3･2(992㎡)	1966年 1976年												
南6号館改修	R5(3,200㎡)	1982年 1986年												
大学本部改修	R5(3,430㎡)	1969年等												
講堂改修	R2(2,236㎡)	1982年												
●部分改修														
幸町北5号館改修	R5(3,299㎡) (防水改修)	1967年等												
幸町北6号館改修	R3(758㎡) (防水改修)	1971年												
幸町北2号館改修	R3(3,181㎡) (防水改修)	1956年等												
第一体育館改修	RS2(1,341㎡) (屋根･内部改修)	1960年												
保健管理センター改修	R1(399㎡) (内部改修)	1968年 1976年												
大学会館	R2(3,299㎡) (外壁・電気設備改修)	1967年												
大学会館	R2(3,299㎡) (内部改修)	1967年												
武道場改修	S2(794㎡) (屋根･外部改修)	1970年												
●ライフライン再生														
ライフライン再生 (給排水設備等更新)														



６－２．　三木町医学部キャンパス

6－2．三木町医学部キャンパス

（1）キャンパス概要

1）キャンパスの経緯

三木町医学部キャンパスは、昭和53年に香川医科大学として開学、昭和58年に医学部附属病院を設置、昭和61年に大学院医学研究科（博士課程）を設置、平成12年に大学院医学系研究科（修士課程）を設置、平成15年に旧香川大学（昭和24年設置）と旧香川医科大学が統合し、新しい香川大学として開学し、現在に至っている。

2）キャンパス環境

①キャンパスの立地環境

三木町医学部キャンパスは、高松市に隣接する木田郡三木町にある。高松市に位置する幸町キャンパスから南東へ約10kmの位置にあり、周辺は田園と住居地域である。

キャンパスは西側の歩道付き県道（幅員7.0m）及び北側の一部は歩道付き国道（国道11号線）に面しており、国道からは高速道路へのアクセスも可能である。

本キャンパスは、高松市市街地から9km程度離れており、高松琴平電鉄の高田駅からバスで５分、高松駅からバスで50分の場所にあるが便数が少なく、公共交通の利便性は良くない。

なお、香川県全域は南海トラフ地震防災対策推進地域であり、この場所も該当する。

②敷地条件

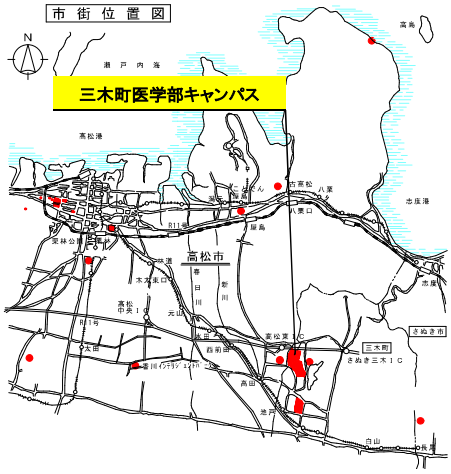
三木町医学部キャンパスの敷地は、約200～420m×870mの南北を軸とするひょうたんの形状をしており、主要アプローチは西側である。また東側の中央には町道への出入口があり、北側には国道への出入口がある。

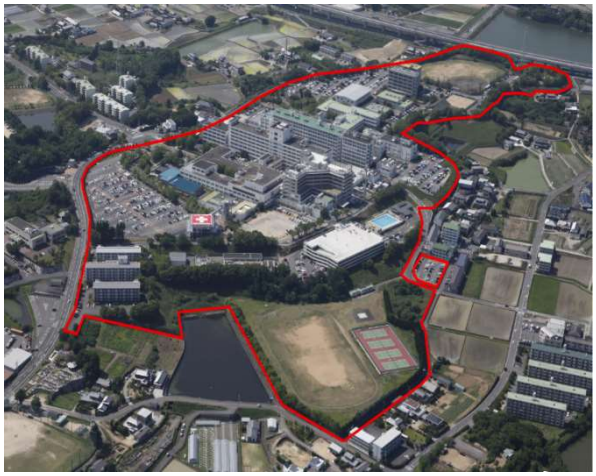
敷地内の標高は41.2m、高低差は全体として22m程度である。丘陵地を造成した敷地であるため、主要建物が配置されている大部分はほぼ平坦となっている。敷地周辺部は傾斜地であり、緩衝帯としての緑地を設けている。

地質構成は、6～9m程度までは盛土で、建物支持に必要なＮ値を得るためには、7～14m程度の杭又は地盤改良を必要とする。

敷地面積は227,852㎡、敷地内の建物延べ床面積は132,960㎡、建ぺい率19.2%、容積率58.4%となっている。

都市計画上の用途地域は無指定であり、建ぺい率70%、容積率200%が上限となっている。また、本キャンパスの一部は周知の埋蔵文化財包蔵地となっている。





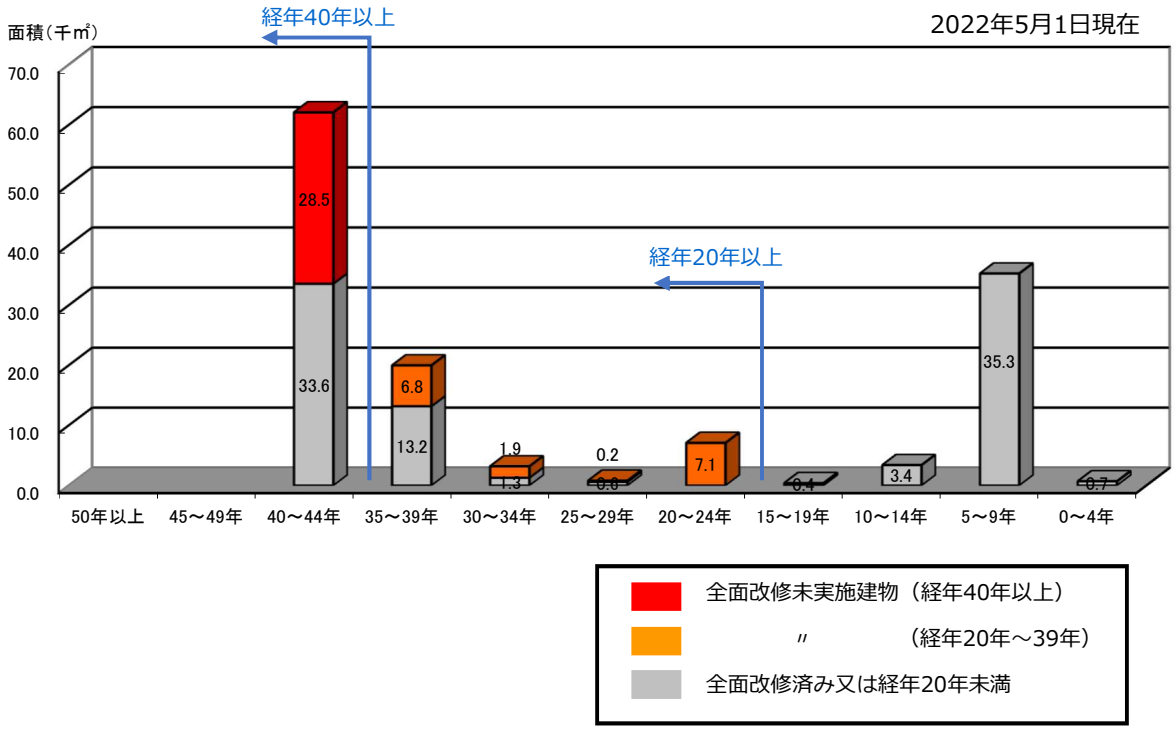
三木町医学部キャンパス航空写真

6－2．三木町医学部キャンパス

3）老朽化状況

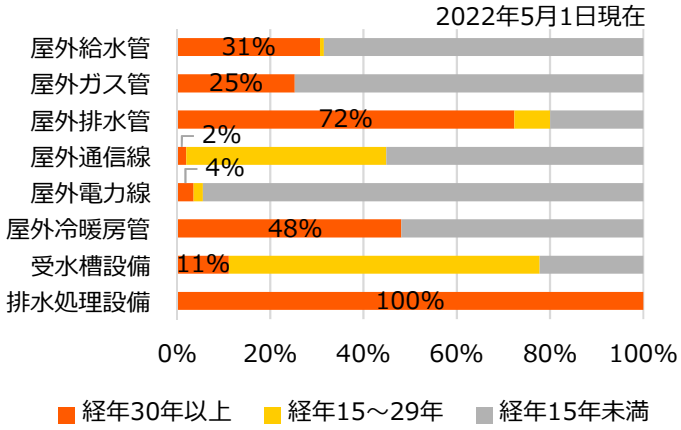
■建物

三木町医学部キャンパスの建物は、全面改修未実施建物のうち、経年40年以上が約28,500㎡、経年20～39年が約16,000㎡である。建物の長寿命化に必要な全面改修時期である経年40年以上の建物について、計画的な整備が必要である。



■ライフライン

三木町医学部キャンパスのライフラインは、事故発生率が大きく上昇する経年30年以上の屋外給水管・屋外ガス管・屋外排水管・屋外冷暖房管・排水処理設備等について、計画的な更新が必要である。



6－2．三木町医学部キャンパス

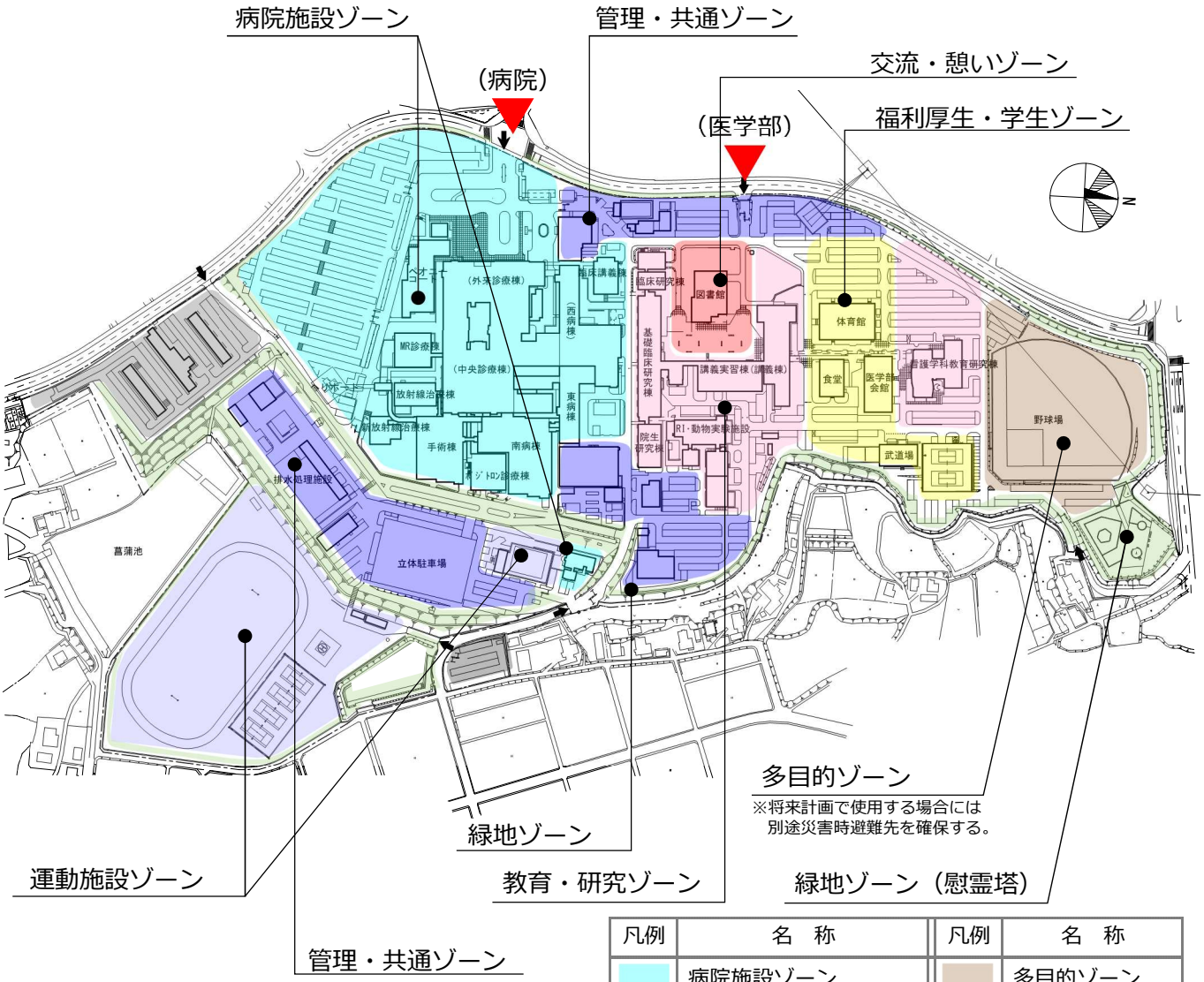
（2）ゾーニング計画

ゾーニングについては、既存の配置を見据えながら各ゾーンの現状・発展性・機能性を考慮しつつ合理的な活用を図る計画とする。

本キャンパスは、現在大きく北側に医学部、南側に附属病院を有し、互いに有機的に繋がっており、それらの既存配置を踏まえたゾーニングとする。

医学部については、主要アプローチから近い位置に学生・教職員及び来学者等との交流の活性化を図る『交流・憩いゾーン』を設定し、『福利施設・学生ゾーン』を中心に『教育・研究ゾーン』を設定する。キャンパス南側は、高度な医療の提供並びに医学の教育・研究を推進し医療の発展に寄与するための『病院施設ゾーン』に設定する。

また、『教育・研究ゾーン』、『病院施設ゾーン』等の周辺に『管理・共通ゾーン』及び『運動施設ゾーン』、キャンパス北側に将来計画に対応可能な『多目的ゾーン』、キャンパス西側には民家との緩衝帯として『緑地ゾーン』を設定する。



凡例	名　称	凡例	名　称
	病院施設ゾーン		多目的ゾーン
	教育・研究ゾーン		運動施設ゾーン
	福利厚生・学生ゾーン		緑地ゾーン
	管理・共通ゾーン		居住ゾーン
	交流・憩いゾーン	▲	主要アプローチ

6－2．三木町医学部キャンパス

（3）パブリックスペース・緑地計画

■現状の課題等

医学部側メインストリートに隣接した位置に、緑地及び広場からなるパブリックスペースが配置されている。

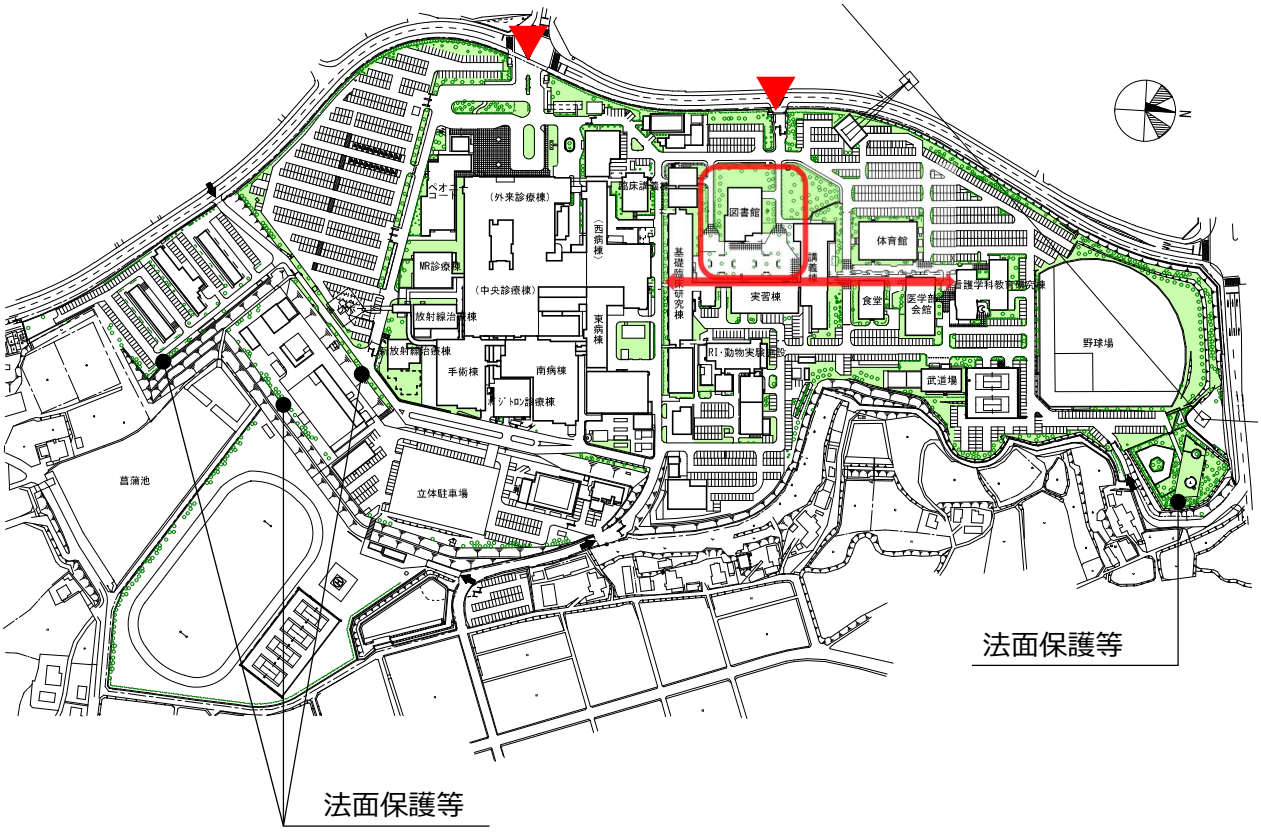
敷地内には、バランス良く緑地が配置されている。ただし、敷地内に高低差があり法面の緑地管理面積が大きい。

■課題解決の方向性

社会に開かれ多様な利用者による交流・発信を促す知的交流拠点及び修学や研究活動を触発し活性化させる場としてパブリックスペースの適切な維持管理を図る。

緑地については、既存の配置を生かし適切な維持管理を行い、快適な医療及び教育研究環境の形成を図る。

敷地内の法面に関しては、グラウンドカバープランツによる法面保護等を行うことで雑草を抑制し、管理コスト低減及び安全性の確保を図る。



凡　例

歩行者主動線（メインストリート）　緑地

パブリックスペース

6－2．三木町医学部キャンパス

（4）動線計画

1）キャンパス動線

■現状の課題等

医学部内の南北軸（基礎臨床研究棟－看護学科教育研究棟）にメインストリートが配置されている。医学部主要建物を貫く様に整備されいる。

車両動線は外周部に配置されている。

■課題解決の方向性

継続して適切な維持管理を図る。

2）駐車・駐輪場

■現状の課題等

駐車場については、病院南側に外来患者用駐車場、医学部周辺部に学生・教職員用の駐車場が配置されているが、舗装や路面標示の劣化が進んでいる。

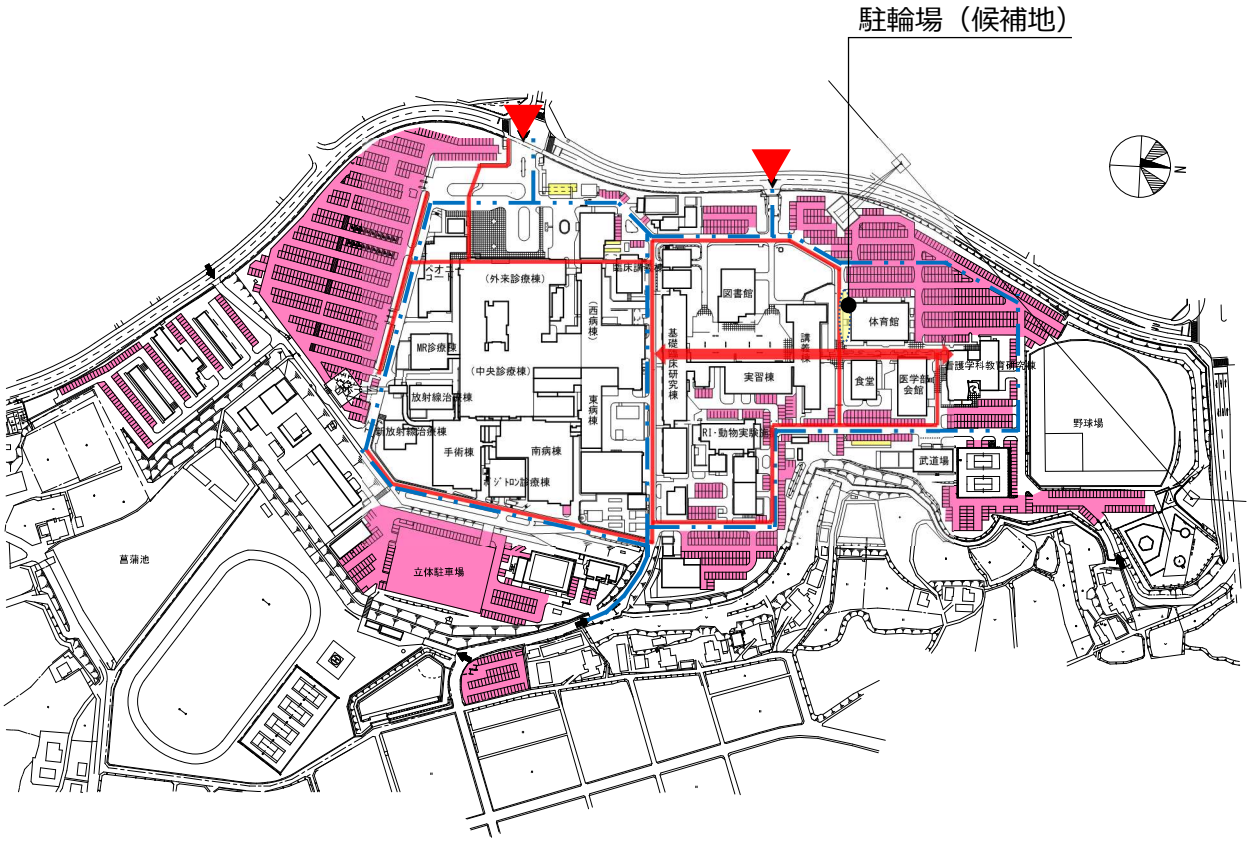
病院用駐輪場は主要アプローチ付近に整備されており、利便性は良い。

医学部側駐輪場は主要建物付近に配置しており、利便性は良いが、一部駐輪台数が多く駐輪場からあふれて通路に駐輪している。

■課題解決の方向性

駐車場の舗装や路面標示の適切な維持管理を行い、良好な駐車場環境の確保を図る。

体育館南側に駐輪場を整備し、通路上への駐輪を防ぎ、安全通路の確保を図る。



凡　例

⟷	歩行者主動線（メインストリート）		駐車場
――	歩行者副動線		駐輪場
—·—·—	車両動線		

6－2．三木町医学部キャンパス

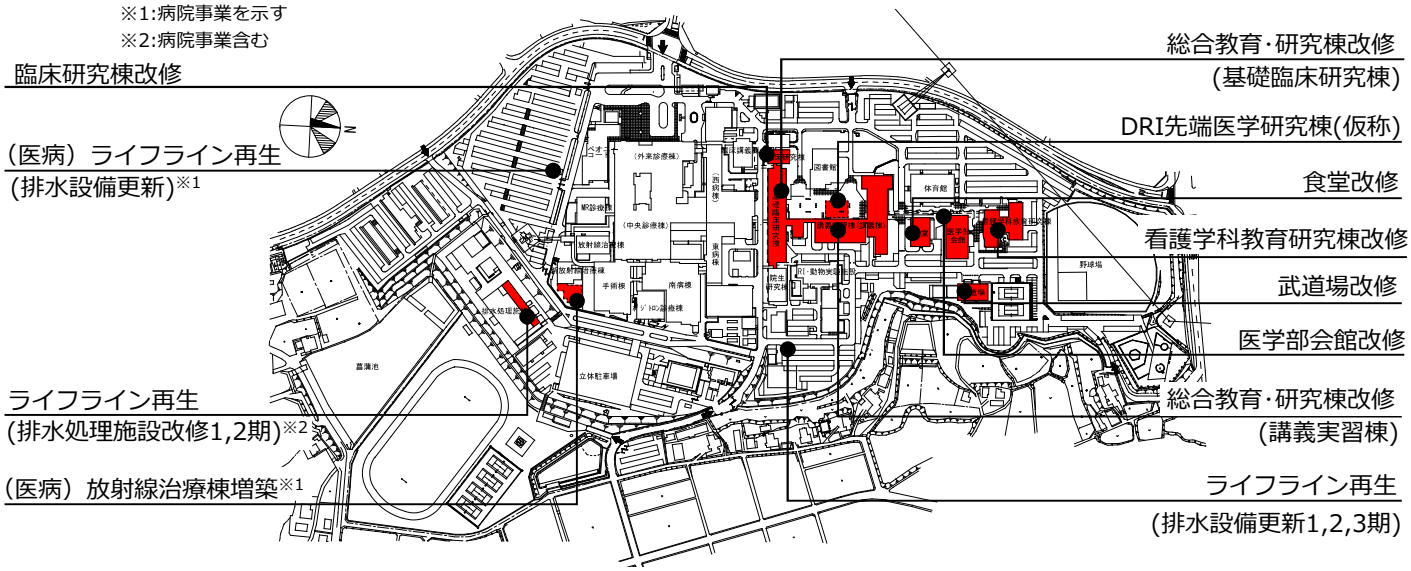
（5）キャンパス整備計画

整備方針及び老朽化状況等を踏まえ、本キャンパスの整備計画は下表のとおりとする。

整備計画

事業名	概要	建築年	R4		R5		R6		R7		R8		R9	
			4	10	4	10	4	10	4	10	4	10	4	10
●全面改修														
総合教育･研究棟改修(1期) (講義実習棟)	R3(3,624㎡)	1979年												
総合教育･研究棟改修(2期) (講義実習棟)	R3(3,161㎡)	1979年												
総合教育･研究棟改修(3期) (基礎臨床研究棟)	SR7(4,000㎡)	1981年												
総合教育･研究棟改修(4期) (基礎臨床研究棟)	SR7(4,028㎡)	1981年												
総合教育･研究棟改修(5期) (基礎臨床研究棟)	SR7(4,000㎡)	1981年												
食堂改修	R1(480㎡)	1981年												
武道場改修	RS1(410㎡)	1984年												
●部分改修														
看護学科教育研究棟改修	R6(6,270㎡) (外壁･防水改修)	1998年												
医学部会館改修	R2(1,287㎡) (防水改修)	1983年												
臨床研究棟	R5(1,310㎡) (外壁･防水改修)	1992年												
●新増築														
DRI先端医学研究棟(仮称)	S3(1,000㎡)													
(医病)放射線治療棟増築※1	R1(310㎡)													
●ライフライン再生														
ライフライン再生 (排水設備更新１期)														
ライフライン再生 (排水設備更新２期)														
ライフライン再生 (排水設備更新３期)														
(医病)ライフライン再生 (排水設備更新)※1														
ライフライン再生 (排水処理施設改修１期)※2														
ライフライン再生 (排水処理施設改修２期)※2														

※1:病院事業を示す
※2:病院事業含む



6－2．三木町医学部キャンパス

（6）医学部総合教育・研究棟整備計画

老朽化の著しい講義実習棟、基礎臨床研究棟、院生研究棟を、高度化する教育・研究活動に対応可能な総合教育・研究棟として一体的な老朽改善・機能強化を実施し、共創拠点（イノベーション・コモンズ）化を以下の各カテゴリーに示す多様な観点から推進する。

世界をリードする最先端研究の推進

- ◆共創の場として学部間・産学官連携を推進し、全学の教育研究力の強化に資する**先鋭的研究拠点の構築**
- ◆デジタルONE戦略を基盤とした**デジタルトランスフォーメーション（DX）の加速化**による施設基盤の強化
- ◆医療・ヘルス・バイオ分野における、地域の科学技術発展と産業・文化の振興に寄与する**共創活動拠点**
- ◆**DRI先端医学研究棟(仮称)の整備**

産業界との共創による地域産業振興等への貢献

- ◆研究分野横断型のオープンラボを設置し、産学官の多様な専門分野の研究者が協働でイノベーションを創出できる環境を整備することによる地域産業振興に資する**研究拠点機能の強化**

社会課題の解決への貢献

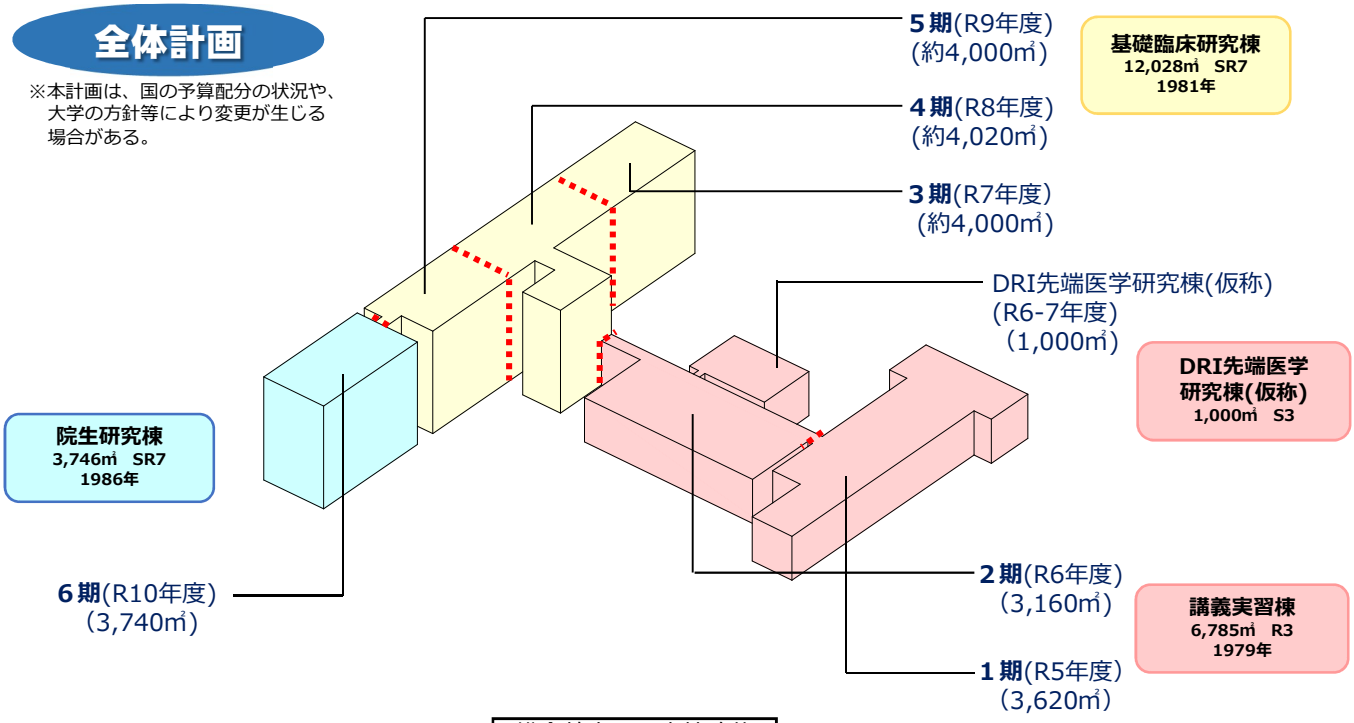
- ◆最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することによる持続可能な**地域医療体制の構築への寄与**
- ◆カーボンニュートラル社会に向けた取り組みや、ダイバーシティに配慮した**施設整備の推進**

教育機関等との共創による人材育成等の推進

- ◆オンライン教育やシミュレーション教育等による課題解決能力を有する**高度専門医療人材の養成**
- ◆県内の**地域医療水準向上に資する人材育成**
- ◆香川県内医療系３大学連携による地域に密着した高度な**総合医療人材の養成**
- ◆中国四国地方のがん医療を担う質の高い**がん専門医等の養成**
- ◆中四国４大学を掛け合わせた**「多地域共創型」医学教育モデルの構築**による医師の養成
- ◆災害時や非常時における**防災・危機管理に関する医療人材の育成**

全体計画

※本計画は、国の予算配分の状況や、大学の方針等により変更が生じる場合がある。



６－３．　林町キャンパス

6－3．林町キャンパス

（1）キャンパス概要

1）キャンパスの経緯

林町キャンパスは、平成９年に工学部設置後の平成12年に新キャンパスとして開設、平成14年に大学院工学研究科（修士課程）を設置、平成16年に大学院工学研究科（博士課程）を設置、平成30年に創造工学部を設置、令和4年に大学院創発科学研究科（修士課程）を設置し、現在に至っている。

2）キャンパス環境

①キャンパスの立地環境

林町キャンパスは、高松市に位置する幸町キャンパスから南へ約7kmの位置にあり、周辺は田園と住居地域である。

キャンパスは北側の歩道付き県道（幅員15.7m）及び南側の歩道付き市道（幅員6.6m）に面している。

本キャンパスは、高松市市街地から6km程度離れており、高松琴平電鉄の太田駅から徒歩約30分の場所にあることや、キャンパス前にバス停はあるが便数が少ないことから、公共交通の利便性は良くない。

なお、香川県全域は南海トラフ地震防災対策推進地域であり、この場所も該当する。

②敷地条件

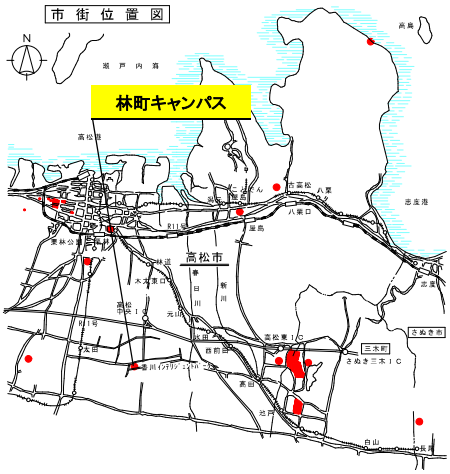
林町キャンパスの敷地は、東西に細長く、約110×400mの長方形の形状をしており、主要アプローチは北側である。

敷地内の標高は21.6m、高低差は全体として3.3m程度であるが、敷地全体としてはほぼ平坦なものとなっている。

地質構成は、15m程度までは粘性土、砂質土、砂礫土が交互に分布する沖積層の地盤であり、深度5mまでの各層は層厚が非常に薄く、建物支持に必要なＮ値を得るためには中低層建物で5m程度、高層建物では17～30mの洪積層を支持層とする杭を必要とする。

敷地面積は46,568㎡、敷地内の建物延べ床面積は30,365㎡、建ぺい率15.5%、容積率65.2%となっている。

都市計画上の用途地域は第二種住居地域であり、建ぺい率60%、容積率200%が上限となっている。また、本キャンパスの一部は周知の埋蔵文化財包蔵地となっている。



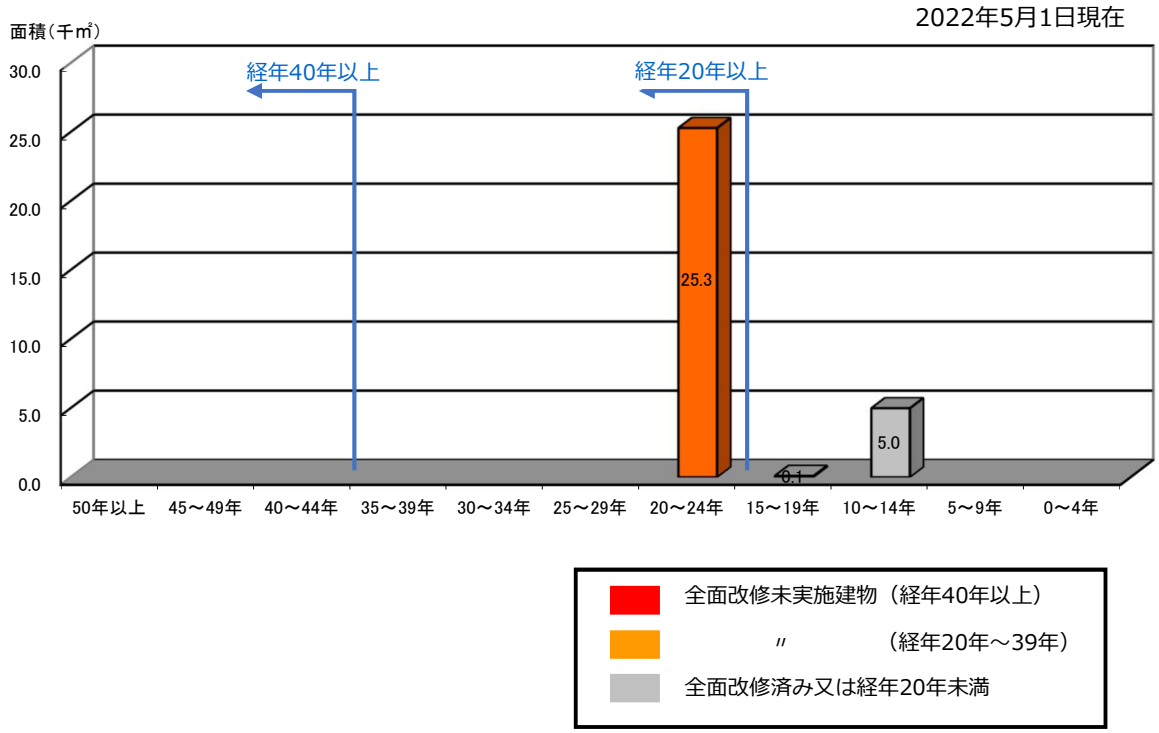
林町キャンパス航空写真

6－3．林町キャンパス

3）老朽化状況

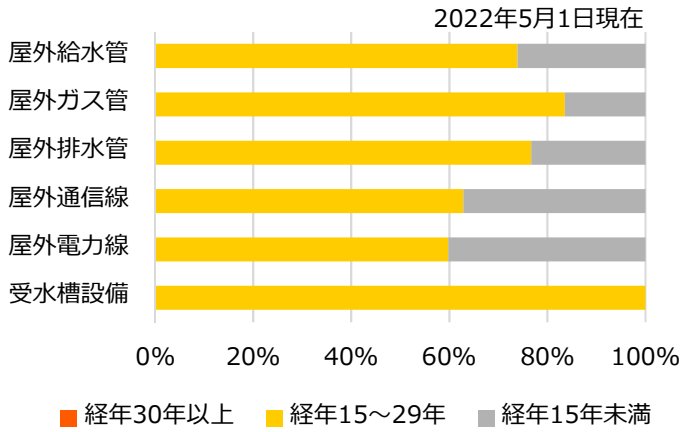
■建物

林町キャンパスの建物は、全面改修未実施建物のうち、経年20～39年が約25,300㎡である。建物の長寿命化に必要な全面改修時期である経年40年以上の建物はないが、計画的な維持管理が必要である。



■ライフライン

林町キャンパスのライフラインは、事故発生率が大きく上昇する経年30年以上のライフラインはないが、計画的な維持管理が必要である。

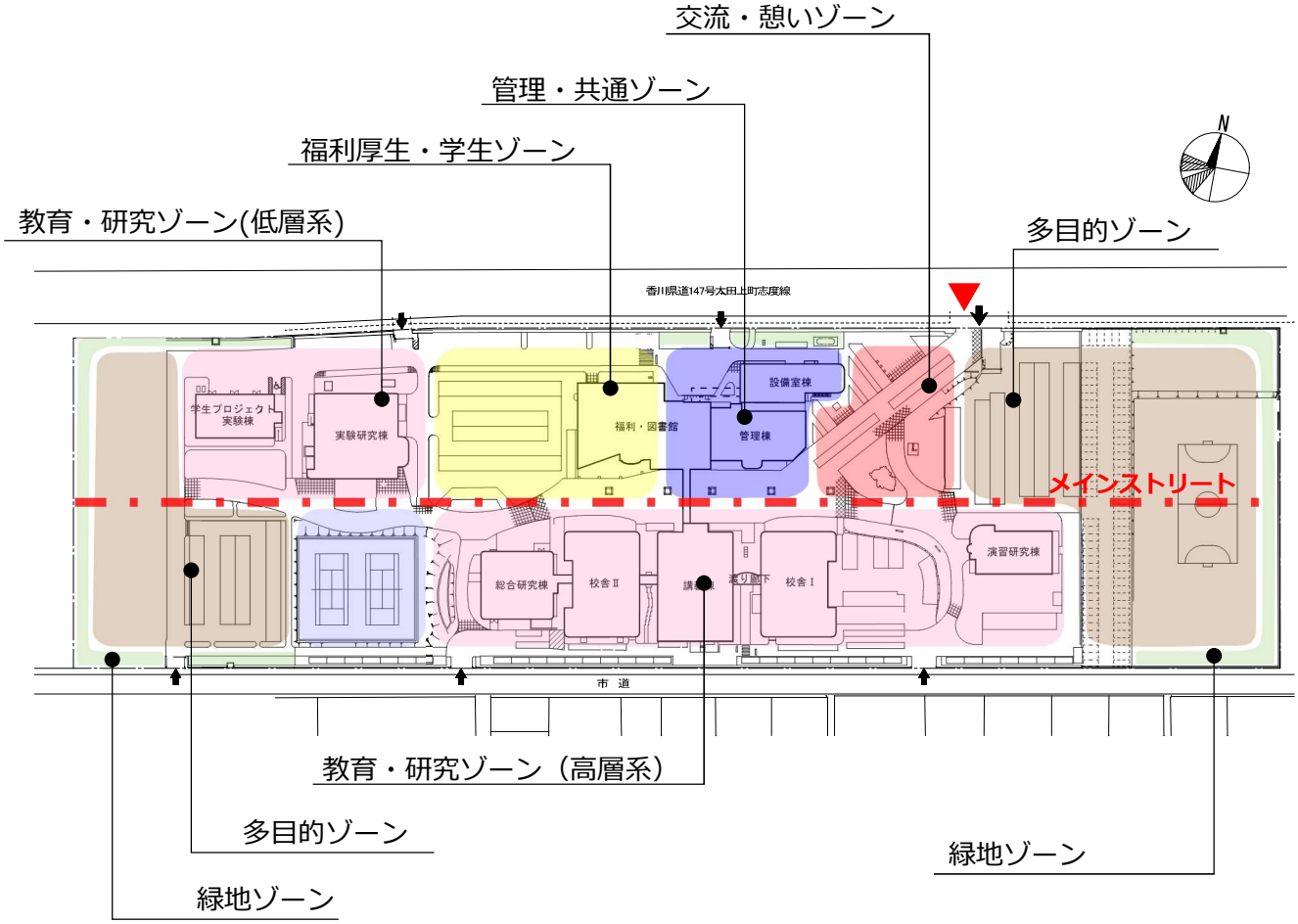


6－3．林町キャンパス

（2）ゾーニング計画

ゾーニングについては、既存の配置を見据えながら各ゾーンの現状・発展性・機能性等を考慮しつつ合理的な活用を図る。

本キャンパスの主要アプローチからメインストリートに沿って、学生・教職員及び来学者等との交流の活性化、並びに利便性を図る『交流・憩いゾーン』、『管理・共通ゾーン』及び『福利厚生・学生ゾーン』を設定し、キャンパス外周部には緩衝帯として『緑地ゾーン』を設定する。また、メインストリートを軸にし、北側に低層系、南側に高層系の『教育・研究ゾーン』を設定し、その周囲に将来計画に対応可能な『多目的ゾーン』を設定する。



凡例	名　称	凡例	名　称
	教育・研究ゾーン		運動施設ゾーン
	福利厚生・学生ゾーン		緑地ゾーン
	管理・共通ゾーン		多目的ゾーン
	交流・憩いゾーン	▲	主要アプローチ

6－3．林町キャンパス

（3）パブリックスペース・緑地計画

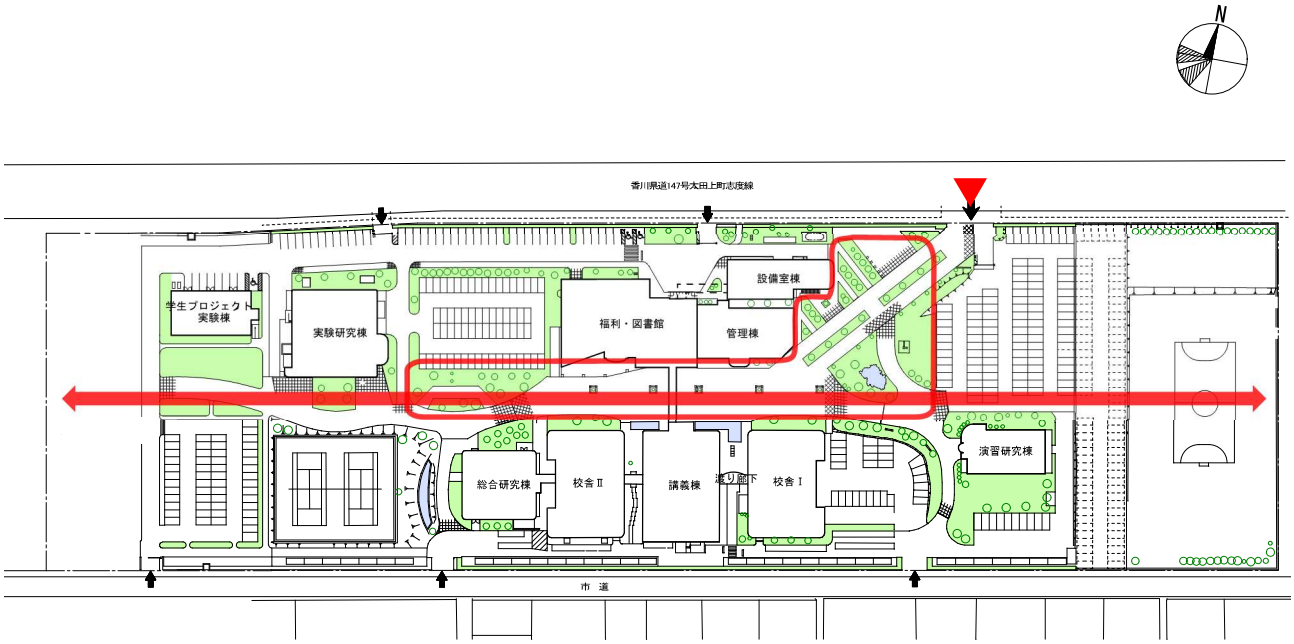
■現状の課題等

主要アプローチからメインストリートにかけて、社会に開かれ、多様な利用者による交流・発信を促す、知的交流拠点として、また、修学や研究活動を触発し活性化させる場として、広場や緑地を含むパブリックスペースが配置されている。

緑地はキャンパス内各所にバランス良く配置されている。

■課題解決の方向性

継続して適切な維持管理を図る。



凡　例

歩行者主動線（メインストリート）	緑地
パブリックスペース	

6－3．林町キャンパス

（4）動線計画

1）キャンパス動線

■現状の課題等

東西に一本メインストリートが通っており、各棟のアクセスは良好である。キャンパス北側県道からの主要アプローチ及び南側市道からのアプローチは歩車道が分離され、メインストリートへ接続されている。

キャンパス内についても、歩車道が分離され安全性が確保されている。

■課題解決の方向性

継続して適切な維持管理を図る。

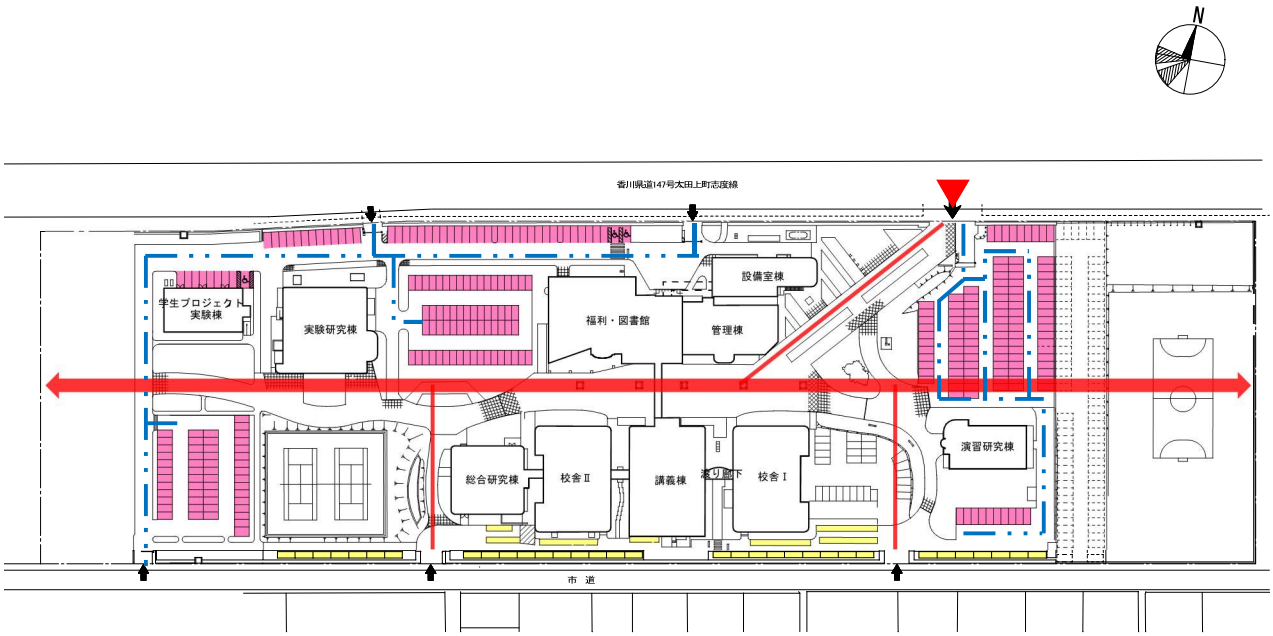
2）駐車・駐輪場

■現状の課題等

駐車場は外部からアプローチを考慮し、外周部に整備されている。
駐輪場については、校舎エリア南側に分散配置されている。

■課題解決の方向性

継続して適切な維持管理を図る。



凡　例

⟷	歩行者主動線（メインストリート）	■	駐車場
―	歩行者副動線	■	駐輪場
—・・—	車両動線		

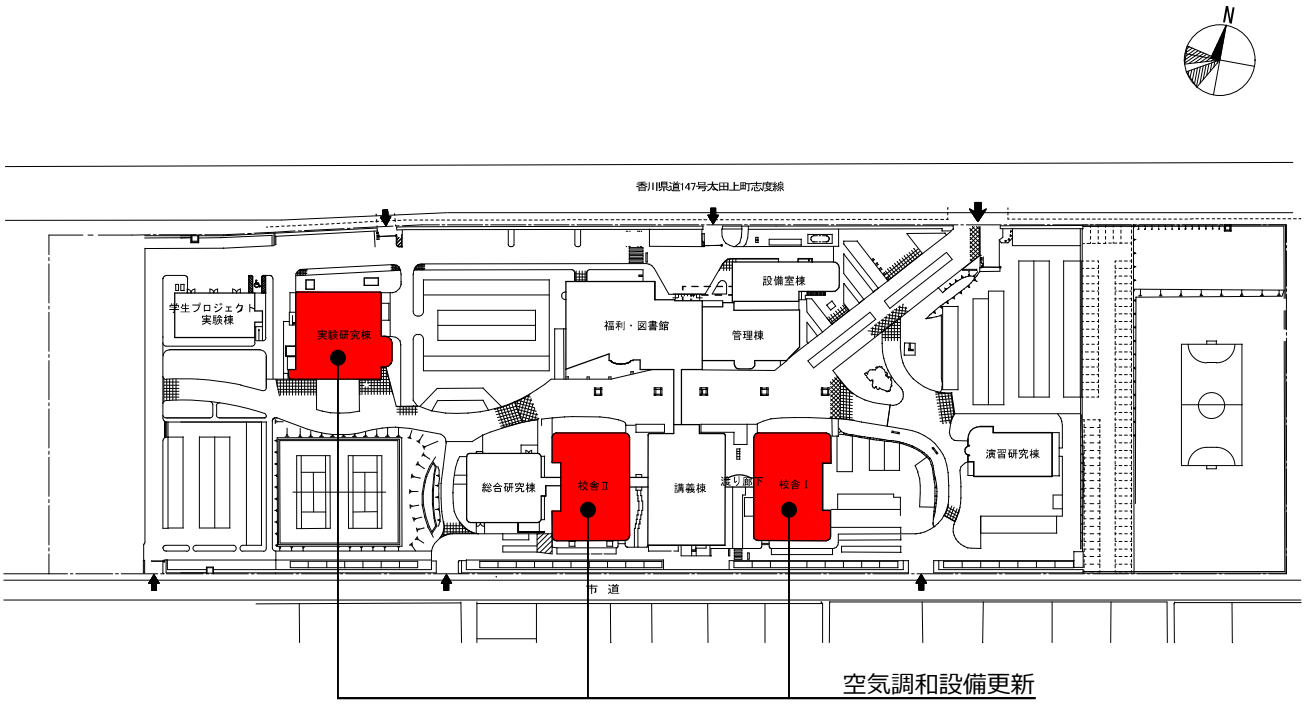
6－3．林町キャンパス

（5）キャンパス整備計画

整備方針及び老朽化状況等を踏まえ、本キャンパスの整備計画は下表のとおりとする。

整備計画

事業名	概要	建築年	R4		R5		R6		R7		R8		R9	
			4	10	4	10	4	10	4	10	4	10	4	10
●部分改修														
空気調和設備更新														



６－４．　三木町農学部キャンパス

6－4．三木町農学部キャンパス

（1）キャンパス概要

1）キャンパスの経緯

三木町農学部キャンパスは、昭和30年に香川県立農科大学が国に移管され、香川大学農学部を設置、昭和43年に大学院農学研究科（修士課程）を設置、昭和60年愛媛大学に香川大学、高知大学を参加大学とする大学院連合農学研究科（博士課程）を設置し、現在に至っている。

2）キャンパス環境

①キャンパスの立地環境

三木町農学部キャンパスは、高松市に隣接する木田郡三木町にある。高松市に位置する幸町キャンパスから南東へ約11kmの位置にあり、周辺は田園と住居地域である。

キャンパスは南側の町道（幅員6m）及び東側の町道（幅員3.3～4.3m）に面している。

本キャンパスは、高松市市街地から10km程度離れているが、高松琴平電鉄の農学部前駅から徒歩3分の場所にあることから公共交通の利便性は良い。

なお、香川県全域は南海トラフ地震防災対策推進地域であり、この場所も該当する。

②敷地条件

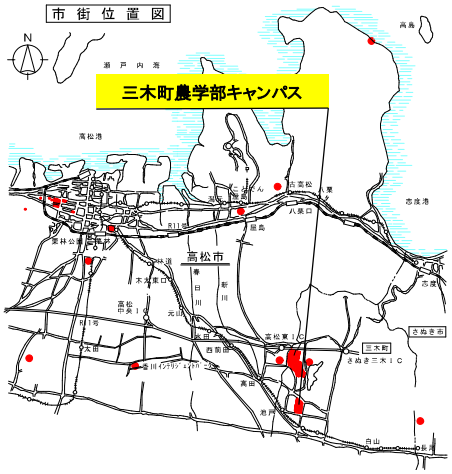
三木町農学部キャンパスの敷地は、南北に細長く、約140～190m×400mのほぼ長方形の形状をしており、水路等により９分割されている。なお、主要アプローチは南側である。

敷地内の標高は21.2m、高低差は全体として3.3m程度であるが、９分割されたそれぞれの敷地はほぼ平坦である。

地質構成は、15m程度までは砂と砂質粘土が交互に分布する軟弱な沖積層の地盤であり、建物支持に必要なＮ値を得るためには中低層建物で15m程度の杭を必要とする。

敷地面積は68,991㎡、敷地内の建物延べ床面積は26,580㎡、建ぺい率16.4%、容積率38.5%となっている。

都市計画上の用途地域は無指定であり、建ぺい率70%、容積率200%が上限となっている。また、本キャンパスの一部は周知の埋蔵文化財包蔵地となっている。



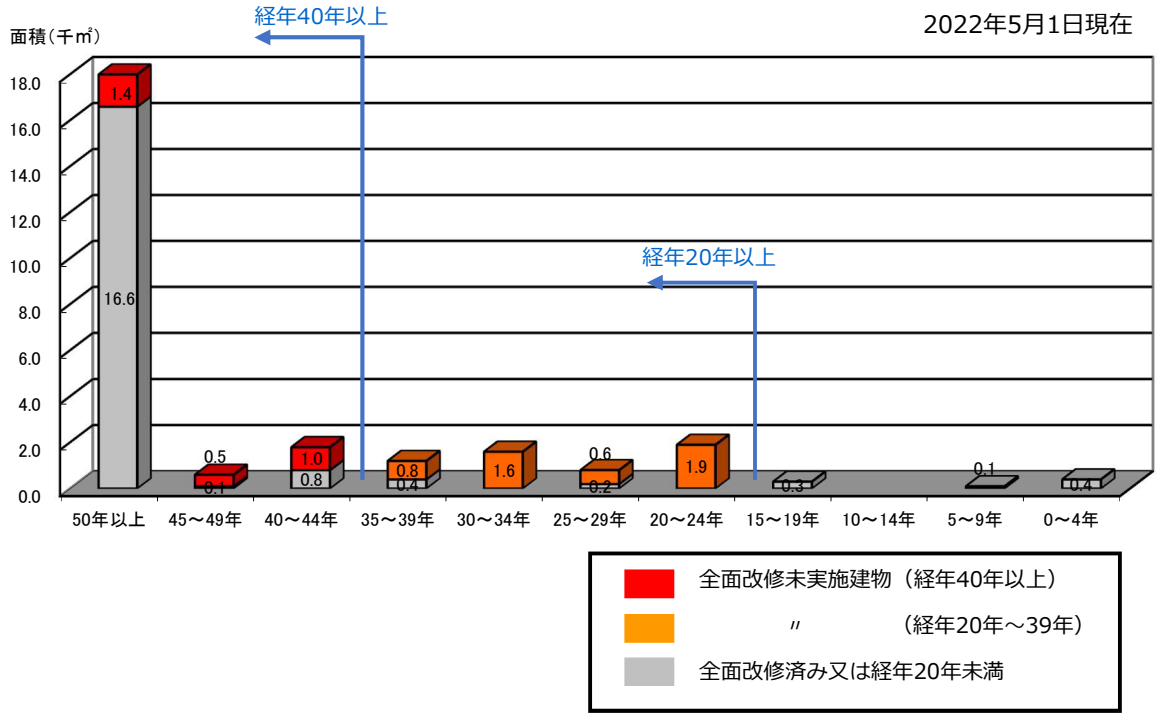
三木町農学部キャンパス航空写真

6－4．三木町農学部キャンパス

3）老朽化状況

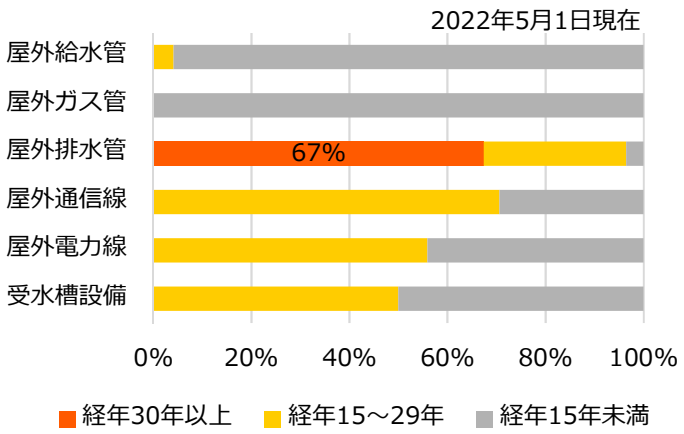
■建物

三木町農学部キャンパスの建物は、全面改修未実施建物のうち、経年40年以上が約2,900㎡、経年20～39年が約5,100㎡である。建物の長寿命化に必要な全面改修時期である経年40年以上の建物について、計画的な整備が必要である。



■ライフライン

三木町農学部キャンパスのライフラインは、事故発生率が大きく上昇する経年30年以上の屋外排水管について、計画的な更新が必要である。

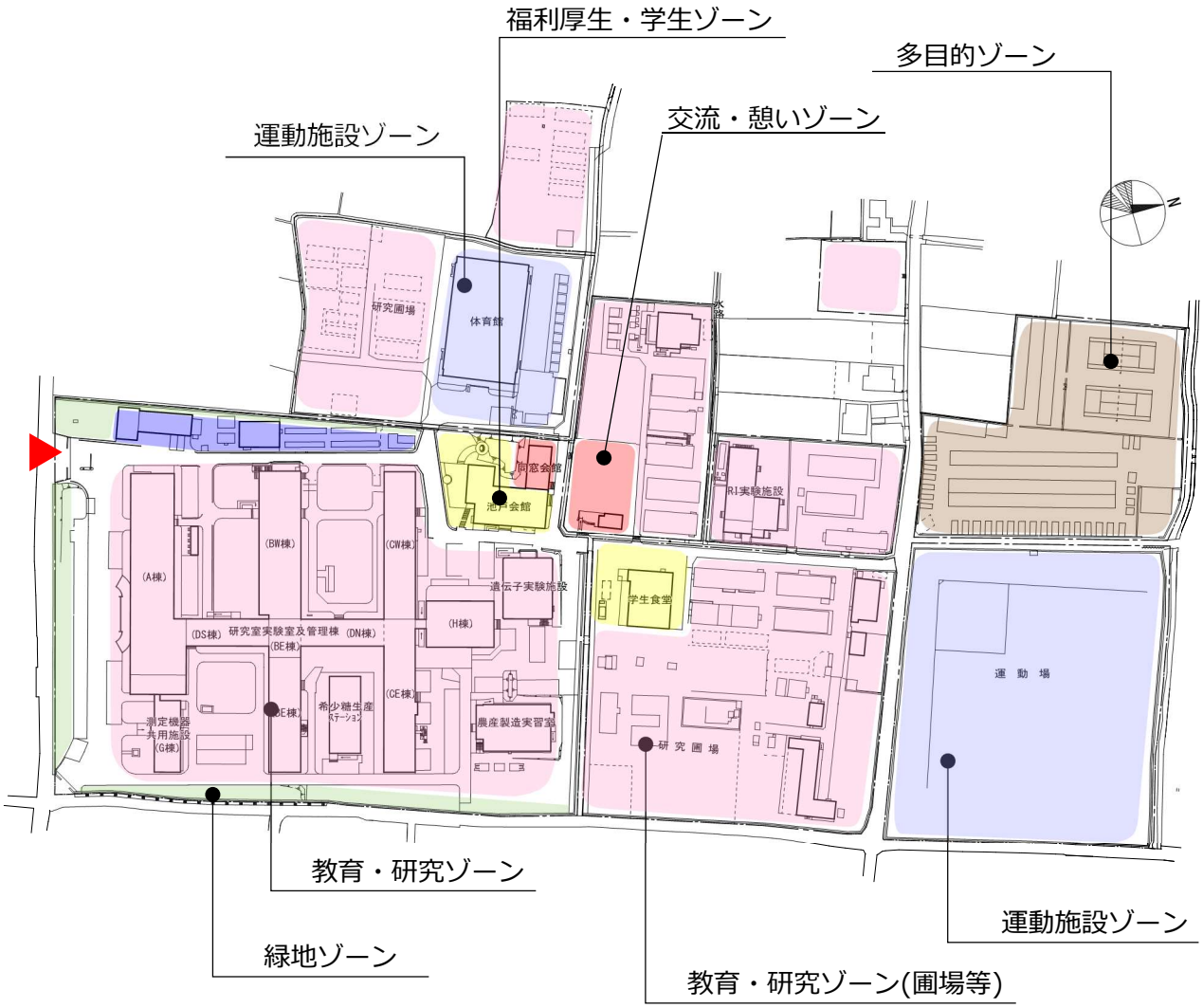


6－4．三木町農学部キャンパス

（2）ゾーニング計画

ゾーニングについては、既存の配置を見据えながら各ゾーンの現状・発展性・機能性等を考慮しつつ合理的な活用を図る計画とする。

本キャンパスの主要アプローチ近くの建物群及び離れた位置の圃場等を『教育・研究ゾーン』に設定する。また、それらのゾーンの中心部に、学生・教職員及び来学者等との交流の活性化を図る『交流・憩いゾーン』及び『福利厚生・学生ゾーン』を設定し、体育館及び北側運動場周辺を『運動施設ゾーン』、将来計画に対応可能な『多目的ゾーン』を設定し、『教育・研究ゾーン』の建物群外周部には緩衝帯として『緑地ゾーン』を設定する。



凡例	名　称	凡例	名　称
	教育・研究ゾーン		運動施設ゾーン
	福利厚生・学生ゾーン		緑地ゾーン
	管理・共通ゾーン		多目的ゾーン
	交流・憩いゾーン	▲	主要アプローチ

6－4．三木町農学部キャンパス

（3）パブリックスペース・緑地計画

■現状の課題等

キャンパス内は、建物の中庭及び農産製造実習室東側がパブリックスペースとなっているが、中庭のパブリックスペースにはベンチなどが配置されておらず、農産製造実習室東側のパブリックスペースは砂利敷きとなっており、集える空間となっていない。

旧学生食堂跡地は、建物をとりこわしたそのままの状態であるため、交流・憩いゾーンとしてパブリックスペースの整備が望まれる。

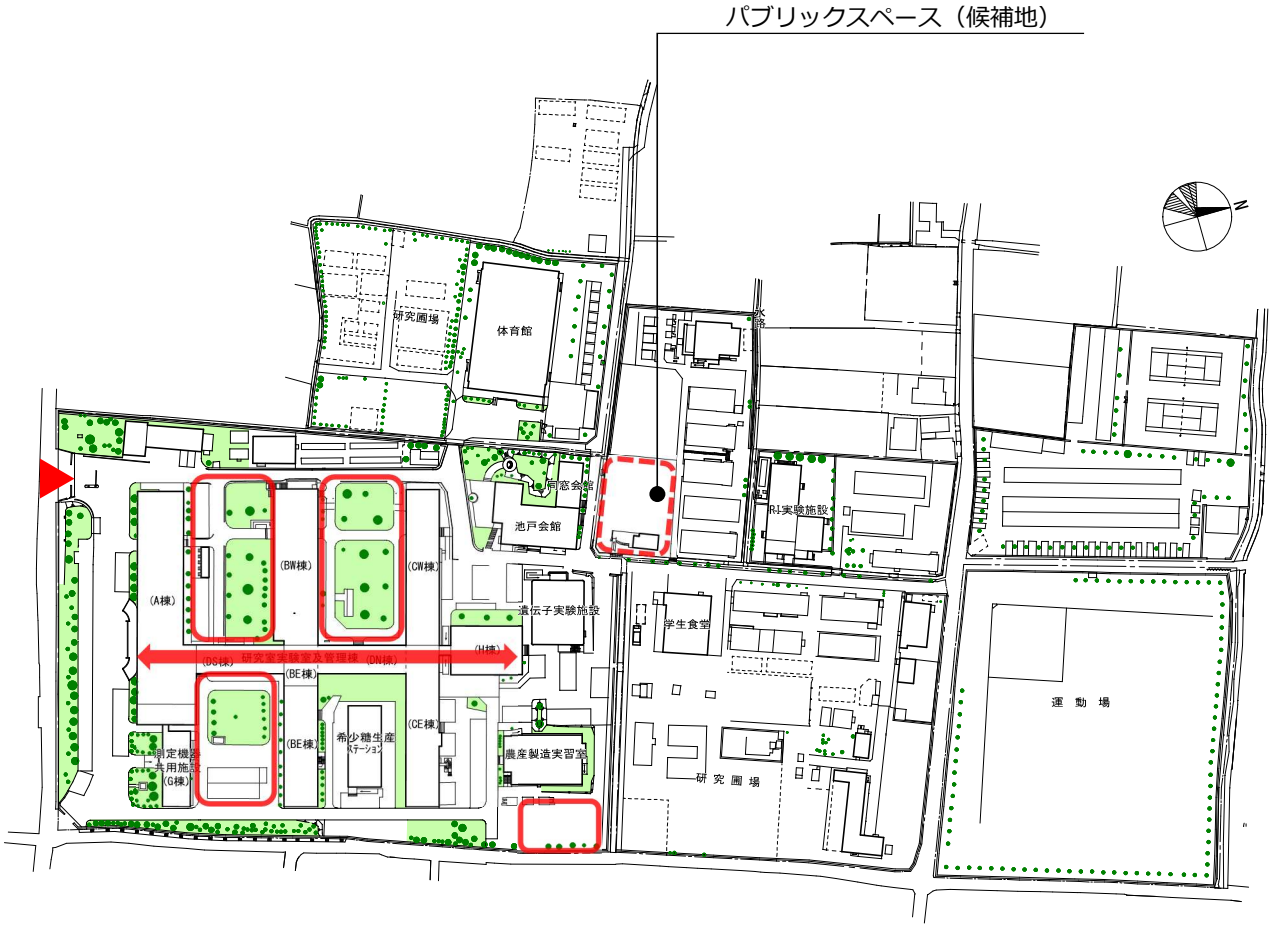
緑地はキャンパス内各所にバランス良く配置されている。

■課題解決の方向性

中庭及び農産製造実習室東側のパブリックスペースは、修学や研究活動を触発し活性化させる場として機能するよう、ベンチやテーブルの配置等により、集える空間として再生を図る。

旧学生食堂跡地は、社会に開かれ、多様な利用者による交流・発信を促す、憩いの空間としてパブリックスペースの整備を図る。

緑地については、周辺環境との調和に配慮した緑地の維持管理を行い、快適な教育研究環境の形成を図る。



凡　例

歩行者主動線（メインストリート）	緑地
パブリックスペース	

6－4．三木町農学部キャンパス

（4）動線計画

1）キャンパス動線

■現状の課題等

三木町農学部キャンパスは南北に長く、南側町道よりの入口がメインのアクセスとなっている。南側町道は狭隘なため、大型車輌等は北側の研究圃場間の道路からの進入となる。歩行者動線は、主要建物のＡ棟玄関から北に向けての南北の軸線が主動線である。

車両動線については、キャンパスの外周部に配置されている。

■課題解決の方向性

継続して適切な維持管理を図る。

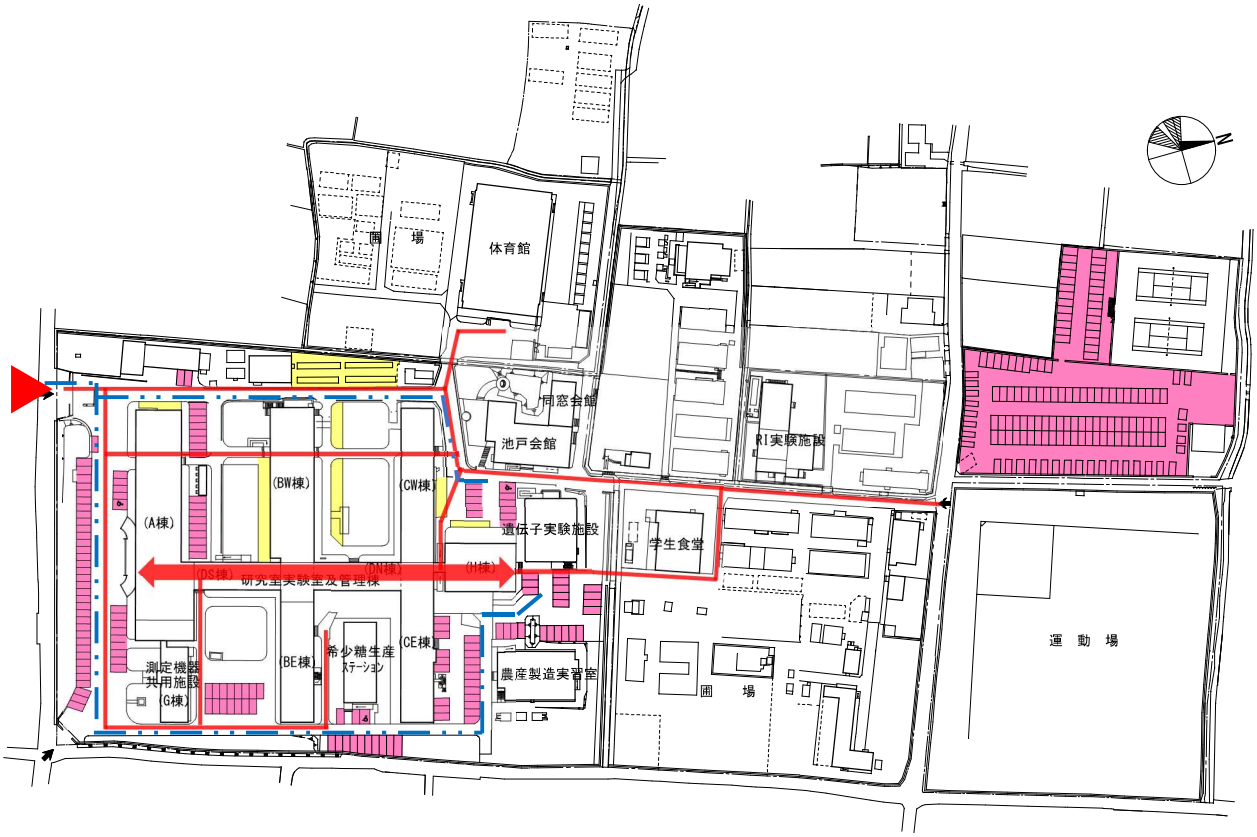
2）駐車・駐輪場

■現状の課題等

職員用の駐車場は、各所に配置されており、利便性は良好である。また、学生用駐車場は、キャンパス北端に配置されている。駐輪場についてはキャンパス各所に配置されており、利便性は良好である。

■課題解決の方向性

継続して適切な維持管理を図る。



凡　例

⟷	歩行者主動線（メインストリート）		駐車場
―	歩行者副動線		駐輪場
―・・―	車両動線		

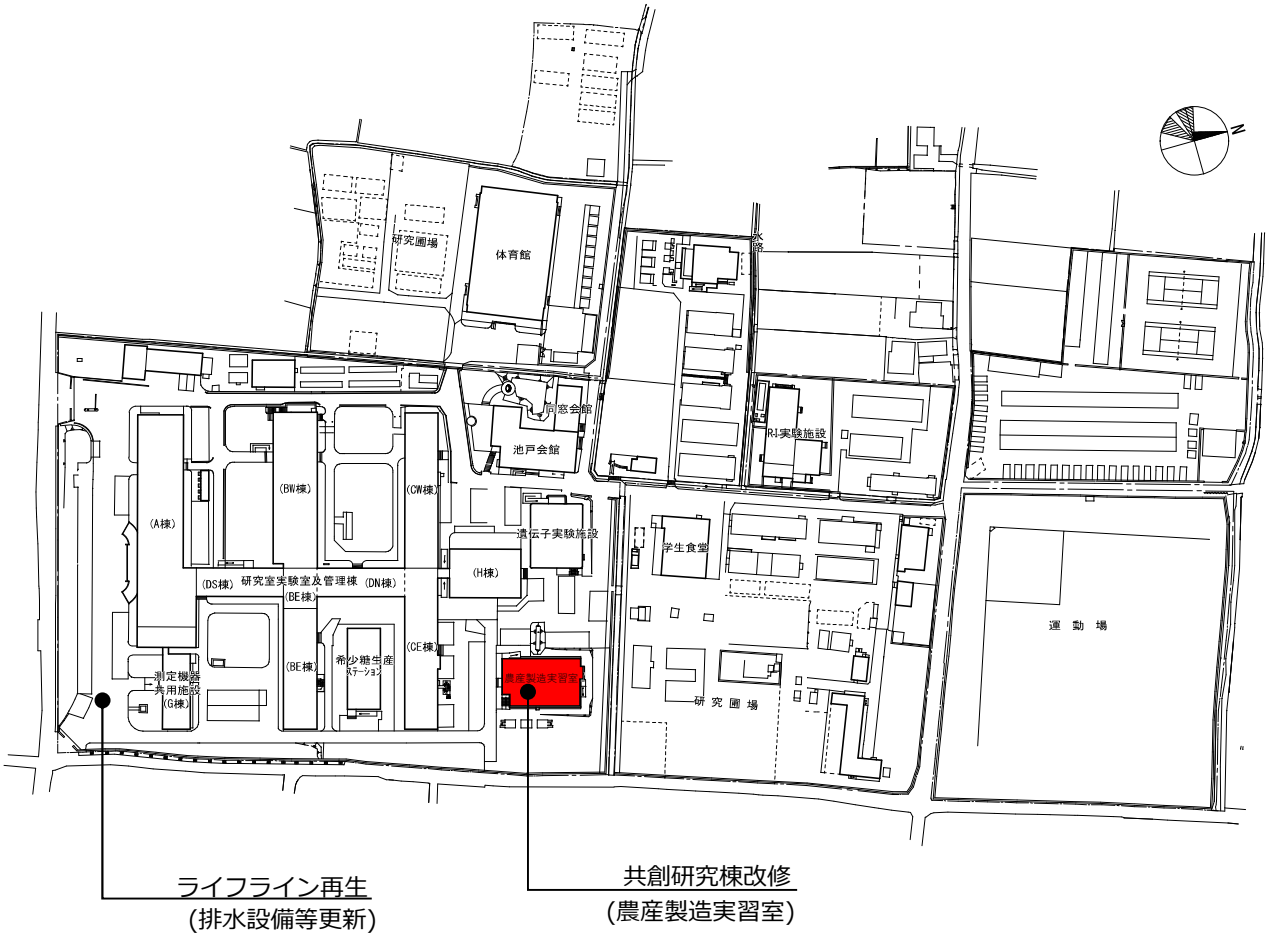
6－4．三木町農学部キャンパス

（5）キャンパス整備計画

整備方針及び老朽化状況等を踏まえ、本キャンパスの整備計画は下表のとおりとする。

整備計画

事業名	概要	建築年	R4		R5		R6		R7		R8		R9	
			4	10	4	10	4	10	4	10	4	10	4	10
●全面改修														
共創研究棟改修 (農産製造実習室)	R1(417㎡)	1983年												
●ライフライン再生														
ライフライン再生 (排水設備等更新)														



６－５．　附属学校園キャンパス

【１】番町キャンパス

6－5．附属学校園キャンパス　【1】番町キャンパス

（1）キャンパス概要

1）キャンパスの経緯

番町キャンパスは、昭和24年香川大学香川師範学校附属高松小学校として設置され、昭和26年香川大学学芸部附属高松小学校と改称、昭和41年香川大学教育学部附属高松小学校と改称し現在に至っている。

また、本キャンパスには、附属幼稚園高松園舎を有している。

2）キャンパス環境

①キャンパスの立地環境

番町キャンパスは、香川県の県庁所在地である高松市市街地中心部に位置し、大学本部のある幸町キャンパスから約0.6kmの距離にある。近隣には県庁、市役所、病院等がある。

キャンパスは北側の歩道付き市道（幅員5.2m）及び西側の歩道付き市道（幅員7.2m）に面している。

本キャンパスは、高松市市街地中心部に位置していることや、ＪＲ高徳線の栗林公園北口駅が徒歩10分の場所にあること等から、公共交通の利便性は良い。

なお、香川県全域は南海トラフ地震防災対策推進地域であり、この場所も該当する。

②敷地条件

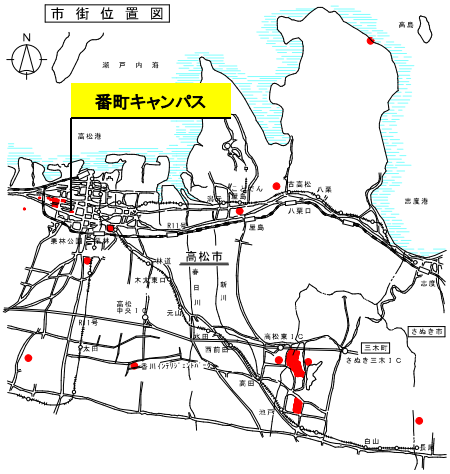
番町キャンパスの敷地は、約１８０m×１２０mのほぼ長方形の形状をしており、主要アプローチは北側である。

敷地内の標高は3.8m、高低差は0.7m程度であり、敷地全体としてはほぼ平坦なものとなっている。

地質構成は、表層から18m程度まで粘土混じり砂礫からなる沖積層が分布しており、建物支持に必要なＮ値を得るためには中低層建物で20m程度の杭を必要とする。

敷地面積は22,301㎡、敷地内の建物延べ床面積は7,792㎡、建ぺい率20.8%、容積率34.9%となっている。

都市計画上の用途地域は近隣商業地域であり、建ぺい率80%、容積率300%が上限となっている。



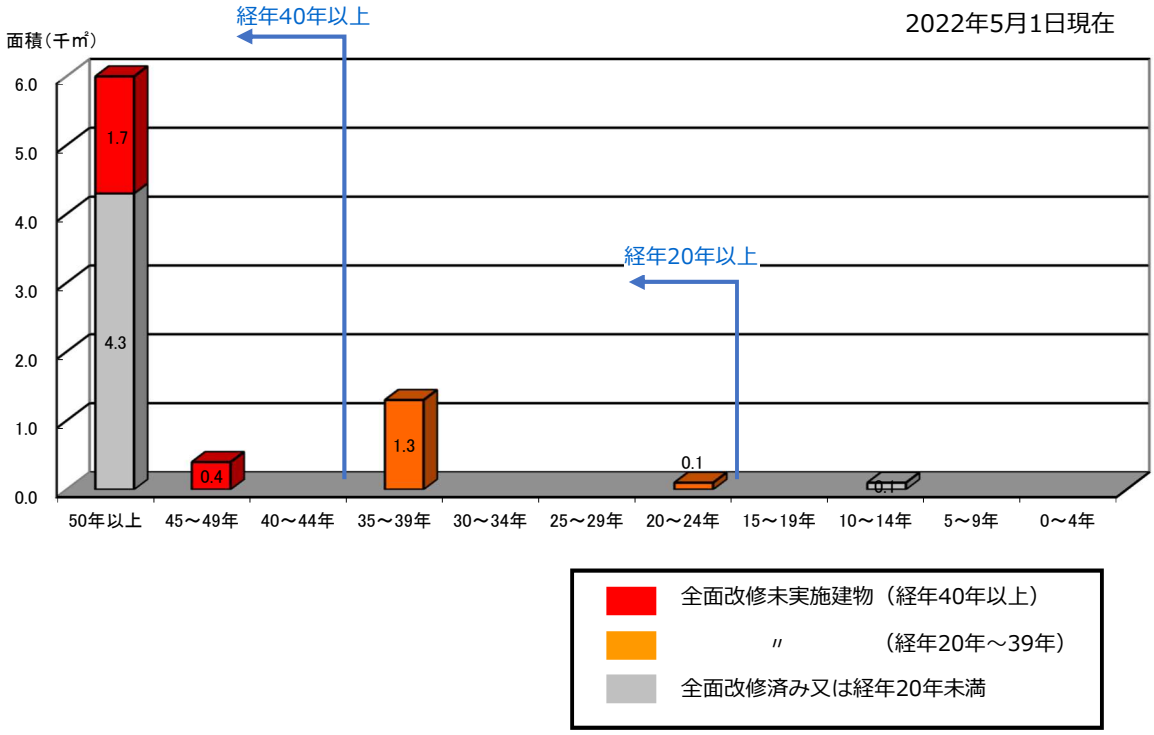
番町キャンパス

6－5．附属学校園キャンパス　【1】番町キャンパス

3）老朽化状況

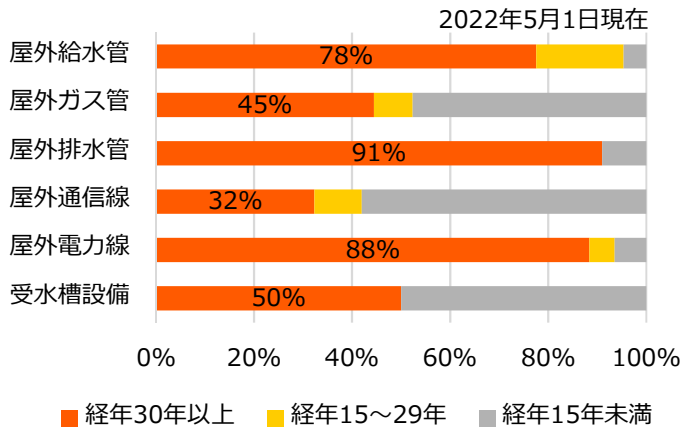
■建物

番町キャンパスの建物は、全面改修未実施建物のうち、経年40年以上が約2,100㎡、経年20～39年が約1,400㎡である。建物の長寿命化に必要な全面改修時期である経年40年以上の建物について、計画的な整備が必要である。



■ライフライン

番町キャンパスのライフラインは、事故発生率が大きく上昇する経年30年以上の屋外給水管・屋外ガス管・屋外排水管・屋外通信線・屋外電力線・受水槽設備について、計画的な更新が必要である。

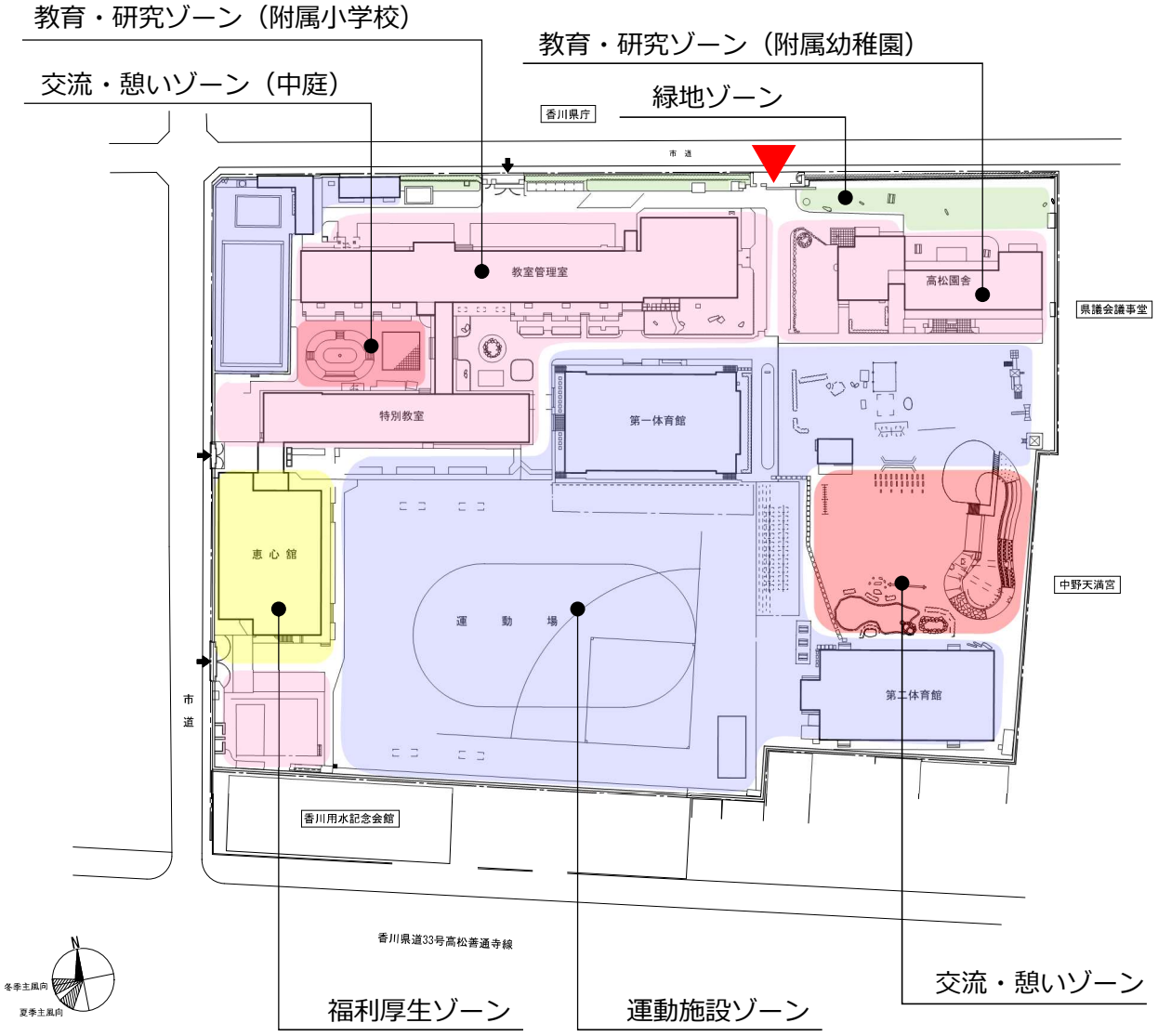


6－5．附属学校園キャンパス　【1】番町キャンパス

（2）ゾーニング計画

ゾーニングについては、既存の配置を見据えながら各ゾーンの現状・発展性・機能性等を考慮しつつ合理的な活用を図る計画とする。

本キャンパスは、小学校と幼稚園を有しており、園児・児童の主体的な学習活動等を支援するため『教育・研究ゾーン』、『運動施設ゾーン』、『福利厚生ゾーン』、『緑地ゾーン』を設定する。また、園児・児童等が学校生活に潤いを感じ、学習など弾力的に利用可能なフィールドワーク機能を有した『交流・憩いゾーン』を『教育・研究ゾーン』の中心地である中庭及び『運動施設ゾーン』付近に設定する。



凡例	名　称	凡例	名　称
	教育・研究ゾーン		運動施設ゾーン
	福利厚生ゾーン		緑地ゾーン
	交流・憩いゾーン	▲	主要アプローチ

6－5．附属学校園キャンパス　【1】番町キャンパス

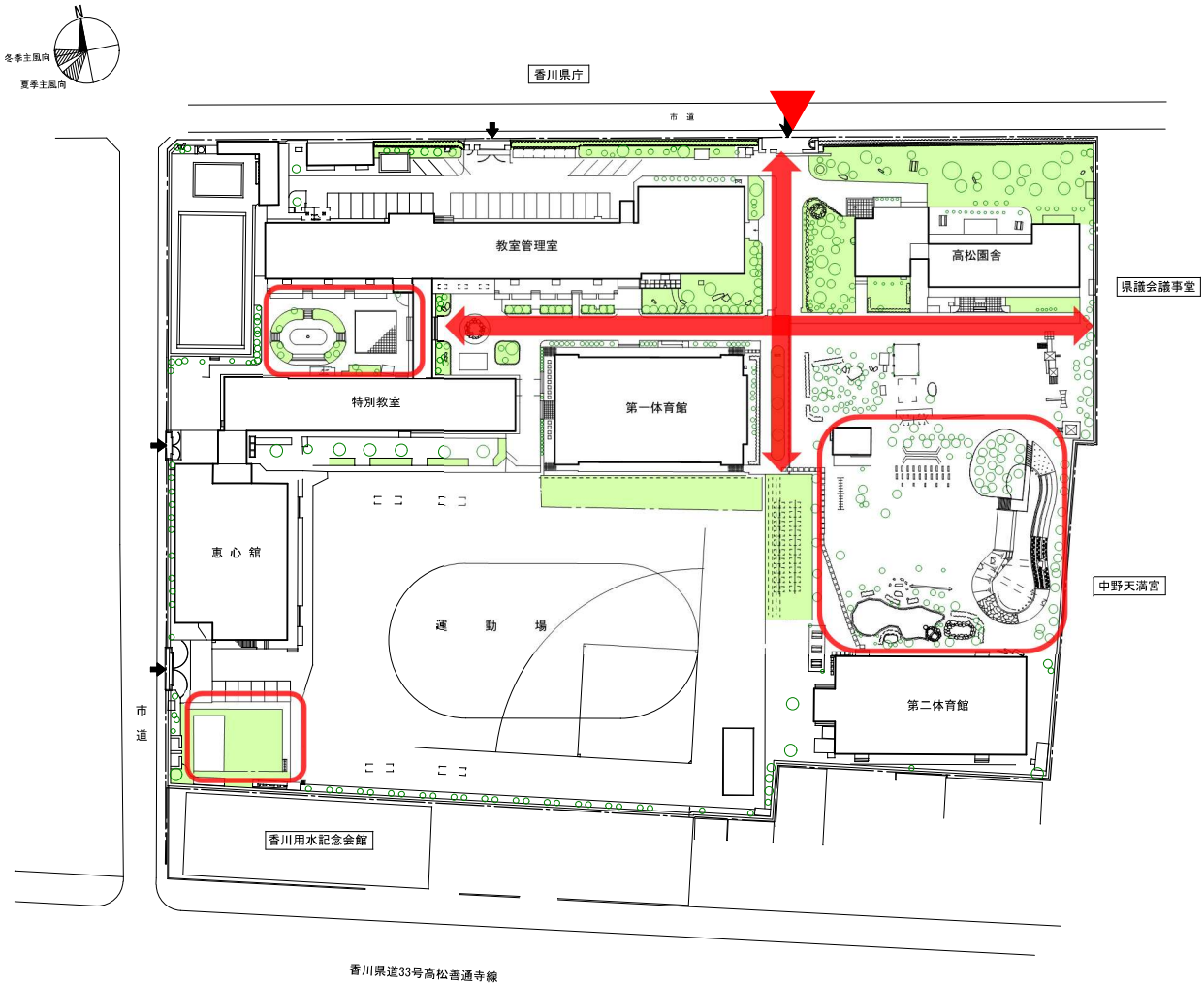
（3）パブリックスペース・緑地計画

■現状の課題等

小学校中庭、第二体育館北側及び運動場西側に、生徒・園児が集い、交流できる場として緑地を含むパブリックスペースが整備されており、フィールドワーク等に活用されている。

■課題解決の方向性

継続して適切な維持管理を図る。



凡　例

歩行者主動線（メインストリート）	緑地
パブリックスペース	

6－5．附属学校園キャンパス　【1】番町キャンパス

（4）動線計画

1）キャンパス動線

■現状の課題等

本キャンパスは、小学校と幼稚園で構成されている団地であり、北入口①が、生徒・園児の主な入口となっている。それに続くメインストリートが東西・南北に十字に配置されている。

自動車の出入りは、主に北入口②、西入口②からであるが、北入口①からも車が出入りする。北入口①は、生徒及び園児の通学門であるため、車と歩行者の動線が交錯し、安全性が低い。また、園児の送迎をする保護者もこの門付近に集まり、時間帯によって多くの歩行者が通行するため、安全性を高める対策が必要である。

■課題解決の方向性

車と歩行者動線が交錯する車道については、路面標示による歩車道分離整備を行い、安全性の確保を図る。

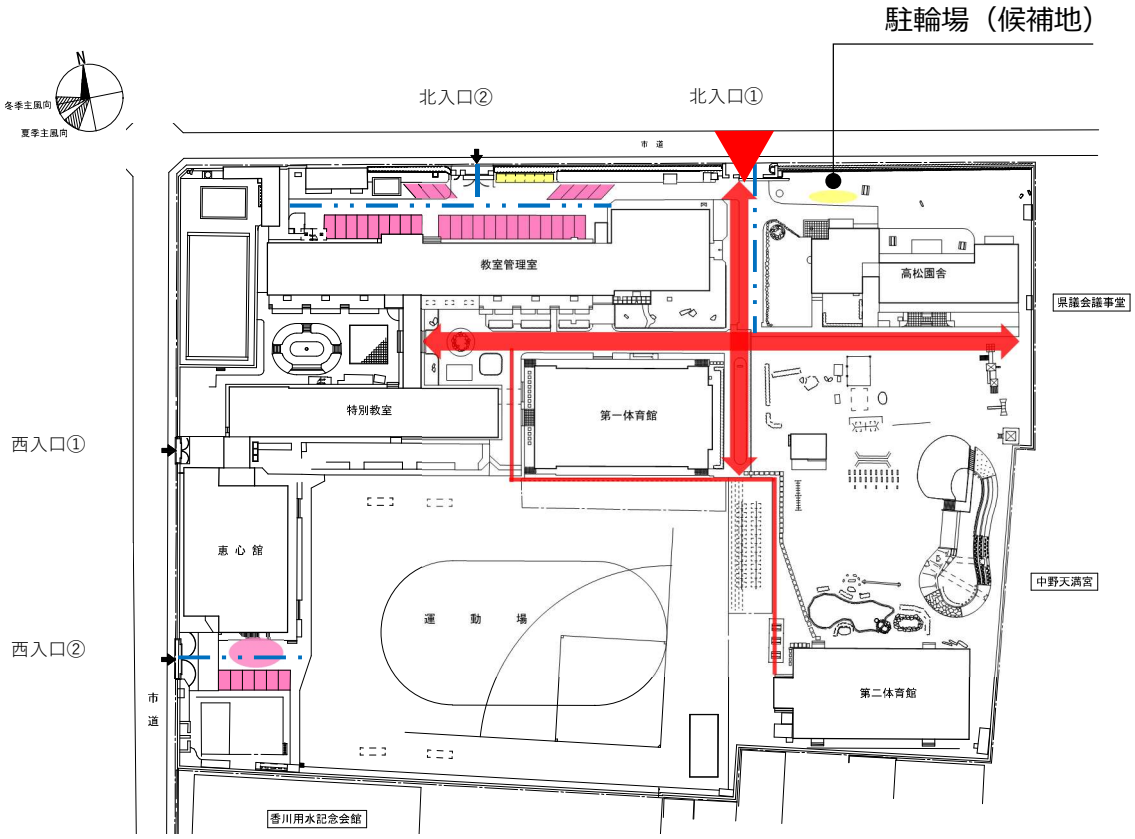
2）駐車・駐輪場

■現状の課題等

駐車場は北入口②及び西入口②付近に設けられている。駐輪場については、小学校北側に設置されているが、幼稚園側には整備されておらず、園児の送迎を自転車で行う保護者も多いため、園舎付近の通路に駐輪されている。

■課題解決の方向性

駐輪場については、園舎北側のスペースに設置し、園児送迎の保護者の自転車が通路に駐輪されるのを防ぐ。



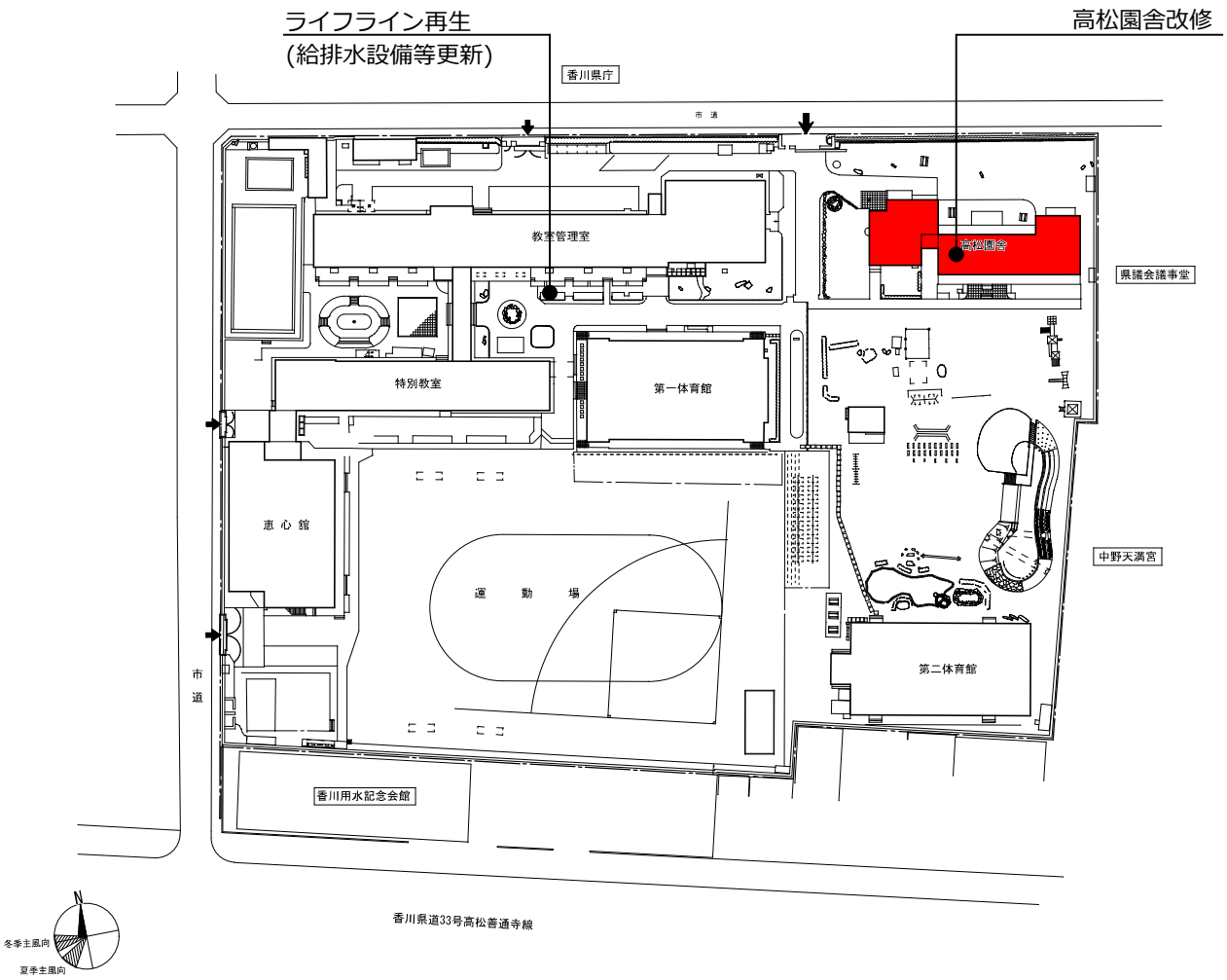
6－5．附属学校園キャンパス　【1】番町キャンパス

（5）キャンパス整備計画

整備方針及び老朽化状況等を踏まえ、本キャンパスの整備計画は下表のとおりとする。

整備計画

事業名	概要	建築年	R4		R5		R6		R7		R8		R9	
			4	10	4	10	4	10	4	10	4	10	4	10
●全面改修														
高松園舎改修	R1(432㎡)	1977年												
●ライフライン再生														
ライフライン再生 (給排水設備等更新)														



６－５．　附属学校園キャンパス

【２】鹿角町キャンパス

6－5．附属学校園キャンパス　【2】鹿角町キャンパス

（1）キャンパス概要

1）キャンパスの経緯

鹿角町キャンパスは、昭和24年香川大学香川師範学校附属高松中学校として設置され、昭和26年香川大学学芸部附属高松中学校と改称、昭和41年香川大学教育学部附属高松中学校と改称し現在に至っている。

2）キャンパス環境

①キャンパスの立地環境

鹿角町キャンパスには、香川県の高松市南部に位置し、大学本部のある幸町キャンパスからは約5kmの距離にある。近隣には田園が広がっている。

キャンパスは西側の県道（幅員7.5m）に接しており、北側は市道（幅員6.0m）に面している。

本キャンパスは、高松市市街地中心部から離れていることや、高松琴平電鉄の太田駅から徒歩20分の場所にあることから、公共交通の利便性は良くない。

なお、香川県全域は南海トラフ地震防災対策推進地域であり、この場所も該当する。

②敷地条件

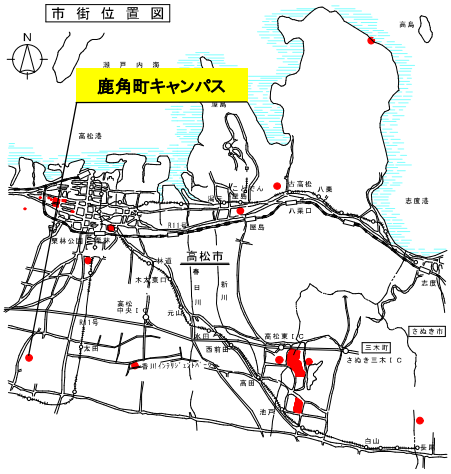
鹿角町キャンパスの敷地は、約220m×100～110mのほぼ長方形の形状をしており、主要アプローチは西側である。

敷地内の標高は26.1m、高低差は1.1m程度であり、敷地全体としてはほぼ平坦なものとなっている。

地質構成は、表層から2.5m程度までは粘土層であり、2.5m以深はN値50程度の粘土混じり砂礫・砂礫と密に締まった硬土盤を構成している。建物基礎形式としては、2.5m付近を基礎底盤とした直接基礎が適当といえる。

敷地面積は23,464㎡、敷地内の建物延べ床面積は5,450㎡、建ぺい率15.6%、容積率23.2%となっている。

都市計画上の用途地域は無指定であり、建ぺい率60%、容積率100%が上限となっている。



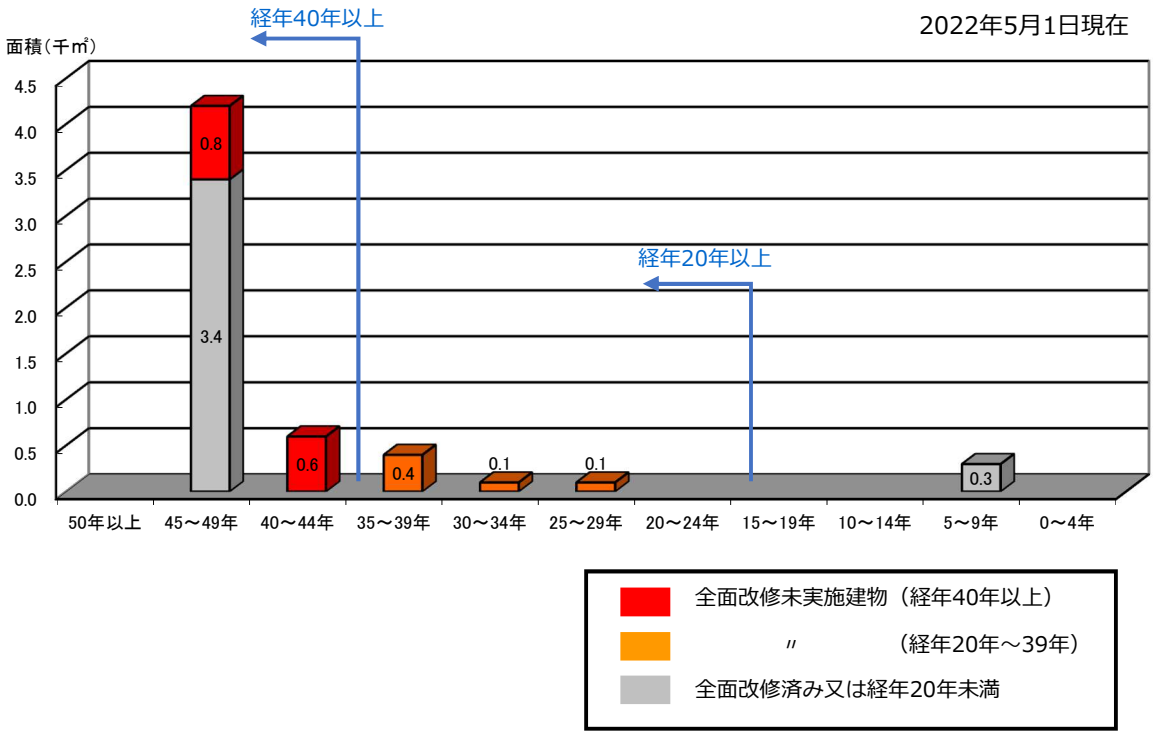
鹿角町キャンパス

6－5．附属学校園キャンパス　【2】鹿角町キャンパス

3）老朽化状況

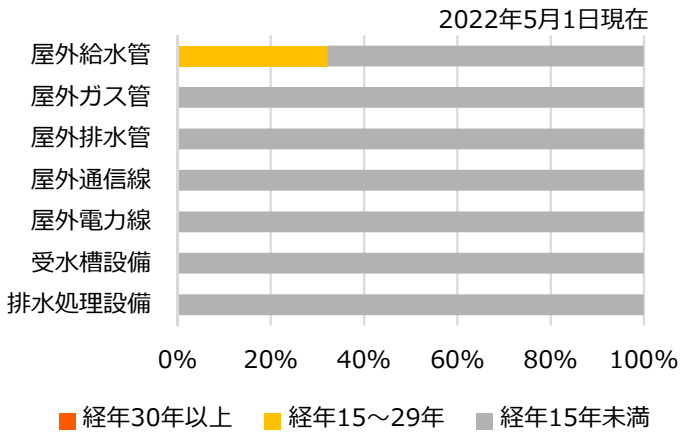
■建物

鹿角町キャンパスの建物は、全面改修未実施建物のうち、経年40年以上が約1,400㎡、経年20～39年が約600㎡である。建物の長寿命化に必要な全面改修時期である経年40年以上の建物について、計画的な整備が必要である。



■ライフライン

鹿角町キャンパスのライフラインは、事故発生率が大きく上昇する経年30年以上のライフラインはないが、計画的な維持管理が必要である。



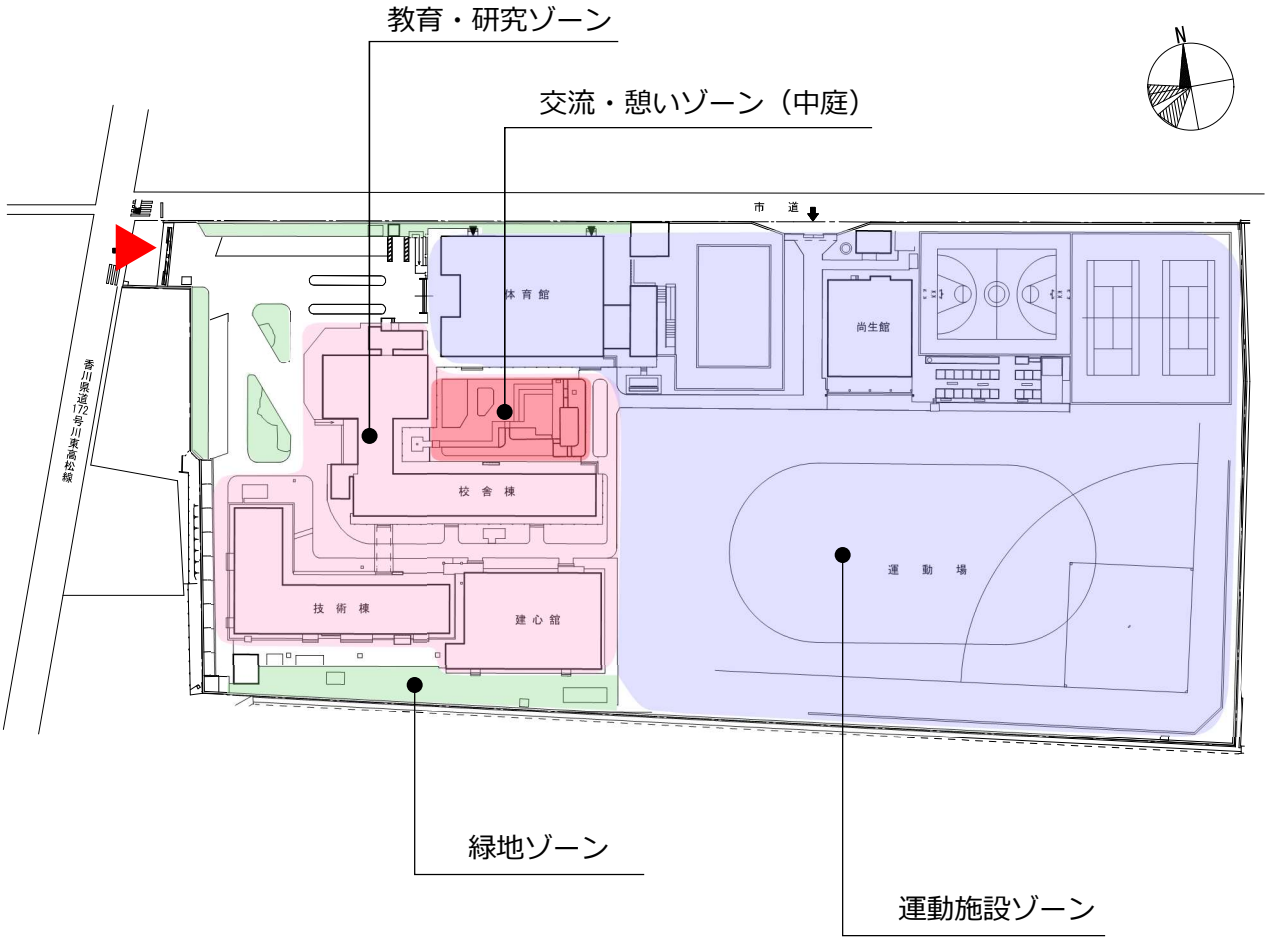
6－5．附属学校園キャンパス　【2】鹿角町キャンパス

（2）ゾーニング計画

ゾーニングについては、既存の配置を見据えながら各ゾーンの現状・発展性・機能性等を考慮しつつ合理的な活用を図る計画とする。

本キャンパスは、生徒の主体的な学習活動等を支援するため『教育・研究ゾーン』、『運動施設ゾーン』、『緑地ゾーン』を設定する。

また、『教育・研究ゾーン』及び『運動施設ゾーン』の接点である中庭に、生徒等が学校生活に潤いを感じ、学習など弾力的に利用できるように『交流・憩いゾーン』を設定し、それぞれのゾーンと有機的な繋がりをもった構成とする。



凡例	名　称	凡例	名　称
	教育・研究ゾーン		運動施設ゾーン
	交流・憩いゾーン		緑地ゾーン
▲	主要アプローチ		

6－5．附属学校園キャンパス　【2】鹿角町キャンパス

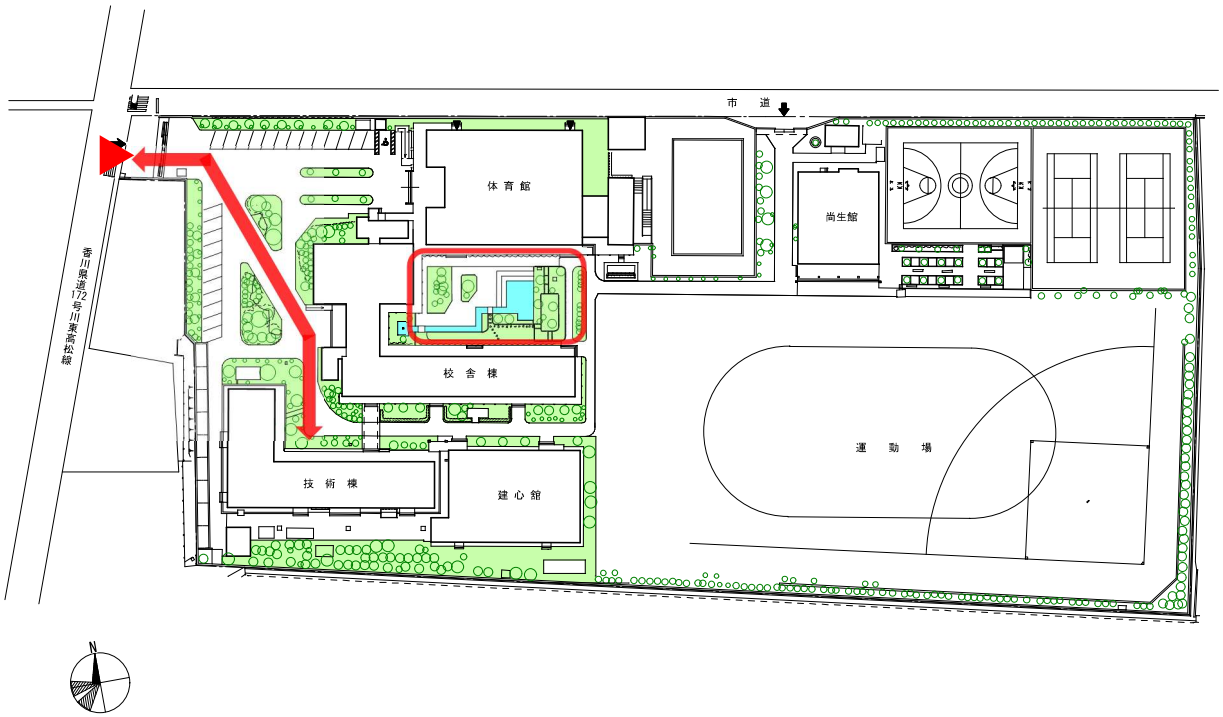
（3）パブリックスペース・緑地計画

■現状の課題等

校舎棟中庭の噴水周りに緑地を含むパブリックスペースが配置されており、生徒が見て楽しむ憩いのスペースとして、有効活用されている。

■課題解決の方向性

継続して適切な維持管理を図る。



凡　例

歩行者主動線（メインストリート）	緑地
パブリックスペース	

6－5．附属学校園キャンパス　【2】鹿角町キャンパス

（4）動線計画

1）キャンパス動線

■現状の課題等

キャンパス内は、西側に校舎が配置され、東側に運動場・体育施設の配置となっている。

自転車は南西門、バス通学者は北門、一部の生徒及び来客者のみ正門（西門）を利用しており、混雑もなく、安全性が確保されている状況である。

■課題解決の方向性

継続して適切な維持管理を図る。

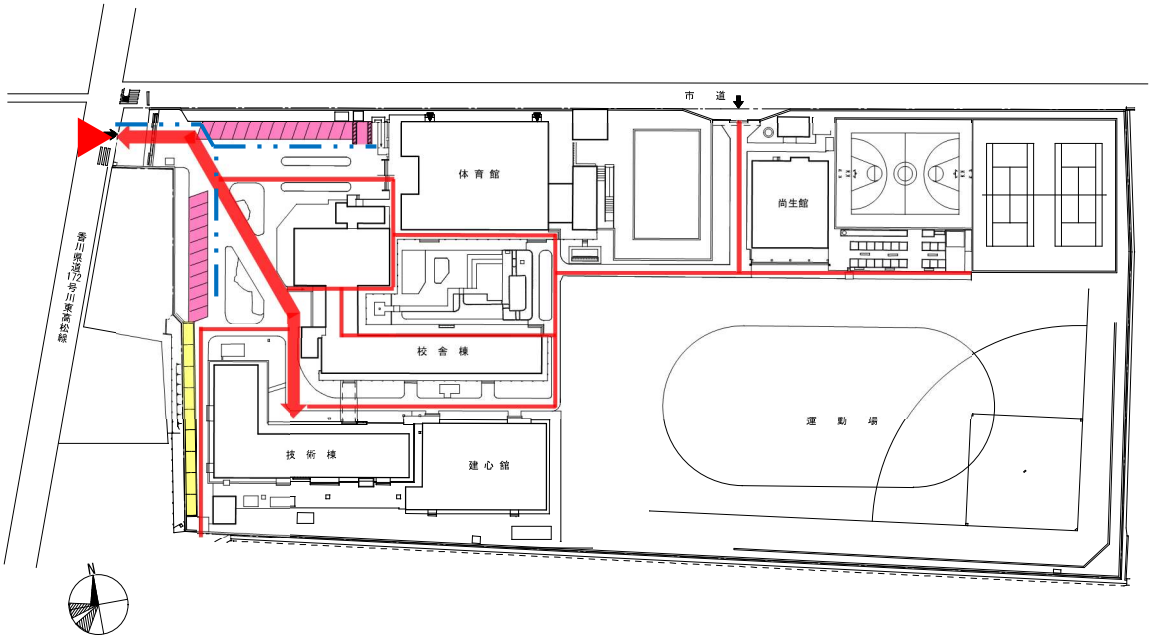
2）駐車・駐輪場

■現状の課題等

主要アプローチ部の北側及び西側に駐車場が整備されており、西側駐車場の南側に駐輪場が隣接して整備されている。

■課題解決の方向性

継続して適切な維持管理を図る。



凡　例

⟷	歩行者主動線（メインストリート）	■	駐車場
―	歩行者副動線	■	駐輪場
―・・―	車両動線		

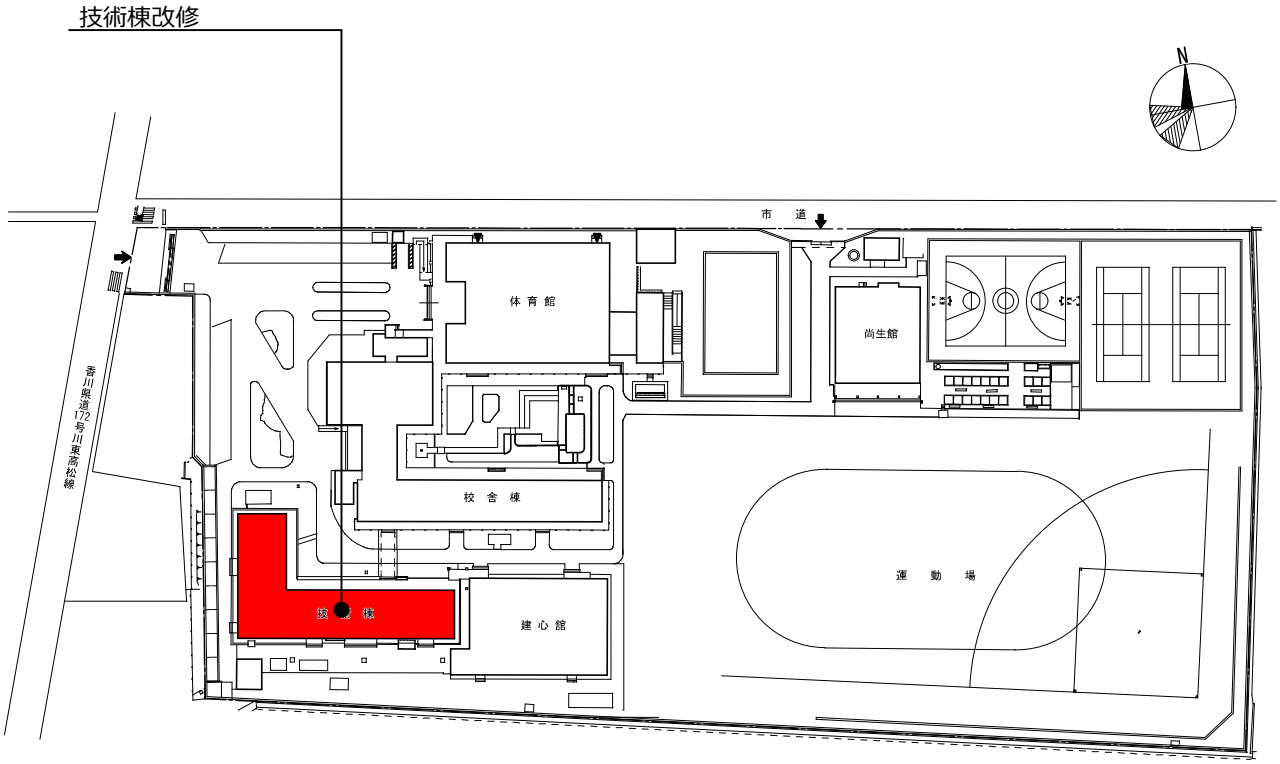
6－5．附属学校園キャンパス　【2】鹿角町キャンパス

（5）キャンパス整備計画

整備方針及び老朽化状況等を踏まえ、本キャンパスの整備計画は下表のとおりとする。

整備計画

事業名	概要	建築年	R4		R5		R6		R7		R8		R9	
			4	10	4	10	4	10	4	10	4	10	4	10
●全面改修														
技術棟改修	R1(617㎡)	1974年												



６－５．　附属学校園キャンパス

【３】文京町幼キャンパス

6－5．附属学校園キャンパス　【3】文京町幼キャンパス

（1）キャンパス概要

1）キャンパスの経緯

文京町幼キャンパスは、昭和24年香川大学香川師範学校附属幼稚園として設置され、昭和26年香川大学学芸部附属幼稚園と改称、昭和41年香川大学教育学部附属幼稚園と改称し、現在に至っている。

2）キャンパス環境

①キャンパスの立地環境

文京町幼キャンパスは、香川県の坂出市市街地中心部に位置し、大学本部のある幸町キャンパスからは約17kmの距離にある。近隣には高校・附属小・中学校があり文教地区を形成している。

キャンパスは東側の市道（幅員4.3m）に接している。

本キャンパスは、坂出市市街地中心部に位置していることや、ＪＲ予讃線の坂出駅から徒歩約10分の場所にあること等から公共交通の利便性は良い。

なお、香川県全域は南海トラフ地震防災対策推進地域であり、また、この場所は香川県津波浸水想定区域でもある。

②敷地条件

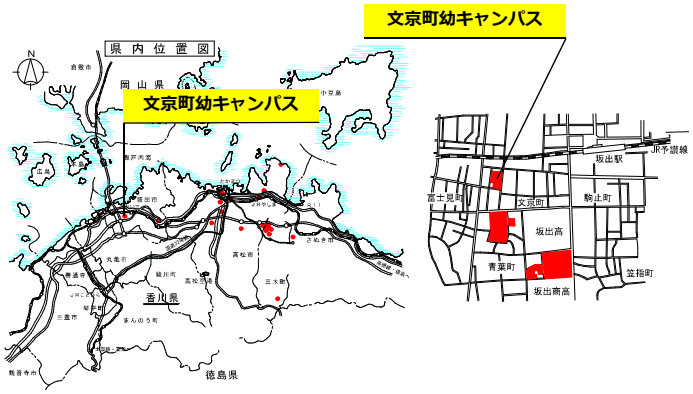
文京町幼キャンパスの敷地は、約43m×42mと南の一角が約22m×12m広くなっており、主要アプローチは東側である。

敷地内の標高は1.6m、高低差は0.6m程度であり、敷地全体としてはほぼ平坦なものとなっている。

地質構成は、表層から16m以深まで砂礫・砂質粘土からなる沖積層が分布しており、建物基礎形式としては、Ｎ値17～26のGL-2.2～-9.8mの砂礫を支持層とする直接基礎が適当といえる。

敷地面積は1,808㎡、敷地内の建物延べ床面積は759㎡、建ぺい率34.3%、容積率42.0%となっている。

都市計画上の用途地域は第1種住居地域であり、建ぺい率60%、容積率200%が上限となっている。



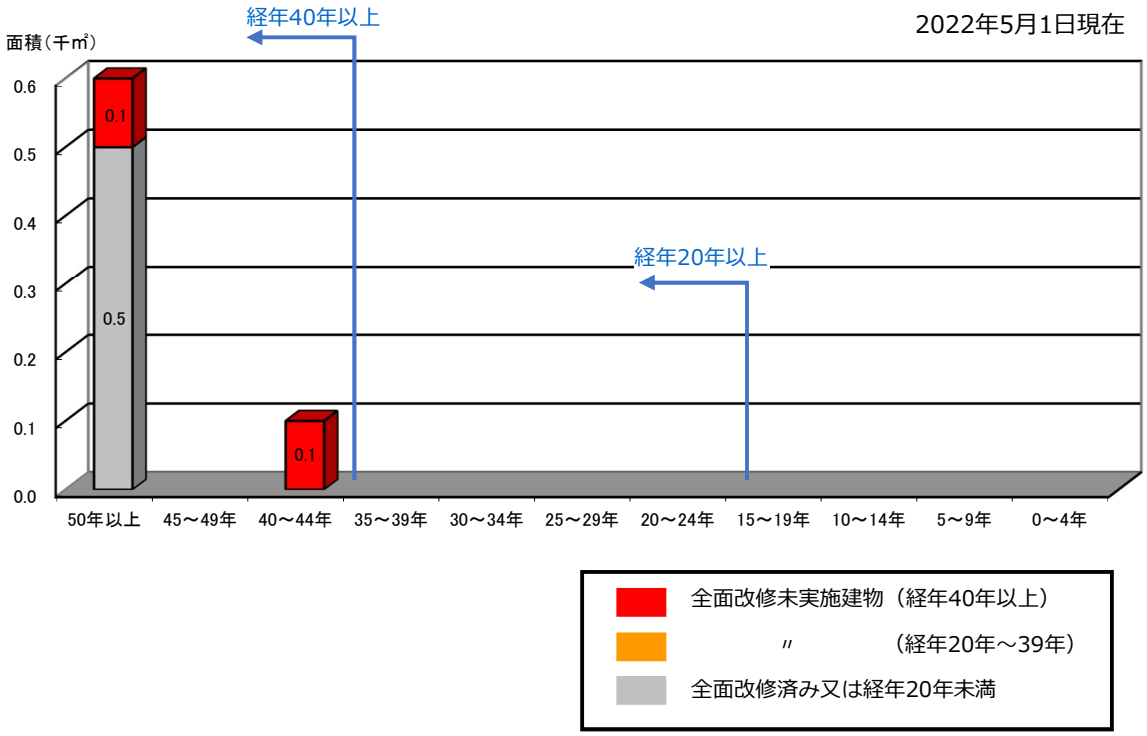
文京町幼キャンパス

6－5．附属学校園キャンパス　【3】文京町幼キャンパス

3）老朽化状況

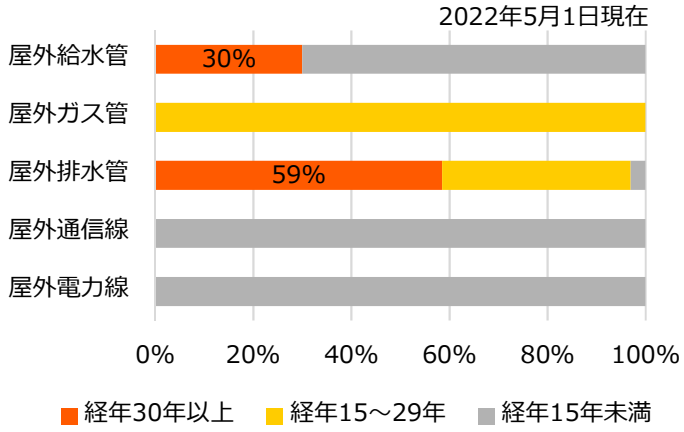
■建物

文京町幼キャンパスの建物は、全面改修未実施建物のうち、経年40年以上が約200㎡である。建物の長寿命化に必要な全面改修時期である経年40年以上の建物について、計画的な整備が必要である。



■ライフライン

文京町幼キャンパスのライフラインは、事故発生率が大きく上昇する経年30年以上の屋外給水管・屋外排水管について、計画的な更新が必要である。

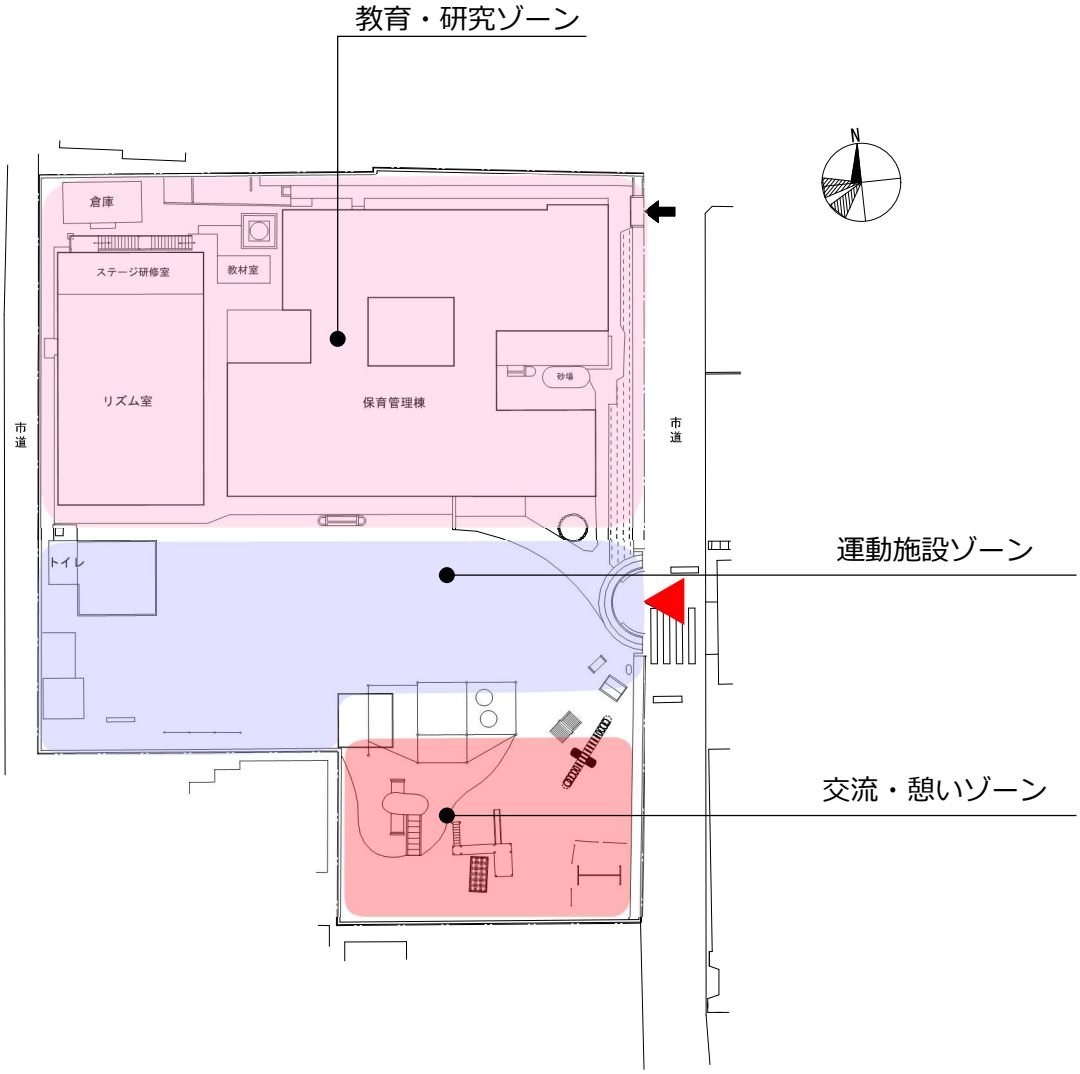


6－5．附属学校園キャンパス　【3】文京町幼キャンパス

（2）ゾーニング計画

ゾーニングについては、既存の配置を見据えながら各ゾーンの現状・発展性・機能性等を考慮しつつ合理的な活用を図る計画とする。

本キャンパスは、幼児の主体的な活動を確保し、幼児期にふさわしい発達を促すため『教育・研究ゾーン』、『運動施設ゾーン』及び遊具等を有する『交流・憩いゾーン』を設定する。



凡例	名　称	凡例	名　称
	教育・研究ゾーン		運動施設ゾーン
	交流・憩いゾーン	▲	主要アプローチ

6－5．附属学校園キャンパス　【3】文京町幼キャンパス

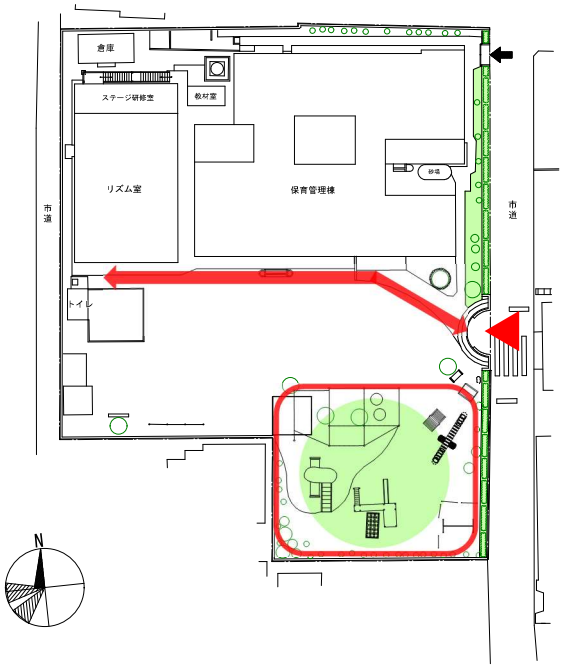
（3）パブリックスペース・緑地計画

■現状の課題等

南側に遊具及び緑地を含むパブリックスペースが配置されており、園児が活発に交流・活動するスペースとして、有効活用されている。

■課題解決の方向性

継続して適切な維持管理を図る。



凡　例

⟷	歩行者主動線（メインストリート）		緑地
▭	パブリックスペース		

6－5．附属学校園キャンパス　【3】文京町幼キャンパス

（4）動線計画

1）キャンパス動線

■現状の課題等

主要アプローチからメインストリートが保育管理棟へ伸びており、リズム室へは園庭の端を通行している。

敷地が狭小であるため、 車道の整備はなされていない。

■課題解決の方向性

主要動線を東西方向にリズム室まで整備し、園外からの各棟へのアクセスの向上を図る。

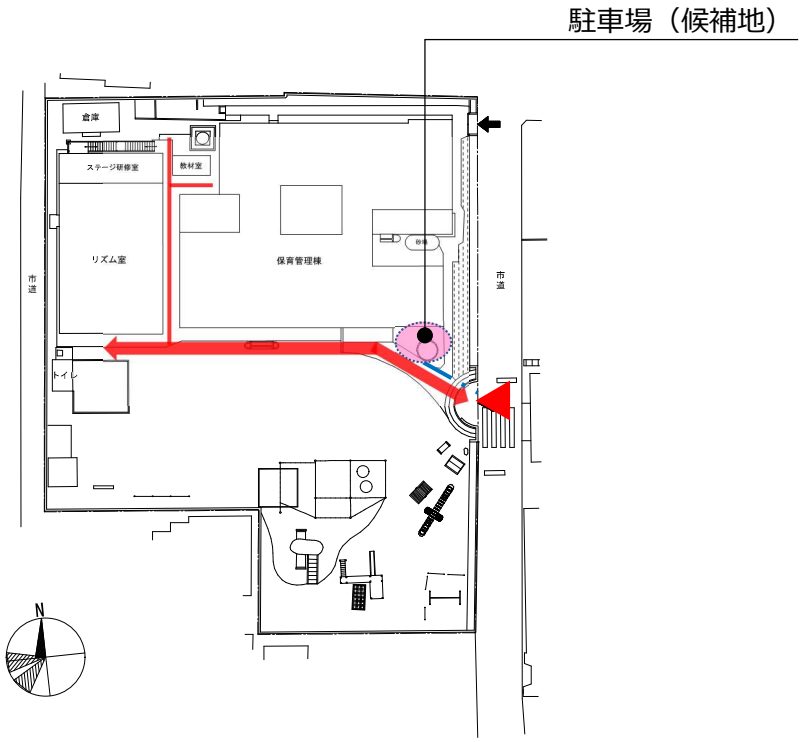
2）駐車

■現状の課題等

敷地が狭小であるため、駐車場の整備はなされていない。

■課題解決の方向性

将来利用及び緊急時の駐車スペースとしても利用可能な、車いす使用者駐車場を構内に確保する。



凡　例

- 歩行者主動線（メインストリート）
- 駐車場
- 歩行者副動線
- 車両動線

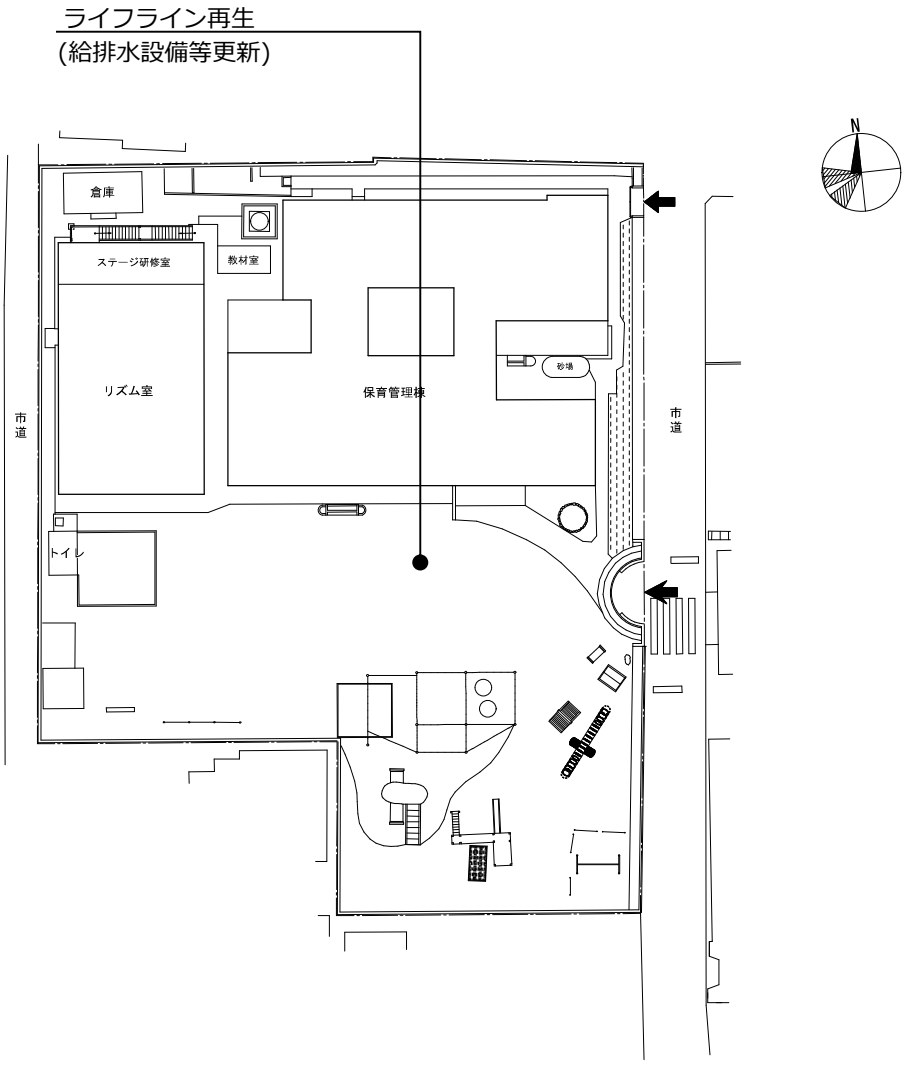
6－5．附属学校園キャンパス　【3】文京町幼キャンパス

（5）キャンパス整備計画

整備方針及び老朽化状況等を踏まえ、本キャンパスの整備計画は下表のとおりとする。

整備計画

事業名	概要	建築年	R4		R5		R6		R7		R8		R9	
			4	10	4	10	4	10	4	10	4	10	4	10
●ライフライン再生														
ライフライン再生 (給排水設備等更新)														



６－５．　附属学校園キャンパス

【４】文京町キャンパス

6－5．附属学校園キャンパス　【4】文京町キャンパス

（1）キャンパス概要

1）キャンパスの経緯

文京町キャンパスは、昭和24年香川大学香川師範学校附属坂出小学校として設置され、昭和26年香川大学学芸部附属坂出小学校と改称、昭和41年香川大学教育学部附属坂出小学校と改称し現在に至っている。

2）キャンパス環境

①キャンパスの立地環境

文京町キャンパスは、香川県の坂出市市街地中心部に位置し、大学本部のある幸町キャンパスから約17kmの距離にある。近隣に高校・附属中学校・幼稚園があり文教地区を形成している。

キャンパスは北側の市道（幅員5.7m）に接しており、東・南・西半分は幅員3.3m～3.4mの二項道路（みなし道路）に面している。

本キャンパスは、坂出市市街地中心に位置していることや、ＪＲ予讃線の坂出駅から徒歩約10分の場所にあること等から公共交通の利便性は良い。

なお、香川県全域は南海トラフ地震防災対策推進地域であり、また、この場所は香川県津波浸水想定区域でもある。

②敷地条件

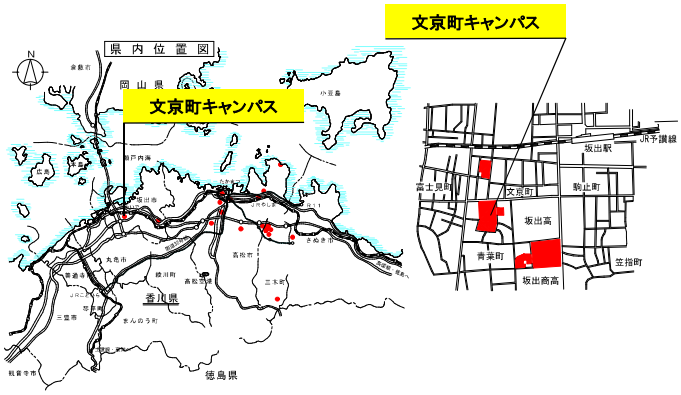
文京町キャンパスの敷地は、約75m×130～140mのほぼ四角形の形状をしており、主要アプローチは北側である。

敷地内の標高は1.4m、高低差は0.8m程度であり、敷地全体としてはほぼ平坦なものとなっている。

地質構成は、表層から16m以深まで砂礫・砂質粘土からなる沖積層が分布しており、建物基礎形式としては、Ｎ値17～26のGL-2.2～-9.8mの砂礫を支持層とする直接基礎が適当といえる。

敷地面積は11,267㎡、敷地内の建物延べ床面積は4,754㎡、建ぺい率22.2%、容積率42.2%となっている。

都市計画上の用途地域は第2種中高層住居専用地域であり、建ぺい率60%、容積率200%が上限となっている。



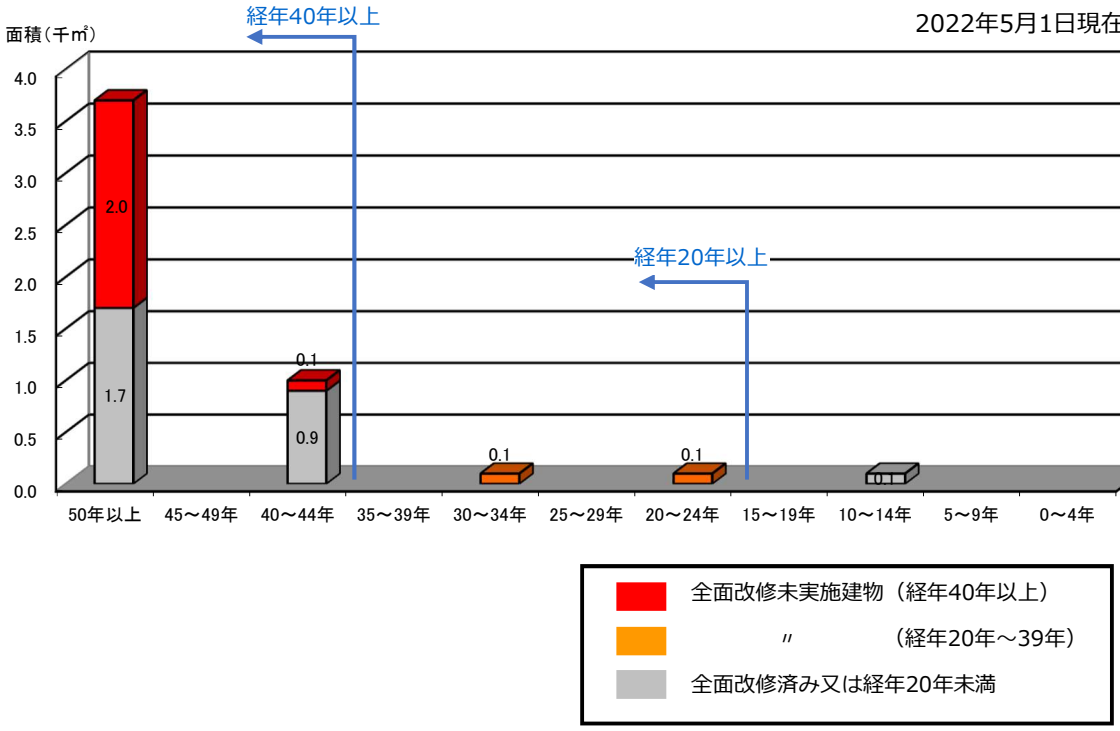
文京町キャンパス

6－5．附属学校園キャンパス　【4】文京町キャンパス

3）老朽化状況

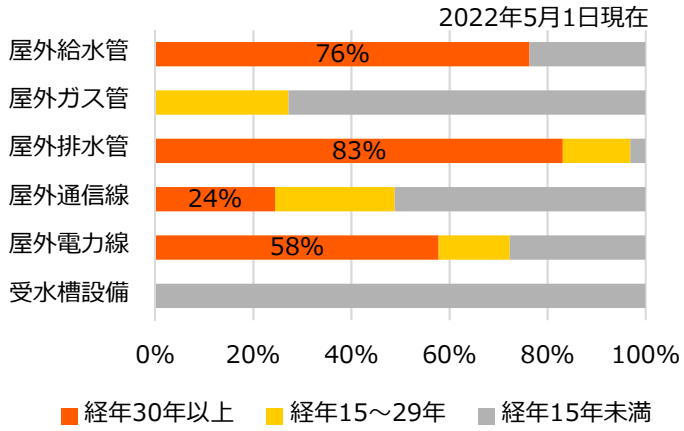
■建物

文京町キャンパスの建物は、全面改修未実施建物のうち、経年40年以上が約2,100㎡、経年20～39年が約200㎡である。建物の長寿命化に必要な全面改修時期である経年40年以上の建物について、計画的な整備が必要である。



■ライフライン

文京町キャンパスのライフラインは、事故発生率が大きく上昇する経年30年以上の屋外給水管・屋外排水管・屋外通信線・屋外電力線について、計画的な更新が必要である。



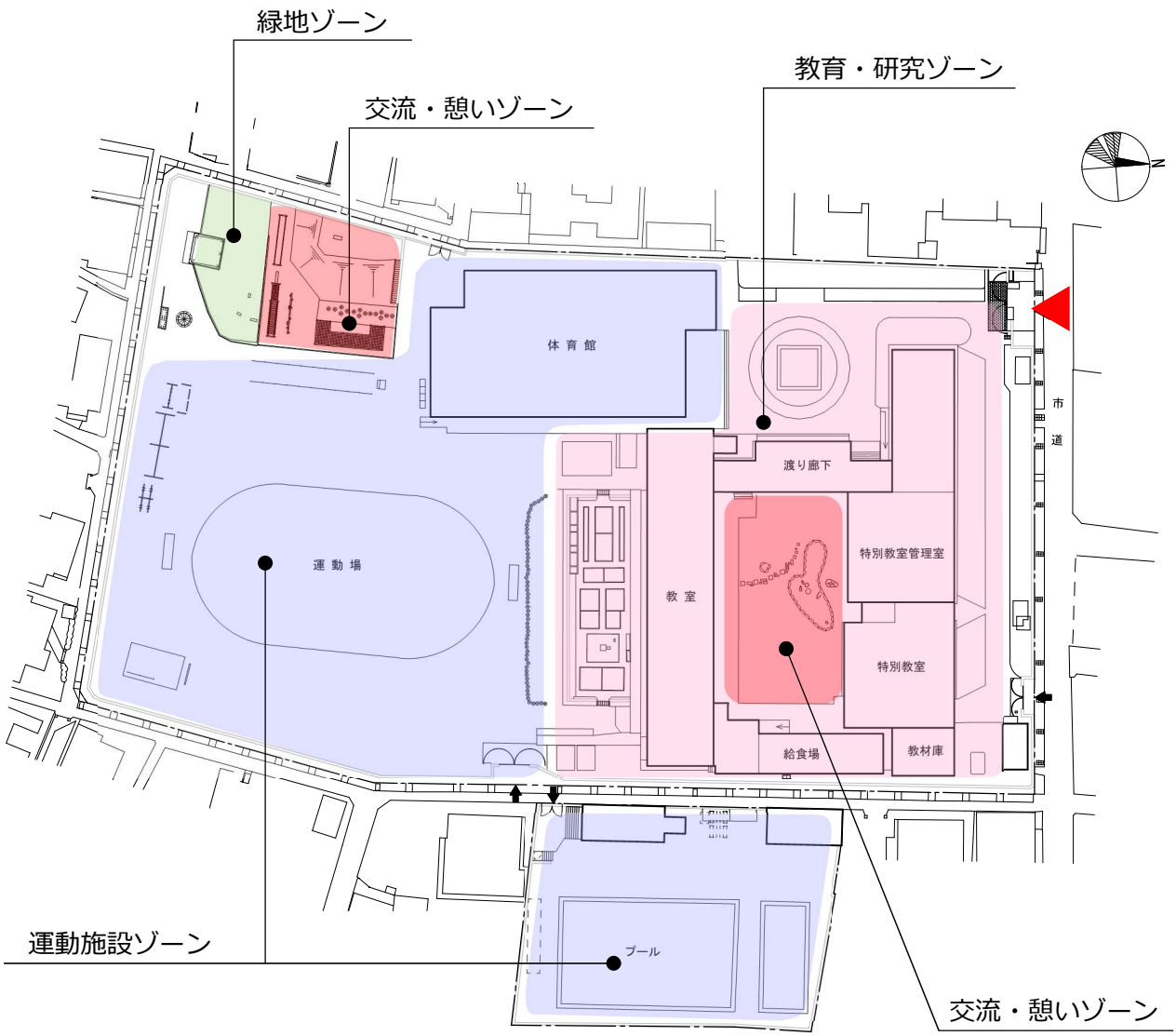
6－5．附属学校園キャンパス　【4】文京町キャンパス

（2）ゾーニング計画

ゾーニングについては、既存の配置を見据えながら各ゾーンの現状・発展性・機能性等を考慮しつつ合理的な活用を図る計画とする。

本キャンパスは、児童の主体的な学習活動等を支援するため『教育・研究ゾーン』、『運動施設ゾーン』、『緑地ゾーン』を設定する。

また、児童等が学校生活に潤いを感じ、学習など弾力的に利用可能なフィールドワーク機能を有した『交流・憩いゾーン』を『教育・研究ゾーン』の中心地及び『運動施設ゾーン』付近に設定する。



凡例	名　称	凡例	名　称
	教育・研究ゾーン		運動施設ゾーン
	交流・憩いゾーン		緑地ゾーン
▲	主要アプローチ		

6－5．附属学校園キャンパス　【4】文京町キャンパス

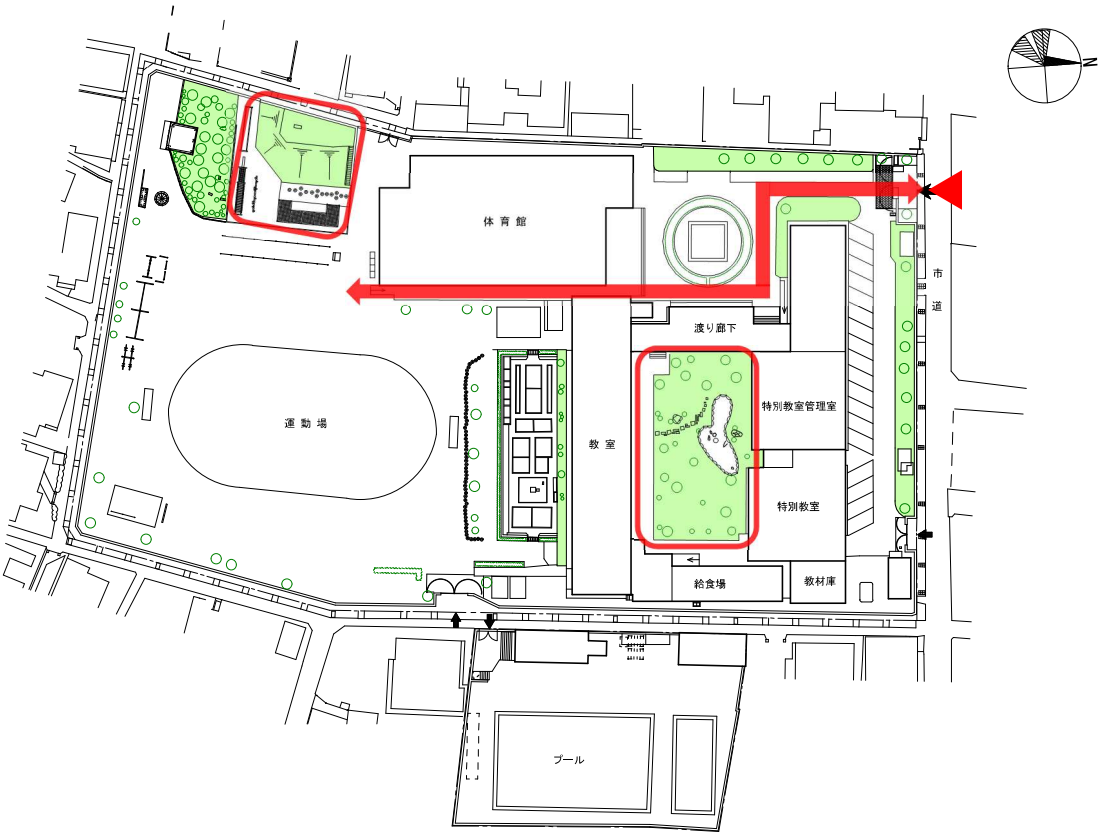
（3）パブリックスペース・緑地計画

■現状の課題等

中庭記念樹木周辺及び運動場西側に緑地を含むパブリックスペースが配置されており、生徒が見て楽しむ憩いのスペースとして、また自然学習を行うスペースとして有効活用されている。

■課題解決の方向性

継続して適切な維持管理を図る。



凡　例

歩行者主動線（メインストリート）
緑地
パブリックスペース

6－5．附属学校園キャンパス　【4】文京町キャンパス

（4）動線計画

1）キャンパス動線

■現状の課題等

東側プールエリアと道路で分断されており、通行時に危険性が高いため対策が必要である。
北入口①は歩車分離がなされていないため安全性が低く、また、構内通路においても同様であるため対策が必要である。

■課題解決の方向性等

東側プールエリアへの動線については、カーブミラーの設置等により視認性の向上を図る。
路面標示による歩車道分離整備を行い安全性の確保を図る。

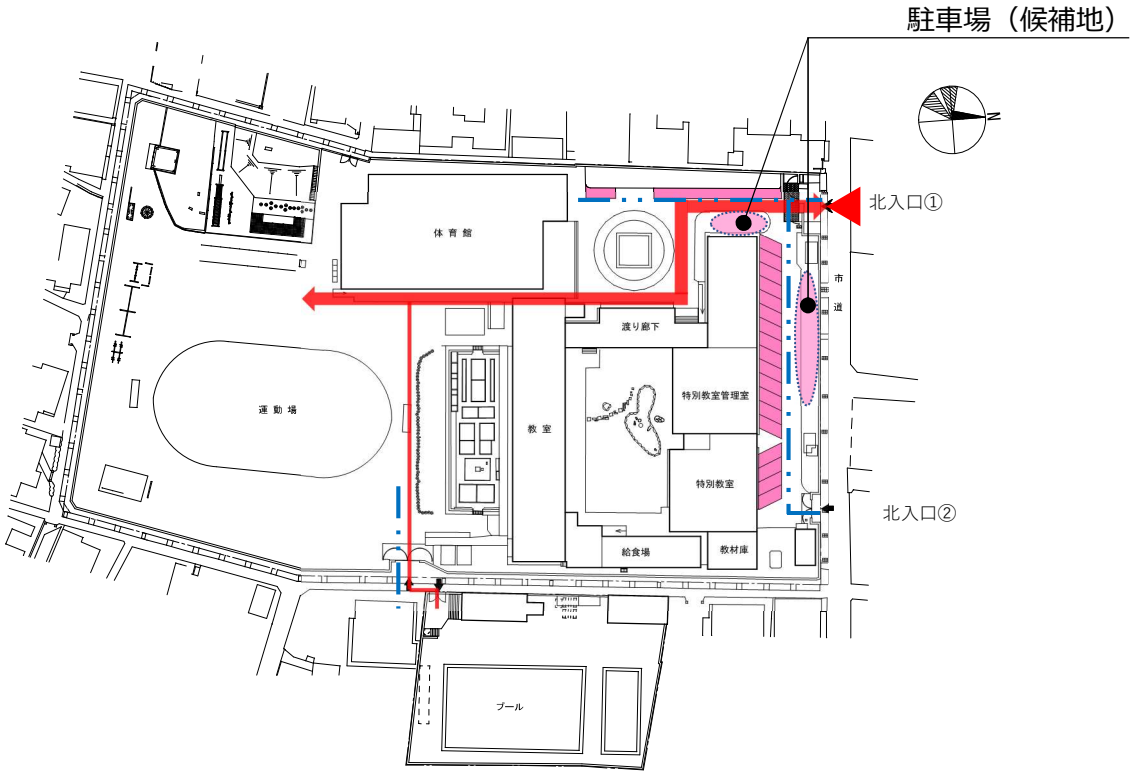
2）駐車

■現状の課題等

敷地北側に駐車場を集約しているが、駐車台数が不足しており緑地部に駐車されている。

■課題解決の方向性

緑地部を駐車場として整備することで駐車スペースの確保を図る。



凡　例

- 歩行者主動線（メインストリート）
- 駐車場
- 歩行者副動線
- 車両動線

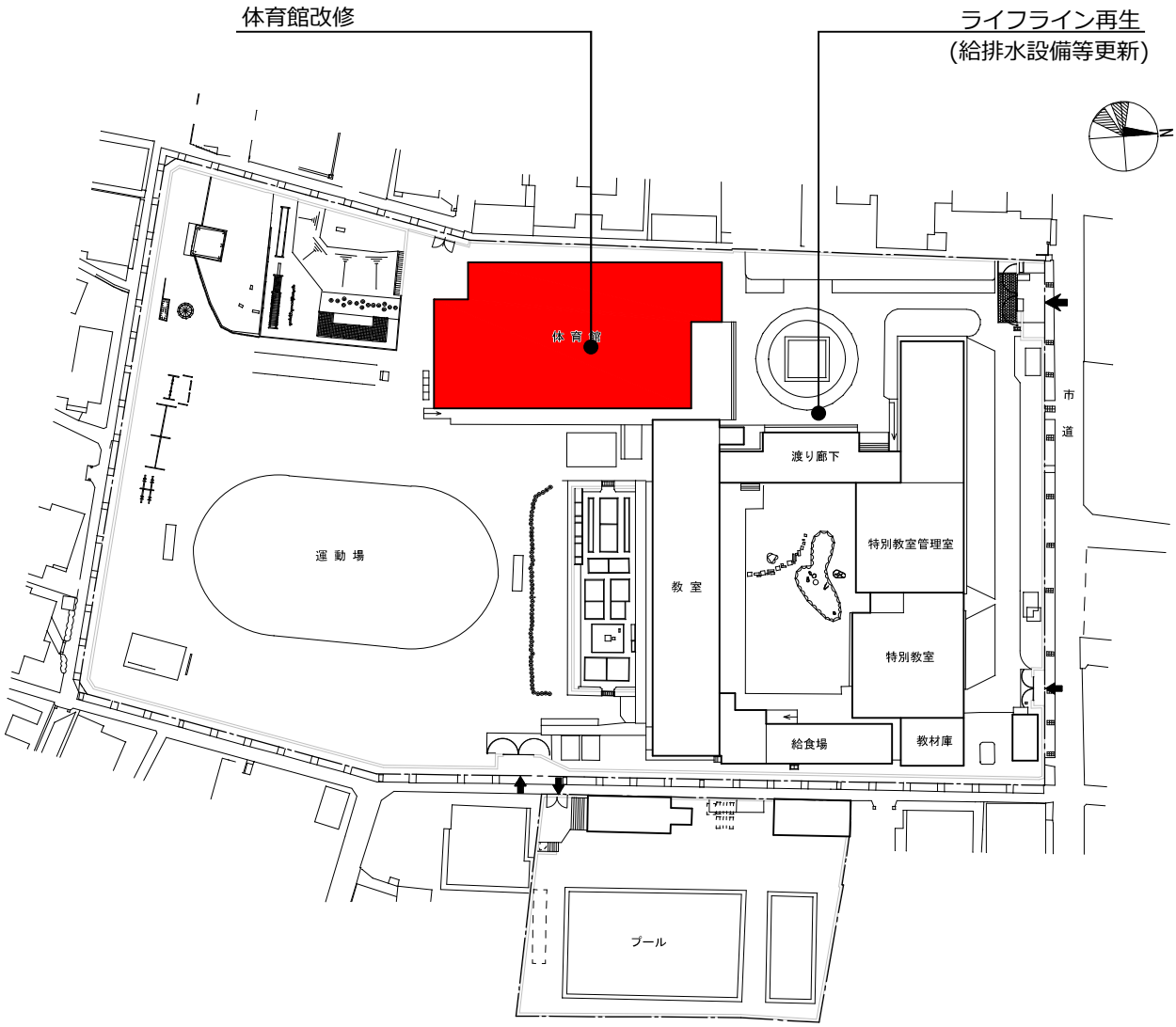
6－5．附属学校園キャンパス　【4】文京町キャンパス

（5）キャンパス整備計画

整備方針及び老朽化状況等を踏まえ、本キャンパスの整備計画は下表のとおりとする。

整備計画

事業名	概要	建築年	R4		R5		R6		R7		R8		R9	
			4	10	4	10	4	10	4	10	4	10	4	10
●全面改修														
体育館改修	RS2(798㎡)	1972年												
●ライフライン再生														
ライフライン再生 (給排水設備等更新)														



６－５． 附属学校園キャンパス

【５】青葉町キャンパス

6－5．附属学校園キャンパス　【5】青葉町キャンパス

（1）キャンパス概要

1）キャンパスの経緯

青葉町キャンパスは、昭和24年香川大学香川師範学校附属坂出中学校として設置され、昭和25年に現在地に移転、昭和26年香川大学学芸部附属坂出中学校と改称、昭和41年香川大学教育学部附属坂出中学校と改称し現在に至っている。

2）キャンパス環境

①キャンパスの立地環境

青葉町キャンパスは、香川県の坂出市市街地中心部に位置し、大学本部のある幸町キャンパスから約17kmの距離にある。近隣に高校・附属小学校・幼稚園があり文教地区を形成している。

キャンパスは東側の歩道付き市道（幅員7.2m）、北側及び西側は細い市道（幅員2.7m）に面している。

本キャンパスは、坂出市市街地中心部に位置していることや、ＪＲ予讃線の坂出駅から徒歩約10分の場所にあること等から、公共交通の利便性は良い。

なお、香川県全域は南海トラフ地震防災対策推進地域であり、この場所も該当する。

②敷地条件

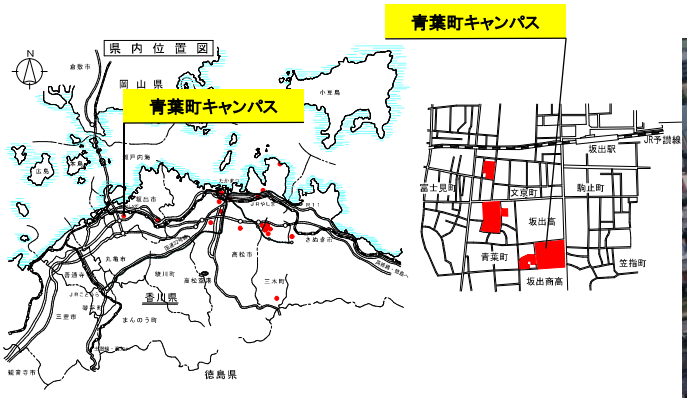
青葉町キャンパスの敷地は、道路により東西にキャンパスが分断されている。東側は約110m×110mのほぼ四角形の形状をしており、主要アプローチは東側である。また、西側は約80m×30mの長方形に近い形状をしており、主要アプローチは南西側である。

敷地内の標高は2.2m、高低差は1.2m程度であり、敷地全体としてはほぼ平坦なものとなっている。

地質構成は、表層から16m以深まで砂礫・砂質粘土からなる沖積層が分布しており、建物基礎形式としては、Ｎ値17～26のGL-2.2～-9.8mの砂礫を支持層とする直接基礎が適当といえる。

敷地面積は14,322㎡、敷地内の建物延べ床面積は5,670㎡、建ぺい率22.1%、容積率39.6%となっている。

都市計画上の用途地域は第２種中高層住居専用地域であり、建ぺい率60%、容積率200%が上限となっている。



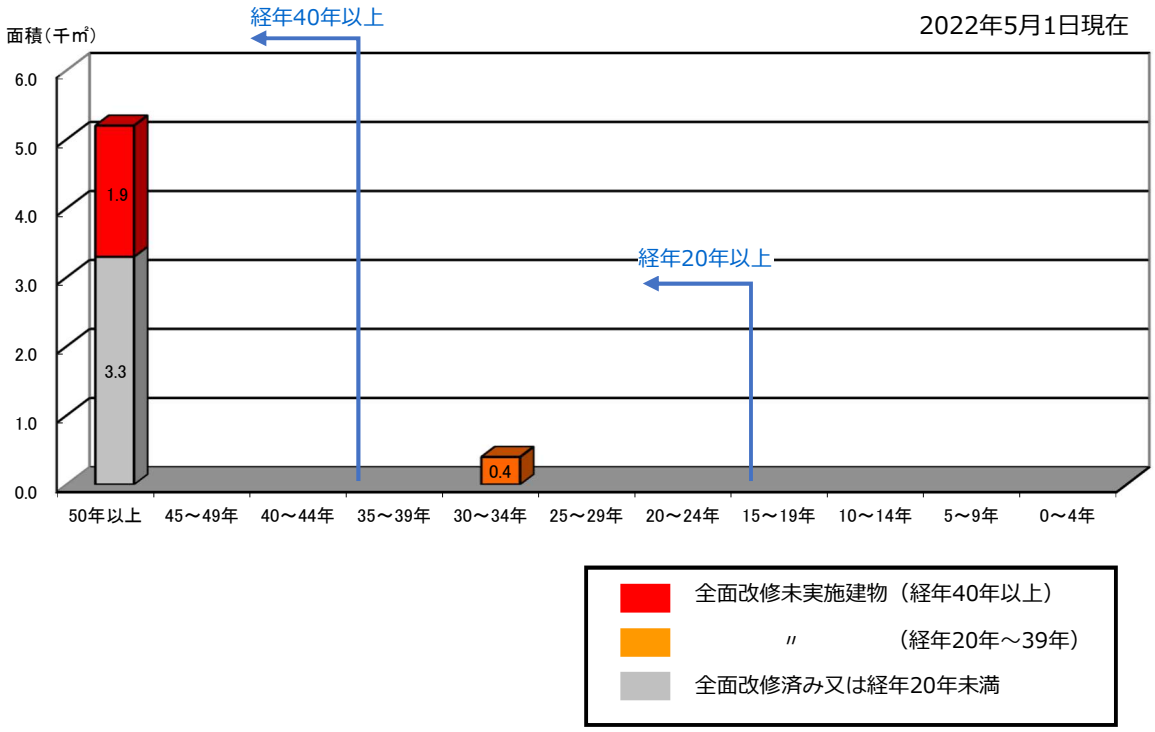
青葉町キャンパス

6－5．附属学校園キャンパス　【5】青葉町キャンパス

3）老朽化状況

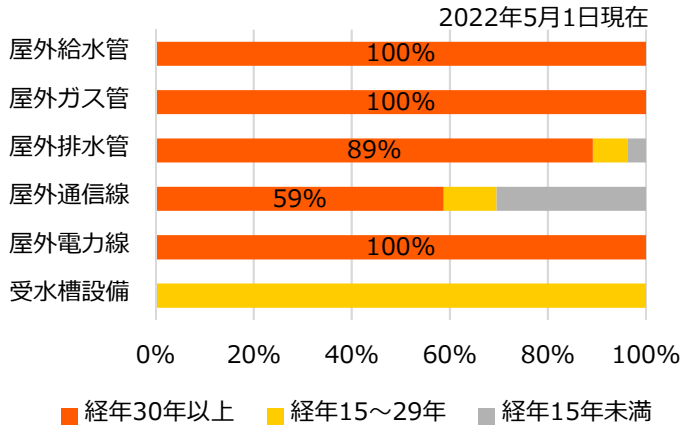
■建物

青葉町キャンパスの建物は、全面改修未実施建物のうち、経年40年以上が約1,900㎡、経年20～39年が約400㎡である。建物の長寿命化に必要な全面改修時期である経年40年以上の建物について、計画的な整備が必要である。



■ライフライン

青葉町キャンパスのライフラインは、事故発生率が大きく上昇する経年30年以上の屋外給水管・屋外ガス管・屋外排水管・屋外通信線・屋外電力線について、計画的な更新が必要である。



6－5．附属学校園キャンパス　【5】青葉町キャンパス

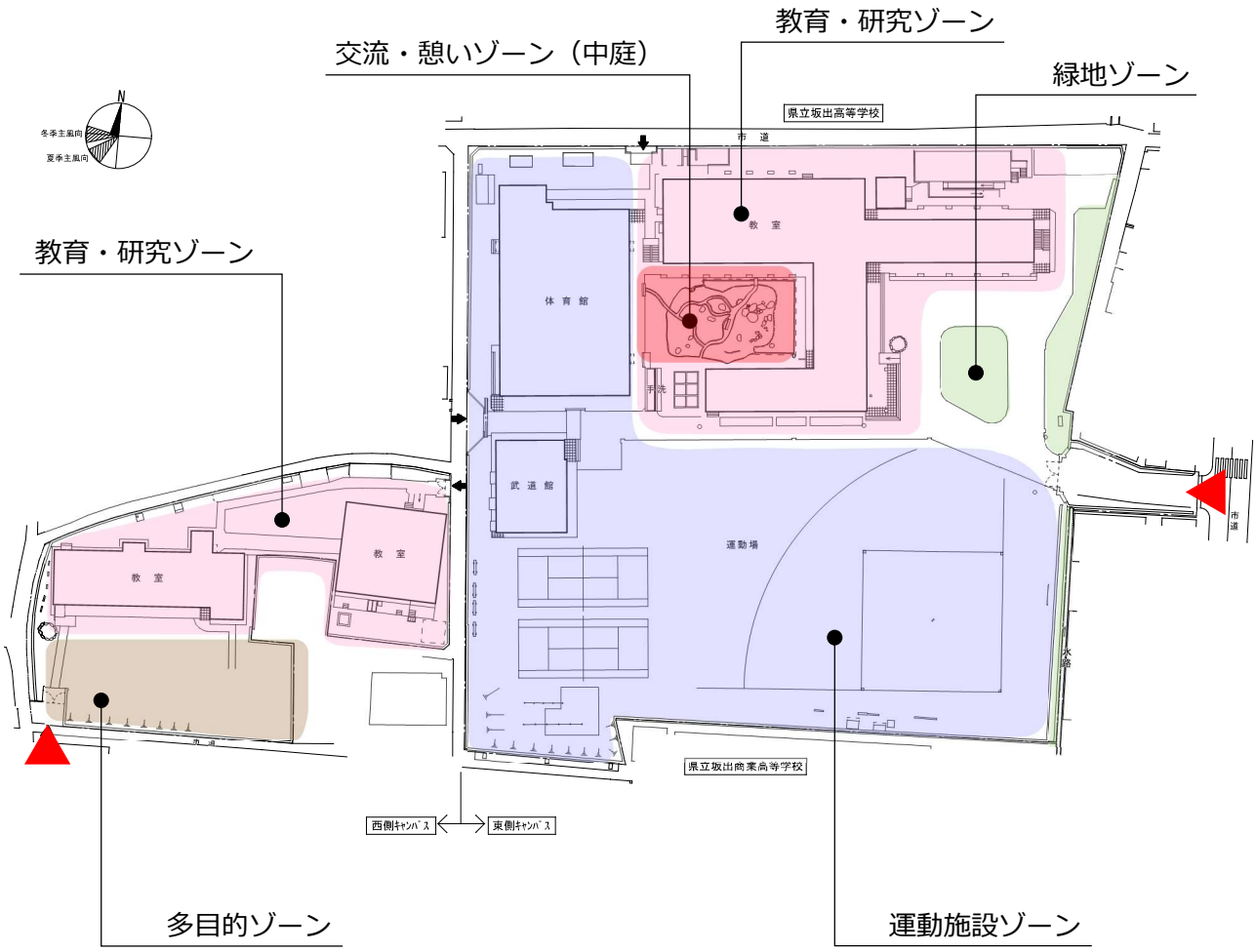
（2）ゾーニング計画

ゾーニングについては、既存の配置を見据えながら各ゾーンの現状・発展性・機能性等を考慮しつつ合理的な活用を図る計画とする。

本キャンパスは道路をはさみ、東側キャンパス、西側キャンパスに分かれている。

東側キャンパスは、生徒の主体的な学習活動等を支援するため『教育・研究ゾーン』、『運動施設ゾーン』、『緑地ゾーン』を設定する。また、生徒等が学校生活に潤いを感じ、学習など弾力的に利用できるように、校舎と体育館に囲まれた中庭にフィールドワーク機能を有した『交流・憩いゾーン』を設定し、それぞれのゾーンと有機的な繋がりをもった構成とする。

西側キャンパスは、生徒の主体的な学習活動等を支援する『教育・研究ゾーン』及び将来計画に対応可能な『多目的ゾーン』を設定する。



凡例	名　称	凡例	名　称
	教育・研究ゾーン		運動施設ゾーン
	交流・憩いゾーン		緑地ゾーン
	多目的ゾーン	▲	主要アプローチ

6－5．附属学校園キャンパス　【5】青葉町キャンパス

（3）パブリックスペース・緑地計画

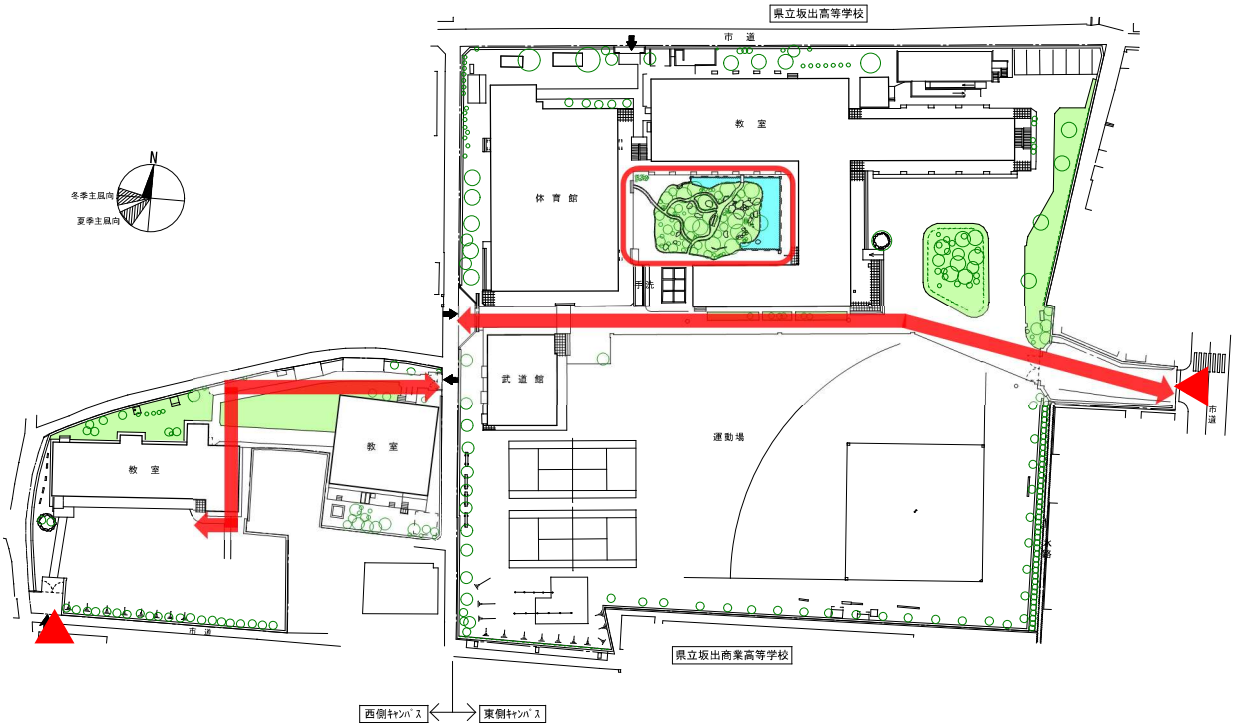
■現状の課題等

東側キャンパス教室の中庭に、生徒が見て楽しむ憩いのスペースとしてパブリックスペースが整備されている。

民家に隣接する部分には緩衝帯として緑地が整備されている。

■課題解決の方向性

継続して適切な維持管理を図る。



凡　例

⟷	歩行者主動線（メインストリート）		緑地
▭	パブリックスペース		広場

6－5．附属学校園キャンパス　【5】青葉町キャンパス

（4）動線計画

1）キャンパス動線

■現状の課題等

東側キャンパスについては、東西の主要動線から各棟へのアクセスがあり、主要アプローチは東側市道から（西側アプローチは歩行者のみ）である。西側キャンパスについては、主要アプローチは南側からとなっている。

■課題解決の方向性

継続して適切な維持管理を図る。

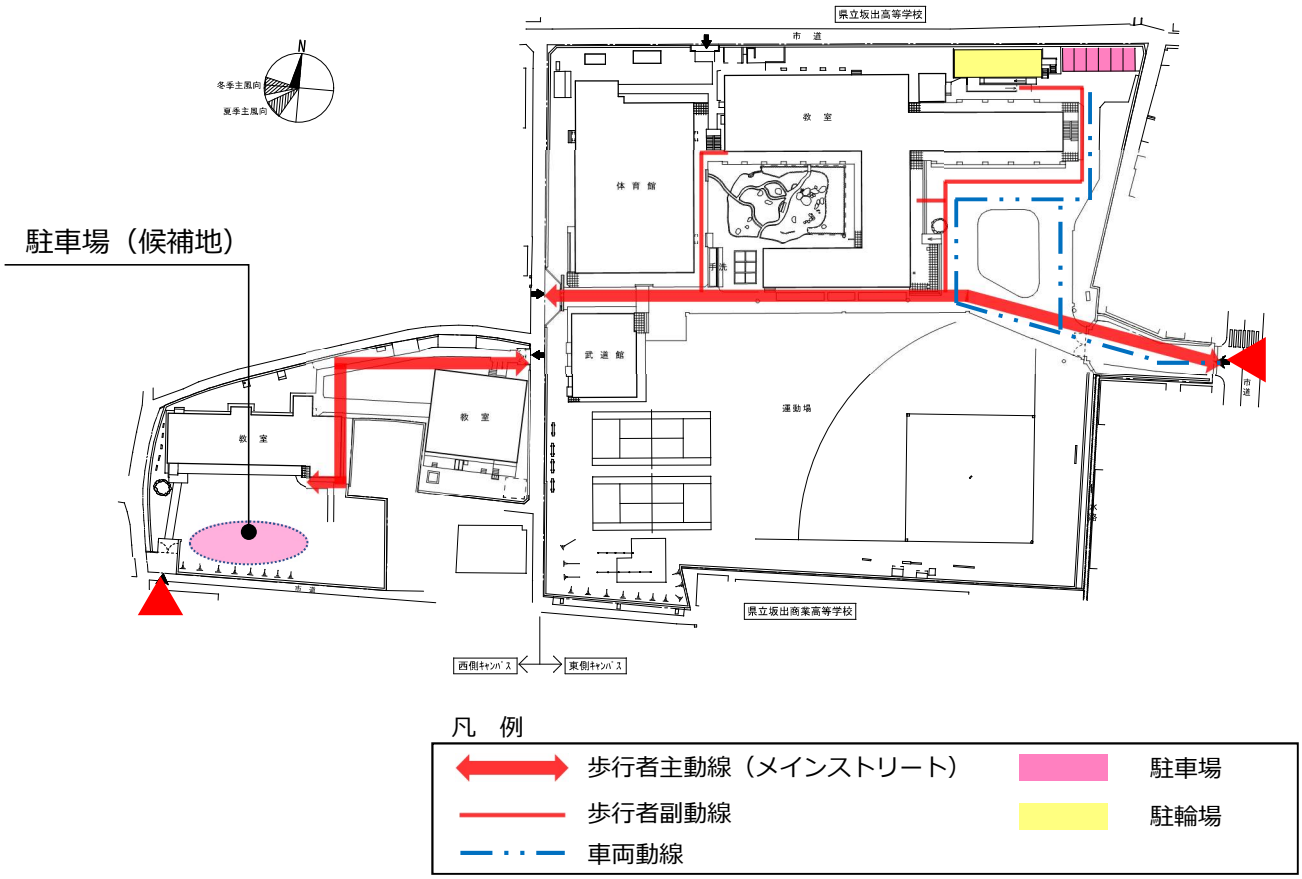
2）駐車・駐輪場

■現状の課題等

東側キャンパスについては、駐車場スペースが狭く、校舎東側ロータリーに駐車されており、通行の支障となっている。

■課題解決の方向性

西側キャンパスの南側に駐車場を集約整備することで、駐車場不足の解消と共に校舎東側ロータリー部の有効スペースの確保を図る。



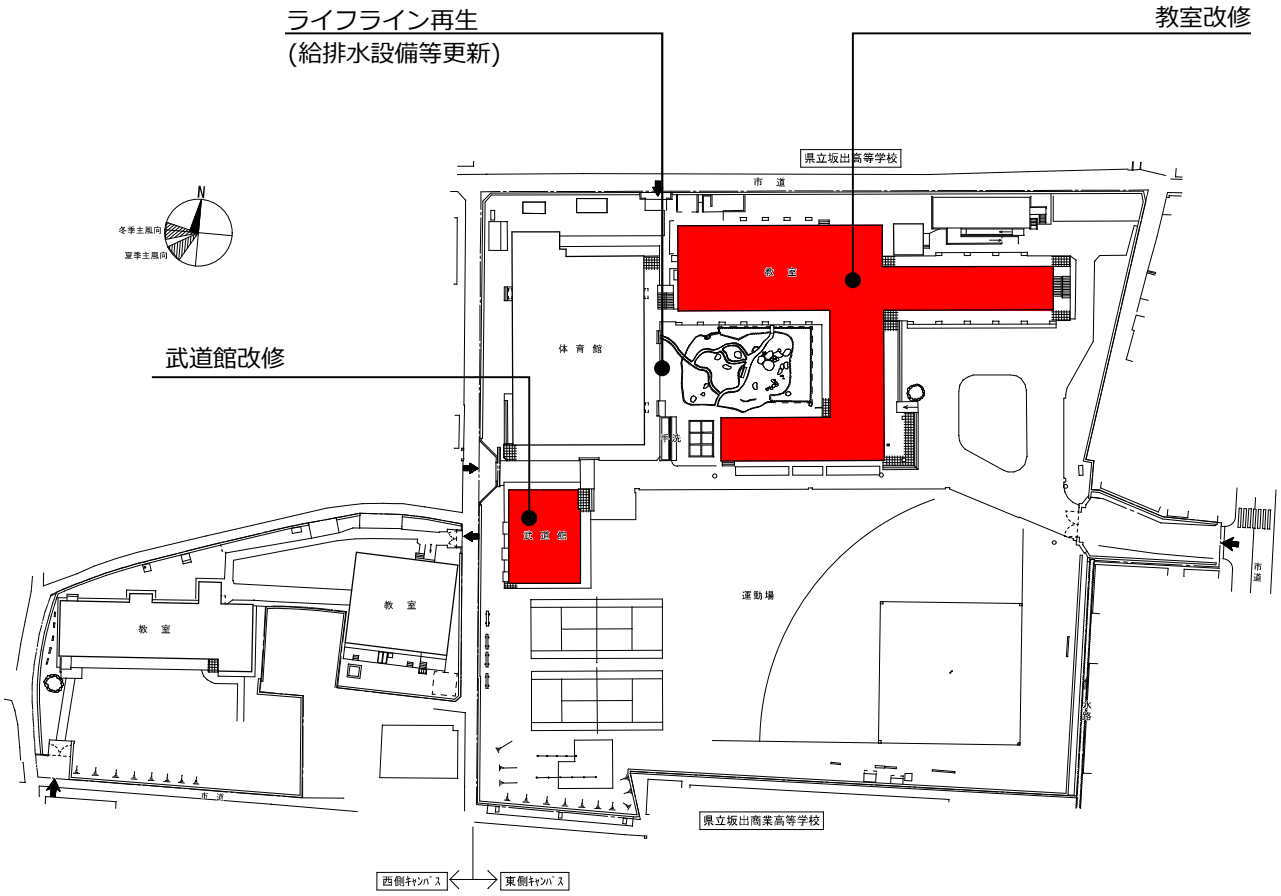
6－5．附属学校園キャンパス　【5】青葉町キャンパス

（5）キャンパス整備計画

整備方針及び老朽化状況等を踏まえ、本キャンパスの整備計画は下表のとおりとする。

整備計画

事業名	概要	建築年	R4		R5		R6		R7		R8		R9	
			4	10	4	10	4	10	4	10	4	10	4	10
●部分改修														
教室改修	R4(3,312㎡) (外壁･内部改修)	1969年												
武道館改修	RS2(403㎡) (外壁･屋根改修)	1988年												
●ライフライン再生														
ライフライン再生 (給排水設備等更新)														



６－５．　附属学校園キャンパス

【６】府中キャンパス

6－5．附属学校園キャンパス　【6】府中キャンパス

（1）キャンパス概要

1）キャンパスの経緯

府中キャンパスは、昭和50年香川大学教育学部附属養護学校として設置され、平成19年に教育学部附属特別支援学校と改称し現在に至っている。

2）キャンパス環境

①キャンパスの立地環境

府中キャンパスは、香川県の坂出市市街地中心部から約7kmに位置し、大学本部のある幸町キャンパスからは約12kmの距離にある。近隣は西側に二級河川（綾川）、東側及び南側に山林、北側に住居や田園が広がっている。

キャンパスは南側の市道（幅員7.6m）に接している。

本キャンパスは、坂出市市街地中心部から離れていることや、ＪＲ予讃線の讃岐府中駅から徒歩5分の場所にあるが列車の本数が少ないことから、公共交通の利便性は良くない。

なお、香川県全域は南海トラフ地震防災対策推進地域であり、本キャンパスも該当する。

②敷地条件

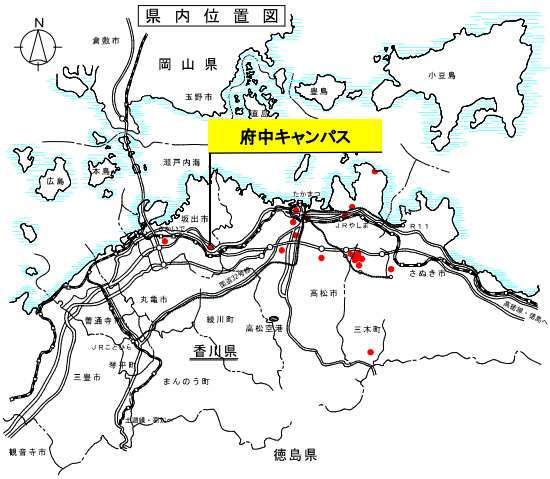
府中キャンパスの敷地は、約80～120m×140～170mの複雑な形状をしており、主要アプローチは南側である。

敷地内の標高は23.5m、高低差は15.1m程度でアプローチから急勾配となっている。

地質構成は、表層から花崗岩風化土で、基盤を構成するものは、白亜紀の花崗岩類でありＮ値は36～50以上と非常に密であることから、建物基礎形式としては直接基礎が最適といえる。

敷地面積は10,804㎡、敷地内の建物延べ床面積は3,488㎡、建ぺい率21.5%、容積率32.3%となっている。

都市計画上の用途地域は無指定であり、建ぺい率70%、容積率200%が上限となっている。また、本キャンパスの一部は周知の埋蔵文化財包蔵地となっている。



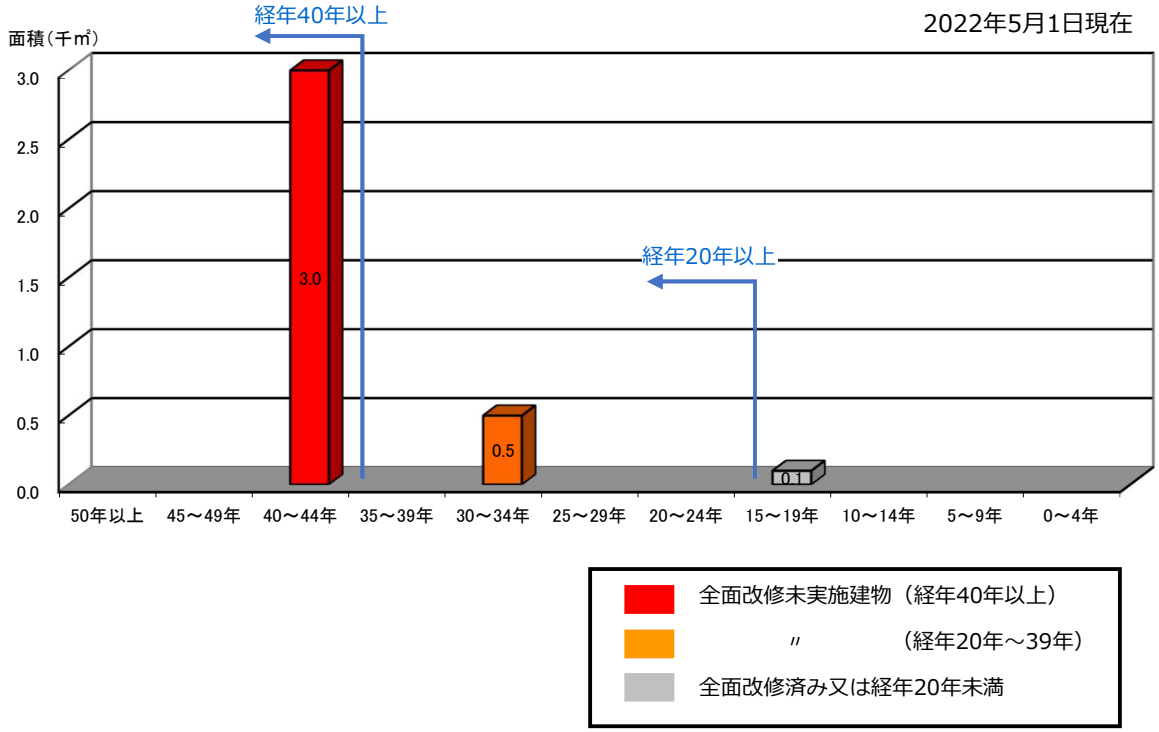
府中キャンパス

6－5．附属学校園キャンパス　【6】府中キャンパス

3）老朽化状況

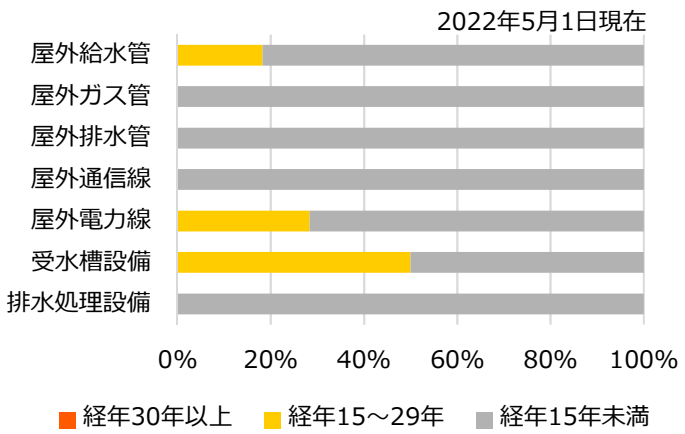
■建物

府中キャンパスの建物は、全面改修未実施建物のうち、経年40年以上が約3,000㎡、経年20～39年が約500㎡である。建物の長寿命化に必要な全面改修時期である経年40年以上の建物について、計画的な整備が必要である。



■ライフライン

府中キャンパスのライフラインは、事故発生率が大きく上昇する経年30年以上のものはないが、計画的な維持管理が必要である。

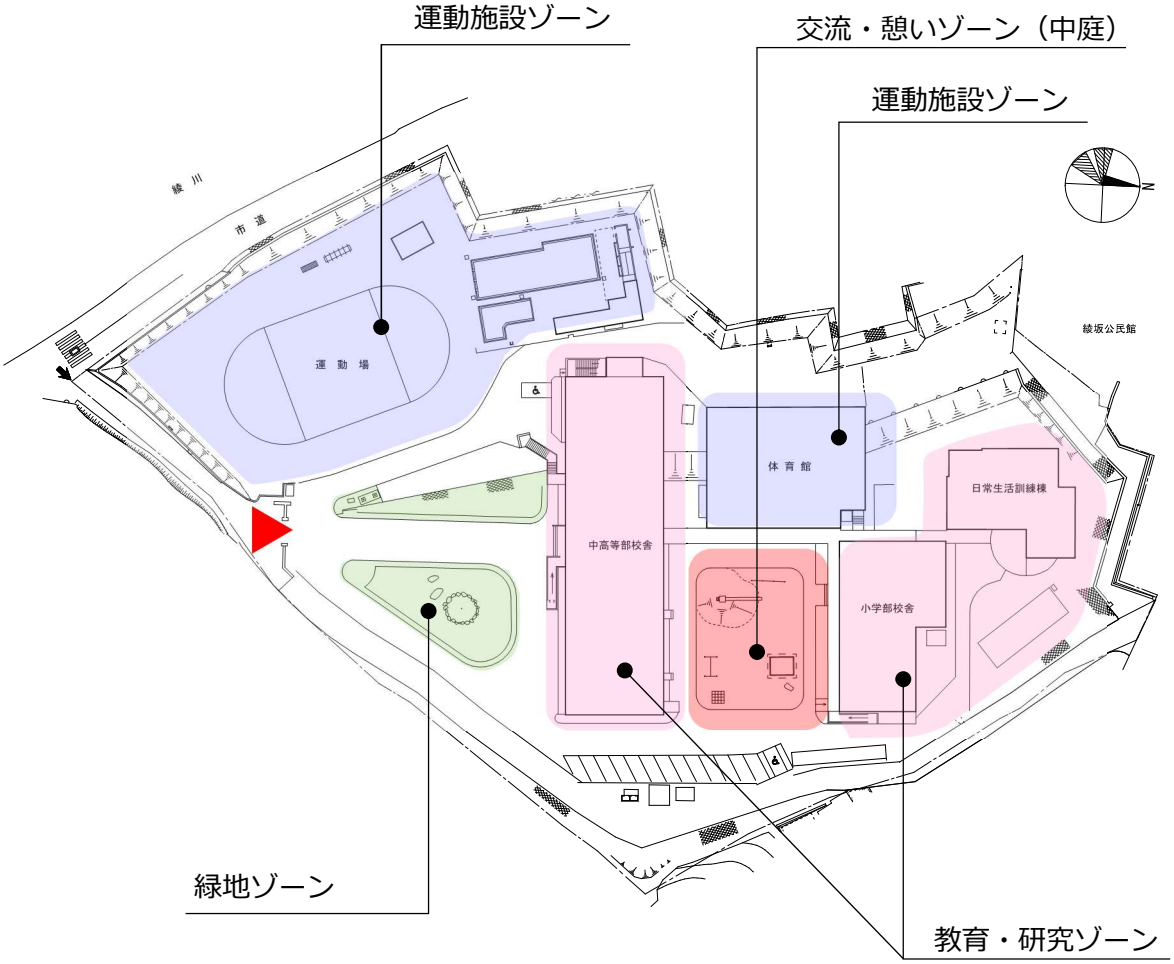


6－5．附属学校園キャンパス　【6】府中キャンパス

（2）ゾーニング計画

ゾーニングについては、既存の配置を見据えながら各ゾーンの現状・発展性・機能性等を考慮しつつ合理的な活用を図る計画とする。

本キャンパスは、障害の状態及び発達の段階や特性等に応じて児童生徒の教育的ニーズに対応した指導・支援等を行うため『教育・研究ゾーン』、『運動施設ゾーン』、『緑地ゾーン』を設定する。また、『教育・研究ゾーン』及び『運動施設ゾーン』の接点である中庭に児童生徒等がゆとりと潤いをもって学校生活を送ることができ、他者との関わりの中で豊かな人間性を育成することができるよう『交流・憩いゾーン』を設定し、それぞれのゾーンと有機的な繋がりをもった構成とする。



凡例	名　称	凡例	名　称
	教育・研究ゾーン		運動施設ゾーン
	交流・憩いゾーン		緑地ゾーン
▲	主要アプローチ		

6－5．附属学校園キャンパス　【6】府中キャンパス

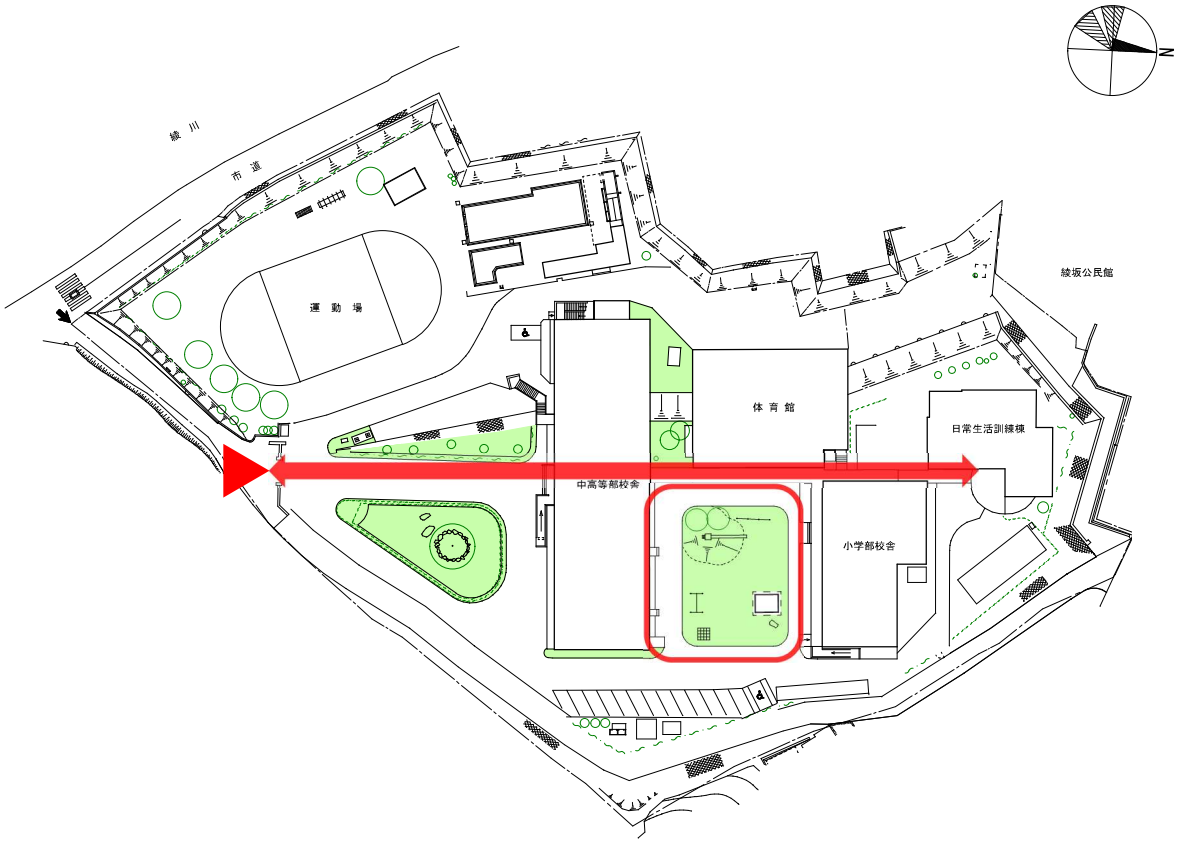
（3）パブリックスペース・緑地計画

■現状の課題等

中庭に生徒が集い、交流できる場として緑地を含むパブリックスペースが整備されており、フィールドワーク等に活用されている。

■課題解決の方向性

継続して適切な維持管理を図る。



凡　例

歩行者主動線（メインストリート）	緑地
パブリックスペース	

6－5．附属学校園キャンパス　【6】府中キャンパス

（4）動線計画

1）キャンパス動線

■現状の課題等

自動車の出入りは南側からのみとなっているが、登下校の生徒動線と交錯し危険性が高い。また、傾斜路から中高等部校舎へ至る主要動線及び運動場側動線も、歩車分離がなされておらず、中高等部校舎北側においては、通路の幅員が狭く、駐車・駐輪スペースと交錯しているため安全性が低い。

■課題解決の方向性

主要アプローチから歩行者主動線及び運動場側副動線において、路面標示による歩車分離整備を行い、通行時の安全性を確保する。

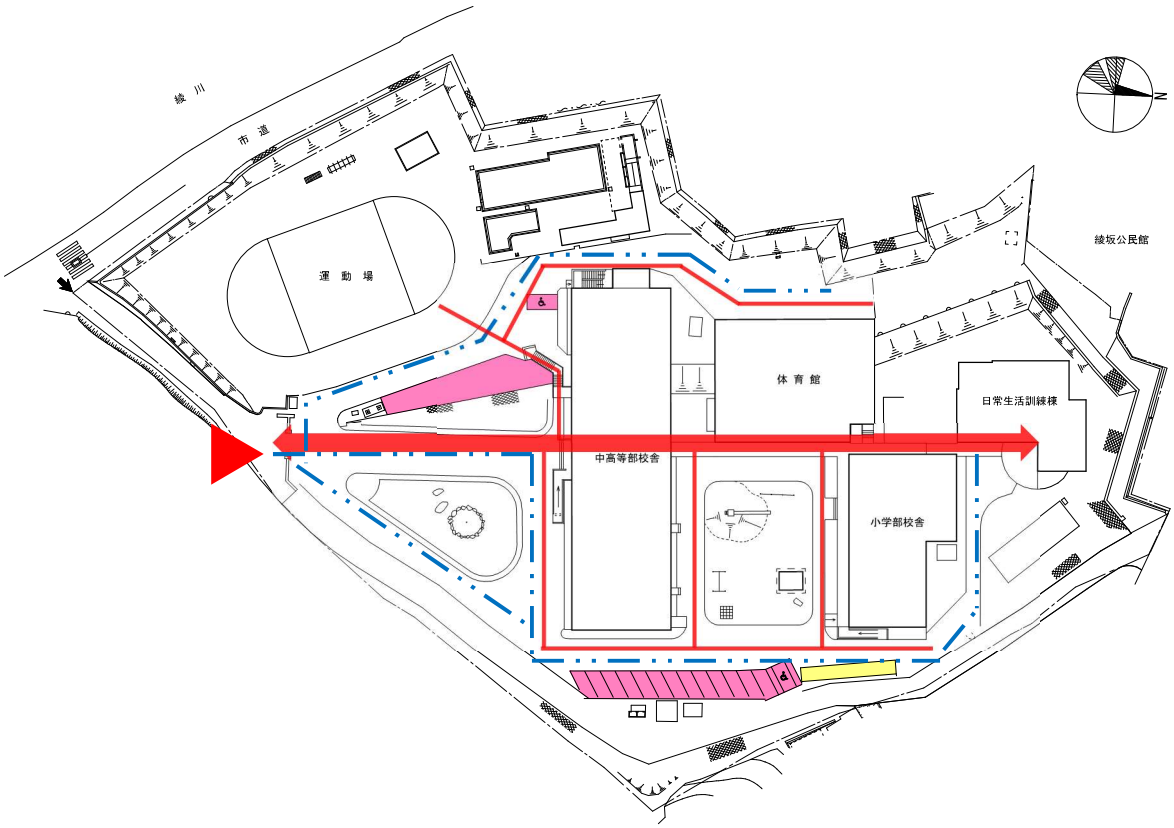
2）駐車・駐輪場

■現状の課題等

駐車場は、中高等部校舎の東側及び南側に設置され、駐輪場は小学部校舎東側に設置されている。共に校舎に近く利便性が高い。

■課題解決の方向性

継続して適切な維持管理を図る。



凡　例

⟷	歩行者主動線（メインストリート）	■	駐車場
―	歩行者副動線	■	駐輪場
―・・―	車両動線		

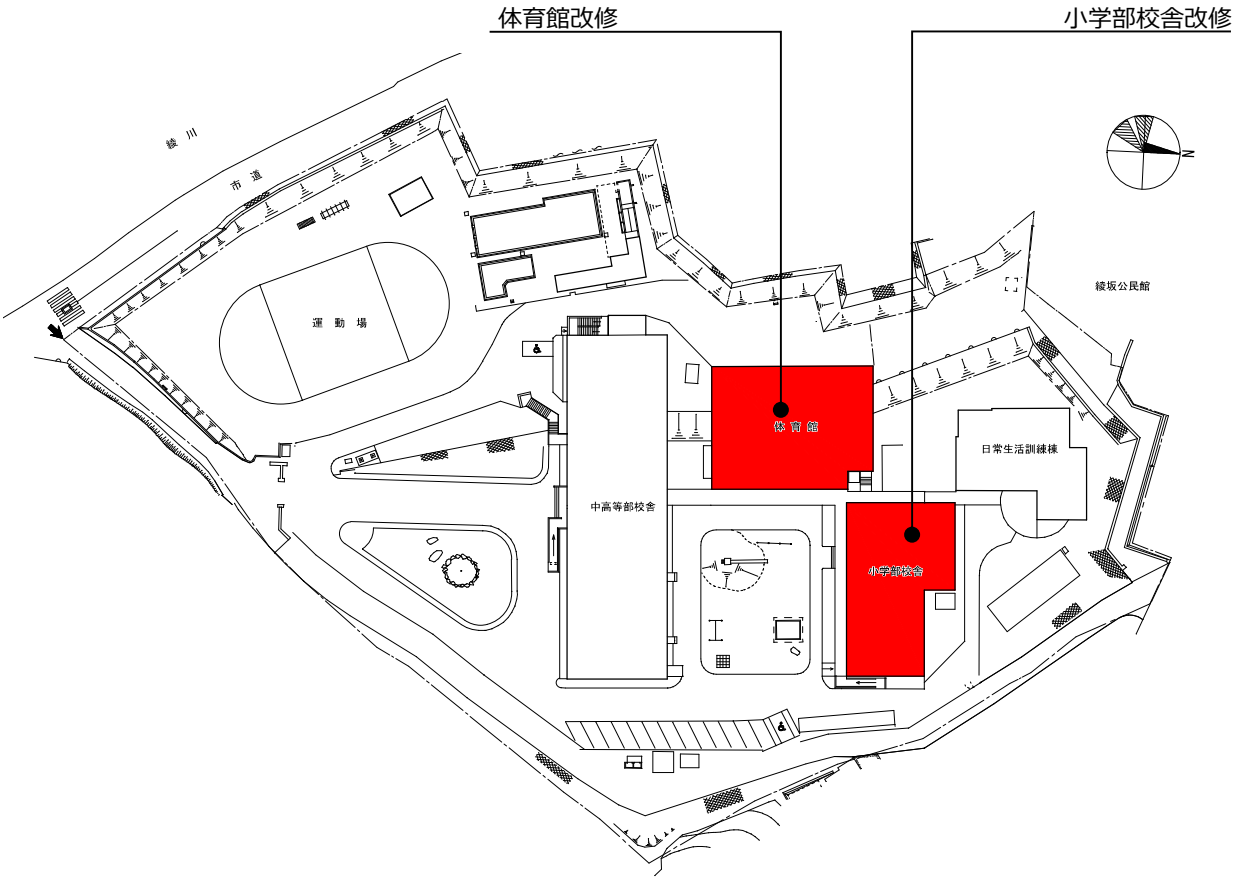
6－5．附属学校園キャンパス　【6】府中キャンパス

（5）キャンパス整備計画

整備方針及び老朽化状況等を踏まえ、本キャンパスの整備計画は下表のとおりとする。

整備計画

事業名	概要	建築年	R4		R5		R6		R7		R8		R9	
			4	10	4	10	4	10	4	10	4	10	4	10
●全面改修														
小学部校舎改修	R1(420㎡)	1978年												
体育館改修	RS1-1(591㎡)	1978年												



イノベーション・コモンズとは （出典：文部科学省「「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」の実現に向けて」）

国立大学等キャンパス・施設の目指すべき方向性

○ **Society 5.0の実現**に向け、国立大学等において、**地域・社会における課題解決や新たなイノベーション創出**等の視点から、ソフト・ハード一体となった教育研究環境の整備充実を図ること等が求められている。

○ **学生や教職員、地域や産業界などの社会の多様なステークホルダーが大学等のキャンパス・施設を最大限活用し共創することで、新たな価値等を生み出していく**ことが必要。

©2020 イラストレーションヤノ 矢野竜

イノベーション・コモンズの実現に向けて

○ 「イノベーション・コモンズ」とは、**ソフト・ハードの取組が一体**となり、**多様なステークホルダーが「共創」**できる拠点であり、**大学等のキャンパス全体が有機的に連携して共創活動を実現**する拠点。

○ その実現のためには、**各大学等の「共創」のコンセプトの明確化、キャンパスマスタープラン等の再構築、それらを踏まえた戦略的リノベーション等の施設整備を行うことが重要**であり、**各大学等の特色・強みを生かしていくことが重要。**

共創活動を支えるキャンパス・施設整備の事例等の整理

世界をリードする最先端研究の推進

- 世界をリードする最先端研究拠点
- 最先端研究ツール活用を中心とした共創拠点

など

産業界との共創による地域産業振興等への貢献

- 地域産業振興の研究拠点
- スタートアップ創出のための拠点

など

社会課題の解決への貢献

- 実証実験の場としてのキャンパス整備
- カーボンニュートラル（ZEB等）
- 防災・復興拠点
- 健康・医療への対応

など

地方公共団体や教育機関等との共創による人材育成等の推進

- 地域の人材育成（教育大含む）
- まちづくりと連動したキャンパス整備
- 人材・地域交流
- リカレント教育

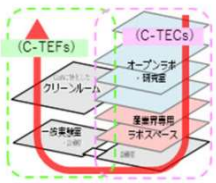
など

全ての活動に共通して必要となる施設面での対応（ミニマム・リクワイアメント）

- 情報通信環境の整備・拡充
- 防災への対応
- ダイバーシティへの対応
- 「新たな日常」への対応
- 再生可能・省エネルギー等の循環型社会への貢献
- フレキシブルな施設整備
- 屋内・屋外の交流空間の充実

＜4つのカテゴリーとミニマム・リクワイアメント＞

最先端のｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ創出



最先端研究と産学官連携を繋ぐ一気通貫の場

産学官金連携したサイエンスパーク型研究開発拠点

地域産業振興 / スタートアップ

隣接した別グループのものづくりや共同研究を可視化（コモンスタジオ）

学生と起業家・地元企業との交流を促進する共創の場

実証実験の場 / 社会課題解決への貢献

キャンパス内道路を活用した自動運転の実証実験を実施

市の防災公園や図書館、カフェ等が入った市民開放型施設とキャンパスを一体的に整備

地域交流 / 人材育成

オープンでフレキシブルな空間に多様な居場所をつくり交流を創出

企業と学生の交流によるデータサイエンティスト人材育成

香川大学が目指すイノベーションコモンズ

「組織」対「組織」の研究連携をマネジメントするオープンイノベーションのプラットフォームとして、「イノベーションデザイン研究所」を設置。更なる活動拠点施設の整備や、「リサーチファーム」機能の拡充・強化により、産官学の共創による地域のデザイン思考の拠点を目指す。

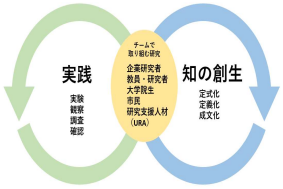
最先端のイノベーション創出

産×官×学による希少糖研究開発拠点化推進

多様なｽﾃｰｸﾎﾙﾀﾞｰとの連携・分野横断的な共創活動を推進

地域産業振興 / スタートアップ

保険会社と実施するMaaSに関する特別共同研究



リサーチファームの目指す「知の創成」サイクル

世界をリードする最先端研究の推進

・世界をリードする最先端研究拠点
・最先端研究ツール活用を中心とした共創拠点　など

◆既存の共創拠点
・希少糖生産ステーション（農学部キャンパス）

◆今後の整備による機能拡充
・医学部総合教育・研究棟
（講義実習棟、基礎臨床研究棟等改修）
・DRI先端医学研究棟(仮称)　など

産業界との共創による地域産業振興等への貢献

・地域産業振興の研究拠点
・スタートアップ創出のための拠点　など

◆既存の共創拠点
・イノベーションデザイン研究所

◆今後の整備による機能拡充
・バイオインフォマティクス研究センター（仮称）
・共創研究棟（農学部キャンパス農産製造実習室）
など

社会課題の解決への貢献

・健康・医療への対応
・社会実装の場としてのサテライト施設の整備
・カーボンニュートラル（ZEB等）
・防災危機管理の教育研究拠点　など

◆既存の共創拠点
・イノベーションデザイン研究所

◆今後の整備による機能拡充
・医学部総合教育・研究棟
（講義実習棟、基礎臨床研究棟等改修）
・放射線治療棟　など

地方公共団体や教育機関等との共創による人材育成等の推進

・リカレント教育
・地域の人材育成
・人材・地域交流　など

◆既存の共創拠点
・地域人材共創センター

◆今後の整備による機能拡充
・総合教育棟（幸町北7号館・ML棟改修）　など

全ての活動に共通して必要となる施設面での対応（ミニマム・リクワイアメント）

・情報通信環境の整備・拡充
・防災への対応　・ダイバーシティへの対応
・「新たな日常」への対応
・再生可能・省エネルギー等の循環型社会への貢献
・フレキシブルな施設整備
・屋内・屋外の交流空間の充実

※この4カテゴリーは、取組の方向性を大別したものであり、本学が目指す「イノベーション・コモンズ」が全てこの4カテゴリーで類型化されるということを示すものではない。

実証実験の場 / 社会課題解決への貢献

DXによる研究成果のデモンストレーション

アイデアソン（ハイブリッドな環境で異なる属性を持つ者同士が意見を出し合う）

地域交流 / 人材育成

屋外空間の活用(多次元ｽﾃｰｼﾞ)
地域への複合芸術の発信の場

地域社会との連携強化
(多次元ﾎｰﾙ)

学内関係規則、ホームページ、関係資料

（１）学内関係規則

・施設マネジメント委員会（全学委員会）所掌の規則・規程等については以下のとおり
１．施設マネジメント委員会規則
２．香川大学における施設の有効活用に関する規程
３．香川大学全学共用スペースの使用内規
４．香川大学省エネルギー対策に関する規程
５．エネルギー管理に関する基本計画
６．エネルギーの使用の合理化及び温室効果ガス排出削減に関する改善方針
７．香川大学における施設の維持管理に関する規程

（２）ホームページ

・香川大学施設環境部ホームページ　→　http://www.kagawa-u.ac.jp/kankyoukanri/
ホームページで公開している主なものは以下のとおり。
１．キャンパスマスタープラン
２．長寿命化計画（個別施設計画）
３．ユニバーサルマップ
４．団地配置図、平面図、航空写真
５．共有スペース（学内専用）
６．各団地毎エネルギー使用量及び使用料金表・グラフ（学内専用）
７．施設点検マニュアル（学内専用）
８．省エネ対策について
９．環境報告書
１０．その他（契約関係、資産管理関係）

（３）関係資料

・香川大学第4期中期目標・中期計画
→　https://www.kagawa-u.ac.jp/files/5616/4938/3386/ichiran20220330.pdf

・文部科学省第5次国立大学法人等施設整備5か年計画（概要）
→　https://www.mext.go.jp/content/20210331-mxt_keikaku-000013601-2.pdf

・文部科学省第5次国立大学法人等施設整備5か年計画
→　https://www.mext.go.jp/content/20210331-mxt_keikaku-000013601-3.pdf

「キャンパスマスタープラン２０２２」策定経緯

平成２２年５月	「香川大学キャンパスマスタープラン２０１０」策定
平成２８年４月	施設マネジメント委員会において「香川大学キャンパスマスタープラン２０１０」の見直しを実施
平成２８年６月	役員会において「香川大学キャンパスマスタープラン２０１６」を承認
平成２９年４月	施設マネジメント委員会において、「香川大学キャンパスマスタープラン２０１６」を改訂
平成２９年４月	役員会において「香川大学キャンパスマスタープラン２０１６」の改訂を承認
平成２９年７月	施設マネジメント委員会において、「香川大学キャンパスマスタープラン２０１６」を改訂
平成２９年７月	役員会において「香川大学キャンパスマスタープラン２０１６」の改訂を承認
平成３０年２月	施設マネジメント委員会において、「香川大学キャンパスマスタープラン２０１６」を改訂
平成３０年３月	役員会において「香川大学キャンパスマスタープラン２０１６」の改訂を承認
令和５年３月	施設マネジメント委員会において、「香川大学キャンパスマスタープラン２０２２」を改訂
令和５年３月	役員会において「香川大学キャンパスマスタープラン２０２２」の改訂を承認

企画・編集

施設マネジメント委員会

委員長	理事・副学長（財務･施設担当）	国分　伸二
委員	理事・副学長（総務・労務担当）	眞鍋　光輝
委員	教育学部　教授	若井　健司
委員	法学部　教授	塚本　俊之
委員	経済学部　教授	加藤　美穂子
委員	地域マネジメント研究科　准教授	佐藤　勝典
委員	医学部　教授	桑原　知巳
委員	創造工学部　教授	石井　知彦
委員	農学部　教授	多田　邦尚
委員	医学部附属病院　教授	小坂　信二
委員	教育・学生支援部長	藤沢　博伸
委員	学術部長	前川　豊弘
委員	企画総務部長	小西　誠二
委員	財務部長	富永　洋和
委員	施設環境部長	平奥　秀幸